

# 古賀詳二の一日一話 (その1)

副題

「理想と現実の狭間の中で夢を諦めるな」

目的：

さて、今年は「松下幸之助の一日一話」に変わり、「古賀詳二の一日一話」を書きたいと思えます。この100年に一度と言われる大不況の中、日々刻々と変わる出来事を通じて諸行無常の世相と自分自身を見つめ、どのように思考・行動したかを記録するものであり、また私の人生観を通じて社員の成長に役立ち、また社員のこれからの人生が多幸であることを祈念するものです。

2009年1月5日  
コガソフトウェア会社  
代表取締役 古賀詳二

(経歴)

1955年11月11日 長崎県南高来郡小浜町に生まれる。  
1974年3月 長崎県立諫早高等学校を卒業する。  
1975年4月 大分大学工学部組織工学科に入学する。  
1979年3月 大分大学工学部組織工学科を卒業する。  
1979年4月 某ソフトウェア会社に入社する。  
2000年2月 同社の経営方針に失望して退職する。  
2000年3月21日 コガソフトウェア株式会社を設立する。  
2001年6月 新潟県長岡市の異業種中小企業(3社)ともに環境ビジネスを模索する(株)ウェブドゥを設立、取締役に就任する。  
2005年8月 安心安全な社会実現を実現する製品を作るネイチャーインターフェース社の取締役に就任する。  
2008年8月 新産業創造を目指すWINヒューマンレコーダー社の取締役に就任する。  
2009年3月31日時点、コガソフトウェアは東京都上野に事務所を置き、社員数130名、年商約10億円(創業時の売上高の約20倍)のjava言語を使用したウェブコンピューティングとコンピュータシステムの基盤構築を得意とするソフトウェア受託開発会社である。主要取引先はNTTコミュニケーションズ殿とNECソフト殿である。

1月5日「神仏」

困ったときの神頼みと不幸や災いがあるときに神仏に頼むことが多い。これでは神仏は願いごとを聞いてくれない。

私は起業した翌年から仕事始めに必ず商売繁盛の神田明神と学問の神様菅原道真を祭ってある湯島天神に祈願する。

毎年神社を訪れるのでその変化に気がつく。神田明神の境内が参拝者で混雑しているとその年の景気は上昇する。

07年は大変混雑していて、景気は良かった。08年は07年の7割くらいの参拝者で、景気は下った。今年は大野さん、羽田君と藤崎君と連れて参拝に行った。今年09年は07年を超えて、道路にも長蛇の列で何処まで行っても最後尾が見つからなかった。出店の焼き鳥を食べながら酒を飲んでいる中年男性が何人もいた。初めての光景であった。毎年、出店で一杯200円の甘酒を飲む。今年は甘酒を片手にして最後尾のほうに歩いたが長蛇の列は大通りまで繋がっていたので参拝を諦め、夕方に再度参拝することにした。

神田明神の神様は今年の日本の景気は上向きになると予測している。昨秋の経済パニックの時には今後どうなることや心配したが今日の神様のお告げは経営者には大変嬉しい。

1月6日「交易利得」

2007年7月頃、1ドル121円だった為替レートが2009年1月6日現在1ドル93円と1年半で30%と円が強くなっている。トヨタは1円の円高で300億円の利益が無くなると報道されていたが、単純な計算で28円の円高で8400億円の利益が無くなることになる。

為替レートの変動で輸入産業と輸出産業では逆の損得の現象が起こる。円高傾向は日本の産業に悪であるかのような報道がなされているが、まったく嘘である。円が強くなることは円の信用が増していることであり、国力があることになる。実際、円高になると輸入品が安くなる。これは給与が同じなら、所得が増えたことになる。例えば、穀物や原油価格が上昇すると物価が上がり、所得は少なくなる。原油価格が下がり、さらに円高になると、市場に出回るガソリン価格は安くなる。私は車を運転しないのでガソリン価格を良く知らない。しかし、ちょっと前まで1リットル180円のガソリンが今では100円を切っていると聞いた。これは賃金が上がったことと同じになる。同様、電力料金やガス料金などの公共料金が下がる傾向にある。これも所得が上がったことに等しい。これらのことを交易利得という。

逆に円安になると日本の所得が国外に流出することになるので、これを交易損失という。円高は国内の所得が上がり、生活が豊になる。円高は日本国及び日本国民に利益になることを知るべきである。日本が輸出産業で利益を出しているのに、円高が良くないといわれる。しかし、日本の製品や技術を欲しい人は世界に沢山いる。また、円高でも技術革新でコストを安くすることも出来る。さらに円高の享受を受けるためには内需拡大をしなければ

ならない。そのためには単純労働の追放による高度技能者の育成、新産業の創出や付加価値のある技術開発、消費活動や娯楽を楽しむ生き方に転換することで内需拡大を推し進めることである。円高が交易利得を増し、富国し、日本国民の所得が増すことを理解してもらいたい。

1月7日 「米百俵」

麻生内閣総理大臣はほんとうに頭が悪い。景気対策の一環で国民全員に一人12,000円を支給して、景気を良くしようとする定額給付金を実施しようとしている。そして、3年後に増税する。支離滅裂である。派遣労働者が契約を打ち切られた後の悲惨な様子を連日テレビで報道しているにもかかわらず、また多くの国民が反対しているにもかかわらずである。私は何時も引用している「米百俵」と対比して、現在の日本国の政治家の無能さに嘆く。

戊辰戦争後、焼土となった長岡の人々は極度の貧窮の中にあつた。その状況を見かねて明治三年、お見舞いとして届けられたのが支藩・三根山藩からの米百俵であつた。一日に三度のおかゆも満足に食べられずにいた藩士やその家族たちは、「これで腹いっぱいのおかゆも食える」とうわさ話で持ち切りとなつた。

しかしその時の長岡藩大参事・小林虎三郎は、「食えないからこそ教育をせねばならない」と、その米を藩士に分配せずに換金し、学校設立のための資金とした。「この米を、一日か二日で食いつぶしてあとに何が残るのだ。国がおこるのも、ほろびるのも、まちが栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある。……この百俵の米をもとにして、学校をたてたいのだ。この百俵は、今でこそただの百俵だが、後年には一万俵になるか、百万俵になるか、はかりしれないものがある。いや、米俵などでは、見つめられない尊いものになるのだ。その日暮らしでは、長岡は立ちあがれないぞ。あたらしい日本はうまれぬぞ。……」と、虎三郎は反対する藩士に喝破し、説いた。

私は社員を米百俵の精神で教育してきた。その結果社員は大きく成長し、IT企業なら何処でも食える人材になっている。政治家も役人も国を構成するすべての国民が古人の苦勞した知恵を参考にして、子々孫々まで希望と夢のある社会を作ってもらいたいと願う。

1月9日「強欲と清貧」

強欲：非常に欲が深いこと

破綻した投資銀行大手リーマン・ブラザーズのCEO（最高経営責任者）だったリチャード・ファルドは米議会の公聴会で不当な報酬について追及された。就任後七年間で四億八千万ドル（約四百八十七億円）の報酬を貰ったのか、それに対して、3億5000万ドル（350億円強）相当の報酬しか貰っていない、退職金も貰っていないと嘯いたそうだ。

清貧：私欲をすてて行いが正しいために、貧しく生活が質素であること

経営再建中の日本航空（JAL）西松遙社長（東京大学経済学部卒業後、1972年に

日本航空入社)の儉約ぶりが話題となっている。JALのパイロットの年収が1900万円程であるにもかかわらず、西松遙社長の年収は960万円であり、都バスで出勤したり、社員食堂の列に並んで会計し、昼食をとったりする。また、社長室を廃止して、他役員と大部屋で仕事しているようだ。その甲斐もあって、経常赤字から脱却し、財務体質も強化されている。見栄のない態度がJALの復活を予感させる。

1月11日 「見込み違い」

リーマン・ブラザーズの破綻に端を発したサブプライムローン問題での世界金融恐慌は大きな見込み違いを生んでいる。

超優良会社のトヨタが昨年12月22日に今年3月の決算で通期見通しを大幅下方修正して営業利益を1500億円の赤字とした。

トヨタ自動車

20年3月期 売上高：2兆2892億円 営業利益：2兆2703億円 経常利益：2兆4372億円

21年3月期見込み 売上高：2兆0000億円 営業利益：6000億円 経常利益：6400億円 11月6日発表時点

21年3月期見込み 売上高：2兆5000億円 営業利益：-1500億円 経常利益：-500億円 12月22日発表時点

僅か一ヶ月半の間にこれだけの不況が加速したことになる。

IT業界の企業が中間決算後にどのように通期決算見込みをしているのか調べた。対象は東証1部に上場しているIT企業とした。今年7月頃の確定決算発表と比較して、分析してみたい。

●野村総合研究所

20年3月期 売上高：3422億円 経常利益：555億円

21年3月期見込み 売上高：3500億円 経常利益：500億円 10月24日発表時点

→増収減益

●伊藤忠テクノソリューションズ

20年3月期 売上高：3192億円 経常利益：260億円

21年3月期見込み 売上高：3250億円 経常利益：235億円 11月13日発表時点

→増収減益

●CSKホールディング

20年3月期 売上高：2396億円 経常利益：206億円

21年3月期見込み 売上高：2170億円 経常利益：-135億円 11月7日発表時点

→減収大幅減益

●日立ソフトウェアエンジニアリング

20年3月期 売上高：1713億円 経常利益：135億円

21年3月期見込み 売上高：1750億円 経常利益：152億円 10月28日発表時点

→増収増益

●富士ソフト

20年3月期 売上高：1707億円 経常利益：77億円

21年3月期見込み 売上高：1750億円 経常利益：86億円 11月10日発表時点

→増収増益

●新日鉄ソリューションズ

20年3月期 売上高：1653億円 経常利益：152億円

21年3月期見込み 売上高：1650億円 経常利益：130億円 12月4日発表時点

→減収減益

●SRAホールディング

20年3月期 売上高：450億円 経常利益：41億円

21年3月期見込み 売上高：415億円 経常利益：35億円 11月25日発表時点

→減収減益

ほとんどの企業が減収減益としているが、多くのシステムインテグレータの外注への仕事之急激に無くなっていることを考えれば、またトヨタの決算修正を鑑みれば、決算確定時点ではこれ以上の減収減益になると思う。

そして、来期のほうがもっと厳しい状況になるだろうことは誰もが思うことである。

当社の場合は

20年3月期 売上高：9.42億円 経常利益：0.82億円

21年3月期見込み 売上高：10.4億円 経常利益：0.3億円 1月11日時点

→増収減益

来季の案件が少しずつ出てきているので、当社の夜明けは他社より早いと思う。社内で研修している者はこの期間にしっかりと技術を身につけ、人に好かれる素直な人格を備えて欲しい。

1月12日 「温故知新」

1929年の年頭にニューヨークタイム誌は「もし過去を持って未来を計る方法があるとしたらこの新年は慶賀と希望に満ちた年になるであろう」と社説を掲げている。人々は堅実な貯蓄にはみむきもせず、株を買い続けていた。

同年9月3日、株価は市場最高値を記録した。ところが、その後は小さな下落が続いた。しかし、人々は好景気に支えられた強き相場は永久に続くと思っていた。このような状況をバブル経済と呼ぶ。

10月24日、株価は突然に大暴落した。5日後、それを上回る株価の総崩れが起こった。10月30日の取りつけ騒ぎで大混乱するウォール街の映像が世界に配信され、新興国家アメリカが破綻した。(引用：NHK 映像の世紀 第3集 それはマンハッタンから始まった。) それから始まる不況を世界大恐慌と我々は呼んでいる。

1932年後半から1933年春が恐慌のピークであった。そのときの米国の失業者は1200万人で失業者は25%であった。全世界、失業者が蔓延し、それがファシズムに向かわせ、人類史上最も悲惨な第二次世界大戦が始まるのである。

日本は1991年にバブル崩壊し、その後、失われた10年と長い不況が続いた。その頃、部下が100名ほどいた。毎週のように仕事が無くなっていったような気がする。1年以内に100名の仕事がすべて無くなって、営業職に回られたが、不況時の新規営業は苦痛以外のなにものでもなかった。その営業職時代になぜ、急激に仕事が無くなったか考えた。

1. 取引企業が虚弱体質で優良会社ではなかった。
2. 面接した応募者をすべて採用していたようで社員の能力、技術力がなく、向上心が少なかった。
3. なんでも出来るとセールスする会社は個性がなく何もできない。

このバブル崩壊による苦悩した経験が当社を設立するときに非常に役に立った。

1月13日 「公に帰す」

大学受験に失敗した私は昭和53年の1年間、長崎教育会立長崎県高等予備校に通っていました。この予備校は授業料が非常に安く、また医学部薬学部などをを目指す者も多く、試験で合格しないとこの予備校には入れませんでした。この予備校はJR長崎駅前の坂道を上がった本蓮寺境内にありました。昭和56年に予備校は住吉に移転し、今は本蓮寺にはありません。

勝海舟は長崎奉行所西役所の海軍伝習所生となり、この本蓮寺境内の大乗院で安政2年(1855年)から4年間、居住していました。ここで勉強していると勝海舟に親近感が湧きました。

勝海舟は「政治は私に帰さず、公に帰す」という信念を持つ幕臣でした。しかし、今の幕府には私利私欲に走る役人が威張りかえっている有様、政権を担う力はいはや幕府にはないと江戸幕府の存続を無意味であると考えていました。

西郷隆盛率いる新幕府軍と戦って内乱すると西洋列強の植民地になるとの危惧で、徳川慶喜に新幕府軍の恭順を促し、大政奉還するように説得しました。

徳川慶喜から全権を与えられた勝海舟は新政府軍の西郷隆盛(西郷はイギリス政府の圧力や天璋院篤姫からの嘆願も胸に秘め)と会談し、3月15日の江戸攻撃は中止になりました。その結果、慶應4年(1866年)4月11日、江戸城無血開城の大事業を成し得えました。(引用：NHK そのとき歴史は動いた 勝海舟と西郷隆盛、幕末大奥最期の実力者)

政治家、役人や経営者は私利私欲を捨て、公に帰す生き方をしなければなりません。私は創業以来それを心がけて経営しているつもりです。

1月14日 「青春」

歴史上で最も青春が似合う人物は坂本龍馬と思う。激動の幕末に28歳で土佐藩を脱藩(死罪に該当する罪)してまで、この時代に参加して、新しい日本を作りたいという夢、無謀な冒険、恐怖を退ける勇気をもって、慶応3年1月15日(1867年12月10日)の近江屋で暗殺される33歳まで激動の時代を駆け抜けた。我々が知っている龍馬は僅か七年間の青春ドラマなのである。

彼の功績は

1. 薩摩藩の援助により、土佐脱藩の仲間と共に長崎で社中(亀山社中・のちに海援隊)を組織し、薩長の新政府軍に武器を売ったこと。
2. 慶応2年(1866年)、1月、京都で長州の桂小五郎(木戸孝允)と薩摩の西郷隆盛を引き合わせ、薩長同盟(薩長盟約)を結ばせたこと。
3. 後藤象二郎とともに船中八策を策定し、土佐藩主山内容堂を説いて江戸幕府に大政奉還を進言させたこと。また、明治天皇によって宣布せられた五ヶ条の御誓文の基底をなしたこと。(参考：坂本龍馬のすべて(平尾道雄著)、NHK 坂本龍馬とお龍、坂本龍馬の黒幕(北海道放送制作著作))

そんな龍馬が大好きで、学生時代にキャンプ道具を背中に担いで、高知県桂浜に3日間野営した。太平洋を一望できるところに太平洋に向かって立つ13.3mの坂本龍馬の銅像がある。龍馬の台座に立って、太平洋を見渡すと、心が大きくなった。小さいことによくよくなる。夜になると、水平線に転々と漁火が見え、見えない海の波の鼓動に大きな自然の力強さを感じた。龍馬が脱藩したいと思った理由はこの太平洋の向こうにある国を見たいと思ったのであろうと感じた。

歳月は流れ、平成12年2月、会社を辞め、会社設立の準備をしているとき、たまたま営業のついでに靖国神社に参拝した。なにか買おうと売店によった。目の鋭い、力強い龍の縁起色紙があった。その色紙を買った。会社設立の平成12年がたまたま辰年だった。龍馬の龍を私の会社の象徴にすることにした。龍の持つ毅然と龍馬の持つ青春の情熱が当社の行動規範になるべきと考えている。

1月16日 「生と死」

大学3年の5月の連休の早朝、神話の里高千穂にリックサックを背に微熱を感じながら一人でふらりと旅に出た。延岡駅を降り、高千穂鉄道に乗り換え、高千穂駅で降りた。高千穂は霧雨ではあったが観光客で混雑していた。観光マップを片手に名所を回った。周りのも飽きたので、延岡に戻り、駅前の地図から近くの山に登ることにした。

その山は延岡駅前から2kmの距離、標高は200mの岡富山だった。気軽にハイキング気分で行った。山の入口付近に無人の神社があり、そこで弁当を食べ、休憩した。その時は霧雨から小雨に変わっていた。そのときには3時頃だった。蛇行した坂道をただひたすら登った。

次第に小雨が土砂降りになっていった。木々に覆われた古小道は雨を弱くした。小道には次第に水が流れてきた。着ている服はびしょびしょになり、熱も上がって、意識が薄らいでいた。引き返すことも考えたが、頂上までが近いと考え、頂上を目指した。

もうどのくらい歩いたのか記憶がなかったがふらりと雑種であろうか白い犬が現れた。その犬は私の前を歩いた。私が休憩すると犬は立ち止まり、私が歩きだすと先導してくれた。この犬が私の気力を後押ししてくれた。そんな様子で頂上まで犬が水先案内をしてくれた。

頂上も木々に覆われていた。熱は40度を超えていただろう。もう気力も残っていなかった。死を感じた。うろろと歩いていると唯一のテントを見つけた。一人の男性に声を掛けた。その瞬間に意識はなかった。朝のまぶしい光に目が覚めた。生きていると実感した。その男性はテントの外で朝食の支度をしていた。近づいて、お礼をいった。昨夜の様子を話してくれた。すべての服を脱がせ、自分の下着と服を着替えさせてくれ、風薬を飲ませ、寝せた。あんたは無謀だよ。私がいなかったら死んでいたよ。低い山と言えども、山は山なんだと叱責してくれた。

朝食を頂き、お礼を言って、来た道を下った。下山しながら、白い犬を探したがその犬はどこにもいなかった。あの男性がいなかったら、明日の新聞の片隅の三面記事に私の死を伝える記事があったらと思うと、なんだか自分の行動を恥じた。死ななかったことはただ運が良かった。

設立してからも、天は私に運を与えてくれた。これからも天に恥じない行いをしなければならぬ。

1月18日 「徳」

「徳」ってなんだろう。辞書には精神の修養によってその身に得たすぐれた品性と書いてある。徳を積む、徳のある人などというのが明確に理解できている人はあまりいない。私もその一人だ。

「徳」の漢字の語源を調べた。徳の原字は、直の下に心をつけた字であり、もと「まっす

ぐな心」を意味したものである。「直+心」の字に、さらに彳印を加えたのが徳の字である。したがって、徳とは、もとまっすぐな行為を意味し、いわゆる直行（正直な行い）のことであつたと考えられる。

論語の中に五徳という言葉がある。「仁」「義」「礼」「知」「信」を五徳という。

仁：人を思いやる心

義：正義を貫く心

礼：礼を尽くす心

知：知恵を磨く心

信：人を信じる心

これをばらばらに行うと問題がある。オーム真理教のような信者はその宗教を信じているのは正しい。しかし、「仁」「義」「礼」「知」がないから悪となる。仁義を大切にするとというヤクザも同様である。

松下幸之助は人生で最も重要なものは「素直」であると言っている。素直は徳（直心）に通じる。また、仏教の一修派に法華経がある、その教えに八正がある。これを人々が実践できれば、幸福になれると書かれている。八正とは（1）正見（正しくものごとを見る）、（2）正思（正しく考える）、（3）正語（正しく語り）、（4）正行（正しく行為し）、（5）正命（正しく生活し）、（6）正精進（正しく努力し）、（7）正念（正しく念じ）、（8）正定（正しく心を定める）である。儒教、仏教や他のまともな宗教の教えは人々を幸福に導くものであるから、本質は異口同音である。ただ、神が出てくるとややこしくなることがある。

初代神武天皇（在位：紀元前660年～紀元前585年）から始まった天皇は現在、第125代今上天皇（諱（いみな）：本名は明仁）である。今まで125人の天皇がいる。その諱（本名）を調べてみると面白いことが分かる。第35代皇極天皇から諱が始まる。第70代後冷泉天皇の諱が親仁で、それ以降の天皇のほとんどの諱に「仁」を用いている。56人の天皇中46人が「仁」を用いている。真に興味深い。人の上に立つ（天皇）ためには仁を持つ人間になってほしいとの親の思いが込められているのだろう。

五徳を意識した生活は己や周りを幸福にすることは真理である。仁を基底にした言動はなんら災いも不幸も無い込んでこない。私はこの五徳を意識して言動するようにしている。

1月19日 「点と線」

「点と線」といえば、松本清張の代表作で東京駅の4分間のからくりで端を発した時刻ミステリー小説である。今日はばらばらにある事実をつなげてみれば、面白い真実を見ることができミステリーの旅に招待しましょう。

先週の金曜日、大阪梅田の繁華街で飲み屋街の北新地のホテルに泊まった。チェックインした後、田村君と繁華街に向かった。どこで飲むか考えながら、歩いていた。ほんとうは北新地にいるのでキャバクラにも行きかけたが、先週1週間ほんとうに脳を使って、

疲労感があったのでそんな気力もなく、居酒屋を探していた。通りの両脇をみながら歩いていると「源氏物語」という看板が目にとまった。面白いなと思い、入った。客は少なく、すべて個室の居酒屋であった。それ以外は普通の居酒屋であった。普通に飲んで、ホテルに戻って寝た。

この源氏物語が脳裏に残っていた。新幹線で週刊誌を買った。記事の中に源氏物語が女性にブームになっている記事を読んだ。なぜだろうと興味を持った。紫式部が源氏物語を書いてから1000年になるそうだ。源氏物語千年紀のイベントが盛り上がっていきそうである。

どうも、現状の不況と重なって、給与所得者の中で1000万人以上が年収200万円以下とワーキングプアの男性が多くなり、多くの女性が現実の恋愛に失望を持っているのかな。平安時代の宮廷のような恋愛をしたいと思っている女性が多いのかと邪推した。

恋愛を知っているようで、知らない。なぜ、恋愛をするのか。その本質を可能な限り探究してみよう。

「恋」の漢字の旧字体はこの「戀」になっている。「戀」は糸が左と右にあって、容易に裁ち切れぬさまをおおせたのが、この「戀一心」という部分である。してみると恋とは、まさしく糸が乱れて千々に乱れる心を表す漢字である。痙攣のレンは旧字の恋に同じである。ちぢにもつれて収拾がつかず、ラチのあかない心理なのである。ケイレンしたようにズルズルとつながってケリがつかない心の状態を表すコトバナなのである。

愛の漢字の旧字体は「𠂔+心+久」と書いたようである。𠂔とは、人間が腹をいっぱいにつまらせて、ウーンと後ろにのけぞった姿である。既の字は、お盆に盛ったごちそうを前にして、たら腹食べ終わった人間が、ウーンとのけぞっているさまを表す会意文字である。心がいっぱいにつまるのを慨(ガイ)という。怒って胸がいっぱいになるのは憤慨、感動して胸いっぱいにつまるのは感慨という。そして、胸いっぱい切なさーそれを愛というのである。「憂」と「愛」は胸いっぱい切なさであるそうだ。中国の古代人は素晴らしい観察眼を持っている。

脳における恋愛を調べてみよう。

「恋の始まり」に欠かせないホルモンであるフェニールエチルアミン(PEA)は、精神的に不安定な状態で、ドキドキしていなければ分泌されないという性質を持っている。二人がお互いに不安や緊張を常に感じていないと、恋には発展することはないということ。しかし、「緊張」や「不安定」を感じながら一生過ごすことは不可能である。PEAを永久に分泌しつづけることは、どんなカップルでも難しい。このPEAの分泌は、最大でも4年で少なくなる。その後は安定を求める愛に変わる。

種の保存から考察すると、人間を含めた高等哺乳類では、大脳新皮質、特に前頭前野が著しく発達している。その理由について、さまざまな考えが提唱されているが、その一つとして、種の保存のための性選択を挙げる学者はたくさんいる。性選択というのは、種の保存という大きなテーマのために、よりすぐれた配偶者を見つけ出し、競争して獲得する

ことを指す。つまり、すぐれた配偶者を獲得することで、すぐれた子孫を残し、種の保存の可能性を高めようとするわけである。そうすると当然、より高度な情報処理能力を持っている方が、性選択にもなる競争を有利に行える。そうした理由から、どんどん大脳新皮質が発達していき、さらにより高次の情報処理を行う前頭前野が発達していったと考えられる。つまり、恋愛をするに当たっては、大脳新皮質、なかでも前頭前野の活性が高まるはずである。

このように居酒屋の源氏物語から恋愛の本質まで辿り着けた。古代人の観察と現在の脳科学で分かっていることは一致している。恥ずかしさを捨て勇気を持って、恋をして欲しい。恋愛は先頭前野を発達させ(頭が良くなり)、生命の目的である種の保存を実現できるのである。

1月20日 「I have a dream」

私には夢がある。

私は過去に多くの若者が心身を病みながら過酷な労働をしているところを見てきた。

システムエンジニアへの希望に溢れる夢を抱き、リクルートカットで入社した新入社員達

がいつの間にか過酷な仕事で壊れている姿を見てきた。

誰もそれに疑問を持たなかった。

なぜだ、なぜだと自問しながら、戦った。

しかし、私の考えを誰も受け入れてくれなかった。

私には夢がある。

多くの若者に夢を抱ける労働環境を作ろうと。

資金も取引先も人材もないまま、私はこの夢の実現のため会社を興した。

創業から幾多の困難があったか分からない。

しかし、それらの困難を乗り越えられたのはただ夢の実現の希望だけだった。

それからもう9年が過ぎようとしている。

未だ、その夢は実現できていない。

また、今年も大きな試練がふりかかっている。

しかし、この試練も乗り越えられるだろう。

なぜなら、私には夢があるからだ。

当社の社員やこの業界のエンジニア達が希望に溢れる日まで

私はこの夢を追い続ける。

I can do , so we can do .

若者達が希望と夢を持てる日まで

I can do , so we can do .

1月23日 「春の夜の夢の如し」

歴史上、権力を持って支配した国や権力者は幾つもある。私の知っている代表的権力者は中国では秦の始皇帝、欧米はヒトラー、日本では平清盛、織田信長である。力を持って支配することは易いが人心が乱れ短命に終わる。「春の夜の夢の如し」である。

サブプライムローンの一部の欲望を持つ権力者が私利私欲に走り、その結果、世界中にそのつけを回した。日本銀行は金融政策決定会合で2010年度までの「経済・物価情勢の展望」の中間評価を行った。09年度の経済成長率は従来予想のプラス0.6%からマイナス2.0%に大幅に下方修正。戦後最悪となった98年度（マイナス1.5%）を大幅に更新する厳しい見通しを示した。（時事通信）

企業業績もさらに悪化した業績見通しの記者会見が目立つ。また、多くの優良企業が派遣社員や正社員を削減するリストラと賃金カットなどを表明している。来年度の業績がさらに悪化すると予想している。

現状の日本の繁栄は耐久消費財（電気製品、自動車など）の輸出に依存したものである。日本は外需のみだった。米国の金融不況から失業者が1200万人いる現在、米国の景気浮揚がない限り、日本の景気は回復しないだろう。日本の国際企業は世界の覇者になろうとして懸命に拡大路線を進んだ。多くの経営者はサブプライムローンによる景気悪化は予測できたと思う。しかし、覇者になりたいという欲望の前にはその冷静な判断が鈍ったのだ。すべて100%以上の結果を目指すとは反動も大きい。「腹八分」のように少し控えめな状態にしておく、反動も少ない。

平家物語にあるように「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。驕れる者久しからず、ただ春の夜の夢の如し。猛き人もついに滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。」、盛者強者はいずれ衰退することを忘れてはならない。

私は数年前からサブプライムローンの問題を知っていた。それで、なるべく優良企業との取引にシフトしようと考えていた。2年ぐらい前にNTTコムさん、NECソフトさんと取引できるようになった。今考えればぎりぎりセーフといった感じがする。私は私利私欲で経営しているのではない。現状のIT業界の健全化を目指すことを目的に起業した。私は徳を持って治めれば、人の心もやすまり、長期に繁栄すると信じている。すべての知恵を使い、最優先に長期の雇用を守るように努めたい。

1月25日 「未来」

私は経営者だから誰よりも正確に未来に起こることを予測して、いち早く準備や対策を講じる必要がある。その点から言えば、経営者の思考や話は興味を沸かさないかもしれない。しかし、現状の派遣労働者のように世の中や自分の未来に起こることを何も気づかないまま、そのときを迎えたなら、頭を抱え悩み苦しむだろう。

ちょっと、あくびをするような話になるかもしれないが、最後まで付き合ってくれ。なぜなら、アメリカの政策は全世界と日本にも影響し、我々の仕事や生活にも影響を与える

からである。1月20日にアメリカ合衆国大統領に就任した47歳のオバマはアメリカ国民と全世界の人々に向けて演説した。

アメリカよ。困難ひしめくこの冬にあって、共通するひとつの危険を前にした今、時代を超越したこの言葉を覚えておきましょう。希望と善行をもって、氷浮く凍った激流に再び挑んで、どんな嵐がやっても耐えしのぎましょう。子供たちの子供たちが語り継いでくれるように。試練に遭って私たちは、この旅路の中断を受け入れなかったと。後戻りもしなかったし、ふらつきもしなかったと。そして地平線をしっかりと見据え、神の恩寵を身に受けて、自由という偉大な賜物を携えて前に進み、それを未来の世代に無事に伝えていったのだと。（引用：g o oニュース オバマ大統領の就任演説全文翻訳の一部）

素晴らしい演説だ。演説の中で政策についても話している。

この国の経済状態は大胆で素早い行動を必要としています。そして私たちはただ新しい雇用創出のためだけでなく、新しい成長の基盤づくりのために行動します。商業を支えて私たちを結びつける、道路や橋、送電網やデジタル回線を作ります。科学を本来のあるべき地位に復権させ、医療の質向上と価格引き下げのために最新技術を駆使していきます。私たちは、自動車を走らせ工場を動かすために、太陽と風と大地のエネルギーを活用していきます。そして私たちは、新時代の要求に応えるよう、学校や大学を改革していきます。どれもできることばかりです。どれも、これから実現していくのです。

貧しい国の人たちへ、誓います。みなさんの畑を豊かにし、清潔な水が流れるようにし、飢えた人々を満たし、知識を求めてやまない頭脳に栄養を与えるよう、私たちはみなさんと一緒に働きます。そして私たちのこの国と同じように比較的豊かだと言える国には、こう申し上げます。私たちの国境の外で苦しんでいる人々に、もうこれ以上無関心でいるわけにはいきません。またこれ以上無思慮に、世界の資源を使い続けるわけにもいきません。世界は変わったのだから、私たちもそれに合わせて変わっていかなくてはならないのです。（引用：g o oニュース オバマ大統領の就任演説全文翻訳の一部）

彼の政策はグリーンニューディールといわれている。「すべての道はローマに通じる」と昔はいわれ、すべての物資・情報がアメリカに集まると今ではいわれているアメリカは消費大国を続けてきた。しかし、危機に瀕したアメリカ人はこれまでの消費に関する考え方を改善するだろう。それは地球環境と人類には素晴らしいことである。だが、輸出依存の大不況の今の日本には目先のことで大変厳しい。同様に中国の経済成長速度は大幅に減速する。

発想の転換を持ち、日本企業は輸出依存から内需拡大に向かう必要がある。また、他国をリードしている先端技術を生かし、環境ビジネスをより拡大するべきではあるまいか。

1月26日 「約束」

八年前の平成13年の寒い今頃、事務所から上野公園が目先であり、公園内にある東京都美術館で開催されていた唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝鑑真和上展にぶらりと出か

けた。鑑真和上坐像、梵天立像、帝釈天立像、持国天・増長天・広目天・多聞天の四天王立像、優美な絵巻、法会所用具類などの国宝や重要文化財を堪能したことを覚えている。

天平5年（733年）、遣唐使とともに渡唐した留学僧の普照と栄叡（ようえい）は、日本に正式の戒壇を設立するため、しかるべき導師を招請するよう、朝廷からの命を受けていた。戒律の僧として高名だった鑑真のもとを訪れ、僧侶の渡日を鑑真に要請した。鑑真は、弟子に問いかけたが、誰も危険を侵してまでの渡日を希望する者がいなかった。そこで鑑真自ら渡日することを決意し、それを聞いた弟子21人も随行することとなった。その後、日本への渡海を5回にわたり試みたがことごとく失敗し、5回目の渡日で失明するという苦難も味わった。

752年、必ず渡日を果たす決意をした鑑真のもとを訪れた遣唐使藤原清河らに渡日を約束した。しかし、当時の玄宗皇帝が鑑真の才能を惜しんで渡日を許さなかった。そのため753年に遣唐使が帰日する際、遣唐大使の藤原清河は鑑真の同乗を拒否した。それを聞いた副使の大使古麻呂はひそかに鑑真を乗船させた。鑑真はすでに長旅も厳しい65歳になっていた。

天平勝宝5年（753年）12月、薩摩（琉球ともいう）に上陸した鑑真は、翌天平勝宝6年（754年）2月、ようやく難波津（大阪）に上陸し、同年、東大寺大仏殿前で、聖武上皇、光明皇太后、孝謙天皇らに菩薩戒を授けた。日本で過ごした晩年の10年間のうち、前半5年間で東大寺で過ごした後、天平宝字3年（759年）、今の唐招提寺の地を与えられた。

唐招提寺は唐僧である鑑真和上のための寺という意味である。時の権力者は自分の都合で招聘したにもかかわらず、都合が悪くなると公の立場を解任した。朝廷の財源収入に利用されたことを知ったが、鑑真は異国の地でも多くの人を苦悩から救い、貧困者をも助けた。唐招提寺創建から4年目の春、弟子達に看取られて息を引き取った、享年75歳。

当時の船や航海術では半分が難破するリスクでの渡日、玄宗皇帝が認めるほどの高僧、高齢であるにもかかわらず、普照と栄叡との最初の約束を果たし、日本の仏教の発展に大きく貢献した。鑑真和上の約束と功績は1270年の時を過ぎた今でも未だに色あせることはない。

引用：フリー百科事典ウィキペディア、参考：TBS 唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝鑑真和上展

1月27日 「結婚」

1月1日、澤島君が結婚式を挙げました。いつものようなスピーチをするのも新鮮味がなかったので、事前に詩を作り、披露宴で朗読しました。それを紹介します。

「贈る言葉」

ここは二人だけの披露宴会場

責任の重さで緊張している新郎

人生で一番幸せなそして綺麗な新婦

この日を楽しみに待っていた親族

二人の門出を祝いに集まった仲間達

みんな幸福、みんな笑顔

ここは新たな生命の始まり

37億年と気の遠くなる太古から繋がってきた生命の継承を誓う場

先祖が苦難を乗り越え、繋いできた愛と希望を再確認する場

子々孫々の繁栄を祈る場

みんな幸福、みんな笑顔

ここは愛、思いやり、感謝に満ち溢れている場

多くの人の助けを借りて二人で歩みだす場

二人で幸福を誓い、どんなことでも相談し、

先祖に感謝し、友に礼儀を尽くし、ありがとうを言う場

みんな幸福、みんな笑顔

二人の門出をここに祝う。

「ほんとうにおめでとう！」

平成20年11月1日

コガソフトウェア株式会社

代表取締役社長 古賀詳二

1月28日 「夢を語ろう」

人は誰しも夢を持っている。

夢の中身は何だろう。

それは人を愛し、人を幸せにしたい。

それが夢の正体。

人は夢を持つことで幸せになれる。

夢を掴んだとき、人生を知る。

人の優しさを知る。



生きる喜びを知る。  
夢を持とう。夢を語ろう。  
その夢が叶うまで。

夢には苦悩、恐怖、失望がない。  
夢には希望、勇気、情熱がある。  
夢は青春そのもの。  
人を愛そう。人に幸せを送ろう。  
それが夢の正体。  
夢で生きる喜びを知ろう。  
夢を持とう。夢を語ろう。  
その夢が叶うまで。

夢は誰も気づかない浜辺の一粒の砂。  
一粒の砂の集まりが大きな砂浜。  
小さな夢が集まれば大きな夢になる。  
小さな夢を持とう。  
小さな夢を語ろう。  
その夢が叶うまで。  
夢を持とう。夢を語ろう。  
その夢が叶うまで。

#### 1月29日 「男女の違い」

男女雇用機会均等法は悪法であると思う。男性と女性が同じ条件で労働することは実際不可能である。男性は狩をする、女性は育児するためにそれぞれ身体の仕組みをそれぞれに発達させたと考えるからである。

1. 男性の脳は1400～1500グラム程度、女性の脳は1200～1250グラム程度である。
2. 男性は空間把握がうまくできるが女性は余りうまくできない。女性は理論的に物事を考えることが余り得意ではない。
3. 女性は右脳と左脳をつなぐ脳梁が男性のものよりも大きい。これにより、会話をする時に女性は脳全体を使って話をしている。逆に、男性はほとんど言語中枢がある左脳だけを使って会話している。男性は理論立てて必要事項を話そうとするのに対し、女性は無駄な話も会話の中に入る。だから、余計な会話が多くなりがちで女性はよくしゃべるといわれる。このようなことから、「男性は口げんかじゃ女性には勝てない」、とか「女性はよくしゃべる」とか「女性は感情的になりやすい」とか言われている。

4. 脳梁の違いにより、女性は生命力が強くてしぶとく、ストレスに強い。男性は純情で融通が利かない。また、女性は側性化、特殊化、専門化に進んでおらず、男性のように専門分野に特殊化する人間が育ちにくい。

5. 男性よりものの変化に敏感で観察力が優れている。また、勘が鋭い。
6. 女性の体力は男性の7割程度で身体能力は男性より劣る。

このように男女の役割で脳の仕組みや身体の仕組みが異なる。労働上で仕事の内容、仕事量や通勤時間などを配慮しなければならない。また、女性は男性より清潔感が強く、男性を誘惑する目的（美しくなる）で化粧する。よって、男性より仕事時間は短くなる。また、育児などの家庭の仕事を含めると制約事項が多くなる。

このような相違点から考察すると男女機会均等法は悪法である。よって、男女機会均等法の改正が必要であると思う。

#### 1月30日 「老舗」

上野広小路には240年目を迎える上野松坂屋を代表に老舗と呼ばれる店が沢山ある。承応2（1653）年創業の道明（帯締め専門店）、延宝3（1675）年創業の酒悦（漬物と佃煮専門店）、延宝8（1680）年創業の守田宝丹（薬屋）、元文元（1736）年創業の十三や（櫛の製造販売店）、延享4（1747）年創業の上野風月堂（和洋菓子店）、創業260年（徳川8代將軍吉宗の頃）の伊豆榮（うなぎ、割烹の店）、安政6（1860）年創業の蓮玉庵（蕎麦店、明治6年創業の上野岡塾榮泉（和菓子屋）、明治37（1904）年に創業の多古久（おでんの店）など

日本には現在、創業100年以上の会社が10万社以上あるという（横澤利昌・編『老舗企業の研究』より）。また、創業200年以上の会社も約3000社ある。次いでドイツが約800社、オランダが約200社だそう。しかし、近年の急激な変化で老舗も含めて、企業数が急速に減少している。1996年の企業数（個人事業所も含む）は5,102,642社、1999年の企業数（個人事業所も含む）は4,851,104社、2006年の企業数（個人事業所も含む）は4,210,070社ある。（中小企業白書より）この10年で89万2千社の会社が減っている。日本の産業の空洞化が甚だしい。老舗といえども安泰ではない。

上野広小路だけを見ると、今まで時代を超えて商売が続いているのは職人の巧みな技術の継承、家訓を守る経営の継承によることが考えられる。商売で最も重要なのはブランドとしての誇りを継承させることだろう。また、現状に甘んじない向上心や好奇心が新しい時代に相応しい商品を生み、多くの人に支持される。

当社が末永く商売するためには私の存在の有無にかかわらず経営理念の継承と絶え間ない向上心・好奇心やおごり無き奉仕の精神を持ち続けることが必要である。

#### 2月1日 「絶望の未来」

日本の将来の人口構成を見る限り、日本の若者達には希望より絶望しかないと思われる。

出生率：1.26 平均寿命：男：83.67 女性：90.34での仮定

年	全人口 (千人)	65歳以上の人口 (千人)	高齢者率 (%)
2005	127,768	25,761	20.2
2009	127,395	28,987	22.8
2015	125,430	33,781	26.9
2025	119,270	36,354	30.5
2035	110,679	37,249	33.7
2045	100,443	38,407	38.2
2055	89,930	36,463	40.5

国立社会保障・人口問題研究所 日本の将来推計人口 平成18年12月推計より

1802年	10億人、	1927年	20億人、	1961年	30億人
1971年	40億人、	1987年	50億人、	1999年	60億人
2007年	66億人、	2020年	76億人	2030年	83億人
2040年	90億人、	2050年	95億人		

世界の人口 出典：フリー百科事典 ウィキペディアより

出生率は雇用の安定、賃金の上昇や社会不安が解決されないかぎり低水準に推移するだろう。平均寿命がこれまでの社会保障（年金、医療）が保証されるならば、長寿を維持できるだろうが、国家財政は破綻状態にあり、これまでの社会保障を維持できるとは思わない。また、少子化により労働人口が大幅に減り、また発展途上国への産業シフトで日本の産業は空洞化を加速するだろう。それにより日本の税収は大幅に落ち込み、あらゆる分野で歳費は圧縮される。

しかし、高齢者の父母を持つ子供達は親を見捨てることはできないので介護や生活の支えをするために自分や自分の家族を犠牲にしなければならない。それにより、子孫はさらに減少すると思う。

全世界の国々は日本国民が高齢化社会をどのように解決するのかを興味津々で見守っている。日本の成功または失敗を参考にして、自国の政策に反映することを考えている。

私にはこの問題を解決する妙案は浮かばないが50年後の日本国の未来を見据えて、人口爆発している発展途上国から今後200年の間に毎年100万人単位（合計2000万人）の若者の移民を受け入れて、日本の高い専門教育を施し、林業・農業・漁業を再生させながら、新産業を創造し、内需拡大を推進することしか思い浮かばない。

若者達は日本の超高齢化社会の未来があることも認識して、人生を設計する必要がある。

2月2日 「忠義の裏」

先日、久しぶりに京浜急行電鉄の泉岳寺駅近くの泉岳寺を訪れ、大石内蔵助以下四十七士の墓前に線香を供え、冥福を祈った。また、赤穂義士記念館も訪れた。しかし、浅野長矩の墓には参らなかつた。忠臣蔵が好きだから、12月恒例の忠臣蔵を良く見た。

元禄14年2月4日（西暦1701年3月3日）、江戸城内の松の廊下で赤穂藩藩主・浅野長矩が高家肝煎・吉良義央に切りつけた刃傷沙汰に端を発する。松の廊下事件については、加害者とされた浅野は切腹となり、被害者とされた吉良はおとがめなしとされた。その結果を不満とする大石良雄をはじめとする赤穂藩の旧藩士47人（赤穂浪士、いわゆる赤穂四十七士）による、元禄15年12月14日（西暦1703年1月30日）の本所・吉良邸への討ち入り、仇討ちした。吉良義央の首を主君の泉岳寺の墓に供え、敵討ちを終えた。後日、赤穂四十七士は泉岳寺で切腹させられた。

明治元年（1868）、東京城（江戸城）に向かう途中の明治天皇から勅書と金一封が泉岳寺に届けられた。その勅書は元禄15年（1702年）12月14日に討ち入りを行なった大石良雄以下の赤穂義士を「主従ノ義」として表彰したものであった。大石内蔵助良雄以下の赤穂浪士が忠義だったことは300年後の今でも泉岳寺に多くの人が足を運んで彼らの墓前に線香を供えている事実を見れば明らかである。

しかし、なぜ浅野長矩は將軍徳川綱吉にとって大切な儀式の最中の江戸城内の松の廊下で吉良義央を切ったのであろうか？色々調べたが主な理由が未だ分かっていない。五万石浅野家藩主で三十四歳だった浅野長矩が4200石の旗本である六十歳の老人である吉良義央を切りつけることは理解に苦しむ。その前から吉良義央に何か感情的な苛立ちを持っていたのであろうか。だが、五万石浅野家藩主である立場を忘れ、自身の切腹や浅野家断絶を考えない短絡的な行為をする短気な性格だったのであろう。

組織のリーダは常にどのような事態でも沈着冷静に言動しなければならぬ。私は何時も一呼吸しながら、間合いをおいて対応するように心している。

（引用：フリー百科事典 ウィキペディア、参考：泉岳寺赤穂義士記念館）

2月3日 「運・不運」

事業に成功した人は運が良かったと謙遜な発言をする。逆に事業に失敗した人は運が悪かったと言い訳する。ギャンブルでは勝負に勝ったら今日はツキがあったと笑顔になり、勝負に負けた人はツキがなかったと暗い顔をする。果たして、運・不運は実在しているのだろうか？

運とは、その人の意思や努力ではどうしようもない巡り合わせを指す。運が良い（幸運）とは到底実現しそうもないことを、偶然実現させてしまうことなどを指す。運が悪い（不幸・不運）とは、楽しみにしていた旅行の当日に、発病してしまうことなどを指す。占いや、神社・寺院のおみくじは、この運を予言する力があるとされる。（引用：フリー百科事典ウィキペディア）しかし、運の実在を証明されている確証も証明されていない確証もない。

私は麻雀が大好きで学生時代から牌を握ると負けることは無かった。理由は簡単である。勝つまで続ければ必ず勝つのである。だから徹夜麻雀が多い。麻雀では13牌又は14牌の配牌でツギがあるかないか配牌の並びで感じるが多い。勝負に勝っているときは配牌がよく、運を感じるなど言う人がある。私もそう思う時がある。

20年間麻雀の代打ちで無敗の伝説を持つ桜井章一は麻雀には「天運」と「地運」があり、天運はその人がゲームの時に持ち合わせた力で、地運は知恵を駆使して上がりを目指す努力であると言っている。天運は一時的なもので、地運は知恵と努力に比例するということである。

どうして麻雀にも強者と弱者がいるのであろうか？それは打ち手の癖や牌の並べ方などの観察力や打ち手の心理や山に隠れている牌の残りを予測する洞察力の違いが勝負を分けると考える。また、勝負に拘る人より手役などを追及して麻雀を楽しんでいる人は勝負に勝てると考える。また、相手に嫌われる行為をする人は必ず負ける。相手に好印象を持たれる人は負けない傾向にある。私はロンするときには「ありがとう」をいう。逆に上がられたときには「おめでとう」を言うように心がけている。

一般社会においても運が良いと言っている人達は努力家で謙虚な徳のある人間なのであろう。

2月4日 「怨念」

明治維新は尊王攘夷などの大義名分で行われたのであろうか？たしかに、江戸幕府の財政破綻、黒船の来航から日米講和条約、日露親条約が孝明天皇の許しなく強権的に締結されるなどの火種が多く、それが討幕運動に発展し、明治維新を迎えたのは歴史の事実である。

しかし、歴史を1600年の関が原の戦いに戻し、考察すると新たな事実が浮かびあがる。西軍の名目上の総大将であった毛利輝元は主家を裏切り、徳川の東軍についた。その見返りに毛利家に所領は安泰との約束を側近から得ていた。しかし、戦後、家康は毛利輝元が積極的に西軍に関与していた書状を根拠に戦争責任を問い、所領安堵の約束を反故にして毛利家を減封処分とし、毛利輝元を隠居となした。

毛利家は辛酸を舐めたことから、長州藩では江戸時代を通じて「倒幕」が極秘の「国是」で、新年拝賀の儀で家老が「今年は倒幕の機はいかに」と藩主に伺いを立てると、藩主は毎年「時期尚早」と答えるのが習わしだったという伝説がある。(フリー百科事典ウィキペディアより)

実際、明治維新の実現に大きな貢献をしたのは長州藩であり、初代内閣総理大臣は伊藤博文、その後も山縣有朋、桂太郎、寺内正毅、田中義一が続き、総理大臣の出身が最も多いのは長州藩(現山口県)である。260年間の怨念が倒幕に力を与えたのは真実ではないか。もし、徳川家康が毛利輝元に所領安堵の約束を守っていたならば、その後の歴史がどのように変わったか興味津々である。

人生の中で約束を守ることは最も重要なことである。私は今まで「約束」を大切に生きてきた。これは信用であり、相手の対する礼儀であり、思いやりでもある。

2月5日 「少し大人になった時」

少年時代、家には犬、目白や鶏などがいた。

ある日、親父が数匹のこどものウサギを持ち帰ってきた。

このウサギを育てると言って、私に渡した。

小さな小屋に藁を敷き詰め、ウサギを入れた。

それから毎日、草花を採りに田んぼや野原に行った。

春はタンポポや蓮華草、夏はまごやし、秋冬は柔らかい草を探した。

目の赤い可愛いウサギはだんだんと大きくなり、可愛さも増していった。

どのくらいの歳月が流れたか知らないが、

いつものように学校から帰ってウサギ小屋を覗いたら、一匹のウサギもいなかった。

どうしたんだろう？

親父が仕事から帰ったときに、ウサギは？と聞いた。

親父はウサギを売ったと返事した。

悲しいかな、返す言葉が無かった。

少し生きる意味が分かった。

こんどは小さな山羊を連れてきた。

この山羊を育てると言って、私に渡した。

来る日も来る日も学校から帰ると雑草を田んぼや野原に採りに行き、

その雑草を山羊に食わせた。

三春が過ぎる頃には山羊は大きく育っていた。

いつものように小屋を覗いたら、山羊はいなかった。

どうしたんだろう？

親父が帰ってきたときに聞いた。

山羊は？

山羊は冷蔵庫に入っているぞと返事した。

冷蔵庫？と呟きながら、台所に行き、冷蔵庫の扉を開けた。

新聞紙に包まれた肉の塊がぎっしりと詰まっていた。

悲しかった。

少し大人になった時でもあった。

2月6日 「少し大人になった時2」

80歳のばーちゃん(親父の母親)は頭に手ぬぐいを巻き、

もんぺ姿の腰は曲がっていた。

何時も杖をついて歩いていた。

ばーちゃんは親父の兄貴と住んでいたのですこは本家といわれていた。

そのばーちゃんはちり紙に100円札を包んで時々僕にくれた。

ありがとう。

ばーちゃんは何時も山から薪を背中に負ぶってくるが疲れないの？

山に行き、薪を集めるのは楽しいよ。

ばーちゃんは毎日風呂を沸かすが辛い？

ばーちゃんの仕事だから辛いよ。

ばーちゃんは沢山生きてきたからゆっくり休めばいいの？

ばーちゃんが山に入って薪を採って、風呂を沸かすから生きていられる。

ばーちゃんが何もしなかったら、生きて意味がない。

何もしないばーちゃんは誰もが嫌う。

ばーちゃんが少しでも役に立てば、誰もが好いてくれる。

何もできない者は生きる資格がないんだよ。

自分で何か人の役に立つことを見つけ、それを一生懸命に勤めれば

人は褒めてくれるし、自分も幸せになるんだよ。

ばーちゃんは毎日風呂を沸かしているから病気もなく幸せなんだ。

僕はばーちゃんの話で少し大人になった。

## 2月7日 「無邪気」

小さな子供は無邪気な発言が多い。おねーちゃん 可愛いねとかおばちゃん、綺麗だね。とか素直に言葉にする。大人たちは子供達の言葉に冷汗がでる。

小学1年生の頃、息子が友達と一緒に帰宅の途中、偶然一緒になった。子供達の後を追いつながら、二人の会話を聞いていた。僕のかーちゃんは太っていて、年も取っている。

でも、あきちゃんのおかーさんは綺麗で若いからいいな。後ろで聞いていて、可笑しくてたまらなかった。

某超優良電機メーカーの子会社の社長が始めて来社されたときのことである。初対面でもあり、雑談を交え、会社の紹介などしながら話は盛り上がった。

私は相手の目を見ながら話をする。その社長を観察しているとちょっと言葉や表情に活気を感じなかった。胸の辺りに視線を下げるとネクタイが地味に感じた。私はその社長にネクタイが地味ですねと素直に言った。会社の長たるものが地味なネクタイをしたら、部下が元気になりませんよ。赤とかピンクの混じったネクタイを締めると良いとアドバイスした。一瞬、目が点になったような気がしたがその後、笑みがこぼれた。そして、次の再会を約束して別れた。

後日、その社長の会社に訪問し、応接室に通された。しばらくした後、赤色の混じったネクタイを締めた社長が、ドアの向こうから現れた。

## 2月8日 「無駄な遊び」

少年時代、学校から帰ってくると山、川、田んぼに行き、遊んでいた。兄貴から貰った小刀は遊び道具の王様、しかし、5cmの小刀は切れ味が悪いし、大きなものが切れないので不満があった。なんとか小刀に変わるものはないかと思案していた。そんなことで悩んでいた。

ある日曜日、庭で親父がノコギリの刃を両刃ヤスリで研いでいた。ヤスリだ！ヤスリを1本頂戴と頼み、貰った。このヤスリは刃渡り20cm、日本刀と同じ鋼で出来ている。研いだら、日本刀のように切れるぞ、嬉しくなった。近所に直径60cmくらいの丸研石があった。ベタルを回して包丁などを研ぐものだった。おじちゃん、借りるよ。

水を研石の表面に浸し、ドキドキしながら、丸研石のペダルを足で漕いだ。丸研石は大きく回転する、その面にヤスリを当て、ガリガリと石が削れると音がする。石の表面の湿りがなくなると水を浸り、また研ぐ。夢中で研ぐ。一時間くらいするとぐったりと疲れた。しかし、刃は何も変化がない。がっかりした。翌日も翌日も研いだ。しかし、変化がない。

テレビで見た刀職人も毎日研いでいたな。諦めないぞ。そのうちにヤスリの灰色の表面に銀色が現れてきた。これはいけるぞ。かれこれ、2ヶ月が過ぎた。両面が包丁と同じように銀色になった。これからは小さな研石でもいい。料理職人が包丁を研ぐ石と同じである。

また、来る日も来る日も研いだ。ヤスリの表面に波紋が現れてきた。日本刀の波紋のようなものだ。もうこれでいいだろう。試しに新聞紙を切った。カミソリで切ったような感覚だった。小さな細い竹を切った。力を入れなくても切れた。満足した。嬉しかった。

次は日本刀でいう柄と鞘を作らないといけな。柄は角材の余りを貰い、小刀で削っていた。その柄にヤスリの先を叩いて入れた。目釘ができないので、ヤスリの先で空いた鞘の穴に塩を入れ、柄から抜けないようにした。

鞘は孟宗竹を山から採ってきて、その竹節の間をノコギリで切った。試行錯誤しながらヤスリの大きさに合うような鞘を作った。やっと完成した。裏山に行き、小枝などを切った。嬉しかった。自分だけに遊びの王様を手に入れた瞬間であった。

この小刀は問題を改善することから生まれた無駄な独創である。知識ある人は常識に囚われて、意味のない無駄なことはしないようにアドバイスする。しかし、生きていることが無駄なことである。ならば、無駄なことをしたほうがよい。

人生、お金があれば幸せになると思っている人が多い。それが幻覚に過ぎないことを知らないだけである。知識があれば幸せになると思っている人が多い。それが幻覚に過ぎないことを知らないだけである。無茶なことや冒険を危険なことと思っている人が多い。それが幻覚に過ぎないことを知らないだけである。

生きている間に真剣に無駄なことをやろう、ほんとうの遊びをやろう。それが仕事かもしれないし、娯楽なのかもしれないし、恋愛かもしれない。でもすべてが無駄なことであるならば、ストレスと緊張もしないはず、不幸や苦痛や苦勞もないはずである。心から笑え

るほんとうの無駄な真剣な遊びをやろう。

2月9日 「スッポン」

吾輩はスッポンである。名前はまだ無い。人里離れたブナの原生林で覆われた森の中の落葉が堆積した木漏れ日が漏れる池の畔で生まれ、池の中で育った。吾輩が池の畔で日向ぼっこしているとき初めて人間というものを見た。あとで聞くとそれはマタギという人間で森の動植物を荒らす我々の敵であったそうだ。このマタギというのは時々我々を捕まえて東京の市場に売るという話である。その時は別段怖くなかった。

池の端で日向ぼっこしていると獣道でタバコを吸って休憩している二人のマタギの会話が聞こえてきた。

「スッポンは東京の料亭なんかが高く買ってくれるから、今日はいっぱいとらんとな。」

「特に、スッポンのコラーゲンは美肌になるということで東京の若いおなごも良く食べるという噂じゃ」

「東京のおなごは化粧エステにも通い、未だ綺麗になりたいとおもうが。東京のおなごはカカ（妻）より欲が深いな！」

「なんでも、東京の夏は熱帯夜が続き、集中豪雨が多くなっているらしい」

「また、冬でも暖かい日が多くなってきているらしい」

「何でなんだ？」

「それは世界中の人間が経済活動などで出す二酸化炭素が多くなっていることが原因だという話だ、それを地球温暖化といっている」

「難しい話だな」

「貧困な国は木材を輸出するために森林から木を切り出し、砂漠化に拍車を掛けている。雨が降ると、森林の保水力がなくなり、鉄砲水が流れ、川が氾濫したりしているそうな」

「南極や北極の氷も解け出し、海面上昇で南太平洋の島も沈みだしているようだ」

「オーストラリアでは何週間も雨が降らなくて、下水を飲料水にすることも考えているらしい」

「世界中で気候がおかしくなっているそうだ」

「俺達マタギは大自然との調和で大自然の恩恵で、これまで生活できたがこの先どうなるんだ？」

「俺たちのような無学なマタギには分からんよ」

「自然を守って、人間も守れるんだよな」と溜息混じりにマタギは立ち上がった。

スッポンはマタギが枯葉を踏み足音を聞きながら、ゆっくりと身体を動かし静に池の中に入り、波紋を残しながら光の入らない池底の岩陰のほうに沈んでいった。再び森は数千年も変わらない静寂を取り戻した。

引用：夏目漱石 吾輩は猫である

2月11日 「信念」

私は松下幸之助が好きである。なぜかというときることを真剣に考えた人物だからだ。私は「松下幸之助の一日一話」を使いながら、私の考えを365回社員にメールしたことがある。それが私の経営信念を確固たるものにした。

この何ヶ月の経済状況や当社の受注から見て100年に一度の不況がほんとうなのだと実感している。

昭和初期の大恐慌のとき、松下幸之助の決断が現在のパナソニック（松下電器産業）の大きな飛躍に繋がったことは事実であろう。

その決断とは？

昭和4年の不況時のことである。国内では浜口内閣が緊縮政策をとり、ほどなく金解禁を断行、経済界は萎縮し、不況が深刻さを増していった。そこへ世界恐慌である。産業界は大きな打撃を受け、株価は暴落、企業の倒産が全国に広がった。

電機業界でも、数多くのメーカーが倒産したが、松下電器も売上が半分以上に急減、たちまち在庫が増え、12月には倉庫がいっぱいで製品の置き場もなくなるという創業以来の深刻な事態に直面した。

そのころ幸之助は、病床にあった。そこへ2人の幹部が、いろいろ考えた末の対応策をもって訪ねてきた。

「この危機を乗り切るためには従業員を半減するしかありません」

報告を聞き終えた幸之助は、しばらく沈思してから口を開いた。

「なあ、わしはこう思う。松下がきょう終わるのであれば、君らのいうてくれるとおりに従業員を解雇してもいい。けれども、わしは将来松下電器をさらに大きくしようと思っている。だから、1人も解雇したらあかん。会社の都合で人を採用したり、解雇したりでは、働く者も不安を覚えるだろう。大を成そうとする松下としてはそれは耐えられないことだ。みんなの力で立て直そう」

そして具体的な方法を示した。それは、生産を直ちに半減して、工場は半日勤務にする。しかし従業員の給料は全額を支給。その代わりに、全員、休日を返上し、在庫品の販売に全力をあげてもらおうというものであった。

この決断は従業員を奮い立たせ、社内に垂れこめていた暗雲は瞬時にしてふきとんだ。

「さすがはおじさんだ。みんなで力を合わせてがんばろう」

それから2カ月、全員の懸命な努力が実を結び、在庫は一掃されて倉庫は空になったばかりでなく、半ドンをやめてまた全力をあげて生産に努力しなければならぬほどになった。

当社の現状は当時の松下電器と同じような厳しい状況である。

当社も社員全員の団結でこの難局を打開する。

そして近い将来、当社が松下電器のように社会に必要な企業と言われるようになりたい。

2月12日 「群生」

8日の日曜日のBS2で「手塚治虫のすべて」が放送されていた。物語はトキワ荘の話題に移った。編集者が逃亡癖のある手塚治虫を逃げないように住ませたのが始まりだとか。それから手塚治虫に憧れた若者達（藤子不二雄、石森章太郎、赤塚不二夫、水野英子など）が漫画家を夢見て、トキワ荘に住みだした。貧しいながらも漫画を描くことが好きな連中が同志と切磋琢磨し、また助け合い、漫画やアニメを日本の文化に定着した場所でもあった。睡眠時間がほとんど取れない漫画家の世界、でも好きだから出来るのだろう。トキワ荘が解体される時、超一流漫画家になった彼らが集まって、当時食べた野菜だけの鍋を屈託の無い笑顔で食べていたのが印象的であった。彼らはトキワ荘の貧乏漫画家から超一流漫画家と言われるようになって、彼らの目は少年と同じ夢を追いかけているように感じた。そんな彼らが羨ましく感じられた。

幕末の長州萩城下の松本村で25歳の吉田松陰が私の生まれた100年前の1855年に松下村塾を主宰し、多くの優秀な人材（著名な門下生には久坂玄瑞、高杉晋作、吉田稔麿、入江九一、伊藤博文、山縣有朋、前原一誠、品川弥二郎、山田顕義、野村靖、飯田俊徳、渡辺崋蔵（天野清三郎）、松浦松洞、増野徳民、有吉熊次郎らがいる）を輩出したことは周知の事実である。人材は群生するである。

私も彼らに負けにくい夢がある。将来、当社から多くの人材が輩出してIT業界のトキワ荘と言われたい。

2月13日 「涙」

舞台上で演じている間に親が死去しても、役者は舞台を降りられない。こんな話を聞いたことがある。会社を経営している間は時間の長さの違いはあるにしても役者の舞台と同じである。

創業したときに誓いを立てたことがある。どんなに苦しくても、どんなに辛くても、どんなに悲しくても涙を流さない。経営者は時には非情にならなくてはならないときもある。どのような場合でも感傷的になってはならないと思っている。経営者は感情を廃して常に沈着冷静な言動をしなければならない。

昨年の五月に84歳で母親が亡くなり、実家の葬式に参加した。親父、兄弟や家族などの親族は葬式のお別れの言葉などで嗚咽していた。しかし、私一人涙を流さなかった。悲しいかな。これが孤独な経営者の心得である。

2月14日 「明るい職場」

ある当社社員が以前勤めていた超大手企業の職場はコミュニケーションがなくお互いに何事も無関心で、職場を見渡すと空席が目に入り、それらの机の住人は心の病気で休職していた。また、入社して机に座っていると隣の席の社員は椅子に座りながら自殺したい、自殺したいと独り言をいう。暗くて息が詰まる職場で労働意欲が湧かなかったと話してい

る。

当社に入社してからは社員間のコミュニケーションが豊富で心温かく、また何時も笑い声が絶えないとその社員は楽しそうに話す。

入社してからは5ヶ月以上研修を受け、新入社員と先輩社員間の交流を目的に伊豆七島の利島に船便で合宿研修をする。2泊3日の短い研修であるが皆和気藹々となり、非常に楽しい船旅で終わる。

和気藹々の職場環境は社員のやる気を起こし、品質や生産性の向上となる。また、楽しいことは技術や教養を身につけることができ、明るい未来も約束される。また、家庭も笑い声が絶えない。楽しい幸福な家庭となる。

多くの企業の職場は生産性を高めるため、息が詰まる静けさの中で仕事している。それでは生産性も上がらない、社員同士が無関心となっている。それが心の病を誘発し、家族や社会の崩壊になっているのではないのか。

明るい職場環境の実現が明るく安心安全な社会の実現への近道ではないのか。

2月15日（日） 「ブログ」

なぜ、年初にこのブログを書こうと思ったのか？人生は人との出会いで大きく変わるといわれている。数年前、私は悩んでいた。どうして、派遣形態の開発作業で帰属意識が稀有になることを承知しているにしても、己の限界まで挑戦しないまま、生きることを意味を知らないまま、己自身から逃避するような退職が多いことに悩んでいた。そんな中、私は松下幸之助の一日一話（365話）と出会った。私はこの一冊に感動した。この言葉と私の言葉を合わせて、毎日社員にメールを送ろう。そうすれば、少しは何かを感じてくれるだろう。この後の人生に役に立つであろうと。それから多忙の中書き続けた。そして、2年半の歳月を要したが365回を書くことが出来た。

昨年の10月からの金融危機で株価は大暴落、経済は萎縮し、大不況の暗雲が全世界の人々に大きな不幸をもたらしている。こんなとき、失恋した後の恋愛中の幸せを振り返るように、失くした物の大きさを知るように、真剣に何かを考え、幸福なときを思い出し、困難や苦悩を感じる。この困難や苦悩から多くのことを学び、それから明るい未来を信じて再び歩き始める。

経営者として、この100年に一度と言われる大不況の中、日々刻々と変わる出来事を通じて諸行無常の世相と自分自身を見つめ、どのように思考したのかそして実行したかを記録するものであり、私の人生観を通じて社員の成長に役立ち、社員のこれからの人生が多幸であることを祈念するものである。

2月16日 「御神籤（おみくじ）」

「幸せを数えたら片手にさえ余る、不幸せ数えたら両手でもたりない」という歌詞の歌謡曲（ばんばひろふみ SACHIKO）があったことを思い出した。昔から幸福をくだ

さいと人々は神社に詣でる。そして、幸福の抽選会に参加する。その抽選会とは御神籤箱を無心で振りながら、御神籤箱の小さな穴から運命の細い棒を取り出すことである。その棒の端に墨で書いてある番号を確認しながらドキドキと運命を待ち白装束に紅い袴の巫女さんに渡す。巫女さんは可愛い声で番号を読みながら、その番号のくじの紙片をお布施と交換に渡す。受け取った運命のくじの紙片をそっと開き、幸福の大きさを確信する。「大吉」が書かれていたら、大喜び、幸福が小さいなら、紙片を大きく広げ、良いことが書いてある箇所を血眼に探す。これが大勢のおみくじに関する感情ある行動である。自分が幸福になりたいと思う心は古今東西同じである。

私は営業社員にこんなことを話した。今、仕事が少なくなって、私達のお客さんは他社のお客さんでもある。営業マンは仕事を探しにそのお客さんの所へ血眼な表情で行く。お客さんは何度も接すとうんざりするだろう。営業マンは自分の幸福を探しに御客さんに詣でる。御客さんは神様ではなく、生身の人間なのである。良い話ができないときはお客様も不幸なのである。暗い話やしつこいことをすると嫌われる。その辺をよく理解しなければならぬ。

私はその営業社員にこんな提案をした。不況の今、仕事が無いことは事実である。ならば、仕事を貰きに行くより、その人を幸福にするために行ったらどうかと。私達は自分が幸福になるために「おみくじ」をひく。ならば、御客様の幸福を引きに行けばどうかと。そうすると御客さんはたいそう喜ぶだろう。仕事が増えたとき、その人は貴方を思い出し、優先して貴方に声を掛けてくれるだろう。お客さんに幸福を与える地道な営業活動をしたら良いのではないかと提案した。

その営業社員は営業先に行く前に事務所近くの神田明神（商売繁盛の神様）に詣で、営業先企業の商売繁盛とお会いする人の多幸を本堂で祈念し、その人のために「おみくじ」を引いた。そのお客様に会ったとき、

「こんな大変な状況でも私に会っていただくことが私の幸せです。」

「ありがとうございます。」

「私は貴方に何も良いことをしておりません。」

「今日は御社の商売繁盛と貴方のご多幸を思い、神田明神に昨日祈願してきました。」

「そのときに引いたおみくじです。私の気持ちと共に納めてください。」

「今後よろしくお願ひします」

と話した。

自分の幸福のためより他人の幸福のための御神籤がもっと自分が幸福になる。自分が幸せになりたければ先ず周りの人を幸せにすることです。

2月17日 「廃食用油の再利用」

私達は毎日3度の食事を取っている。その食事の中で植物油を使った料理も沢山食べている。国内に流通する植物油には3つある。オリーブ油などの半精製油、製造工程図で示

した精製が行われた「白絞油（しらしめゆ）」「天ぷら油」などの精製油、精製油の基準に加えて更にロウ分の除去など精製度を高くした植物油で総称をサラダ油の3つである。家庭ではサラダ油がサラダだけでなく天ぷら・フライ・炒め物など広範な用途に利用できる油として普及している。

この植物油の原材料には菜種油、大豆油、パーム油、とうもろこし油、綿実油、ペに花油、ごま油、こめ油、ひまわり油、オリーブ油などがある。

日本で最も消費される植物油の順番は菜種油、大豆油、パーム油である。また、日本の植物油の年間消費量は約246万トンで、人口を1億2794万人とすると、一人当たりの年間消費量は19.3kgである。一人当たりの年間消費量はマレーシアの135.5kg、ドイツの80.0kg、アメリカの42.4kg、イギリスの36.6kgと各国の消費量に驚く。中華料理で油を多用すると思われる中国が19.2kgと日本と同じ消費量であることに逆にこれも驚く。

てんぷら油など食用油の使用後の油を廃食用油という。その廃食用油は年間50万トン発生し、内訳は業務用25万トン、家庭用25万トンといわれている。廃食用油はバイオディーゼル燃料、家畜肥料、石鹸やインクの原料などに再利用されている。再利用される多くは業務用であり、家庭の廃食用油の多くはゴミとして捨てられている。しかし、昨今NPOなどが中心となり、家庭の廃食用油の回収活動が各地で行われている。

当社では鳥取環境大学、鳥取県の地域NPO法人、鳥取県の回収事業者などでプロジェクトを作り、廃食油回収ロボットを作った。ロボット（高さメートル、幅九十センチ）は、油回収の「油回」や「愉快」にちなんで「ゆかいくん」と名付けた。会員に配られたICカードを機器に当てると、注油口が自動に開く。カードを使わずに開けようとする、ロボットが「泥棒、泥棒」と叫ぶ。第一号機として、2月1日に鳥取市若葉台地区公民館（同市若葉台南二丁目）に設けた。来年度は鳥取県内の施設に10台を設置する予定である。

「ロボットの導入を機に住民の環境意識をより高め、地区の循環型社会を軌道に乗せていきたい」という地域住民の声に応えられるシステムの実現に協力したい。

参考：社団法人日本植物油協会のHP、ごみニュケーションさっぽろ2007.6.20、日本海新聞2009年01月31日

2月18日 「21歳」

安田講堂から火炎瓶を投げるヘルメット姿の学生たちの「学生運動」をテレビで観ていた大学に入学した頃はもう拡声器を持ちヘルメット姿の学生の声は聞こえない

大学は受験からは開放され自由な雰囲気

20歳は大人を意識する子供

21歳は青春のど真ん中の言葉

21歳の響きに心がときめく

激しい時代が終わり

ジーンズに長い髪が格好いい

フォークギターは憧れ

井上陽水、吉田拓郎、かぐや姫、イルカのフォークソングに毒され

「神田川」の映画に涙した

青春したかった

「酒と泪と男と女」、「君の瞳は10000ボルト」、「青春時代」

口ずさむけど彼女はできない

青春なんかしていない

しかし、何か我武者羅していた

振り返ったら青春していた

四年生になる単位取得と就活

長い髪を切った

「いちご白書をもう一度」、「22歳の別れ」、「なごり雪」

別れが悲しい

これも青春だった

創業してからも見えない未来に夢だけで我武者羅に走った

諦めない挑戦が不可能を可能にした

これが青春

これからも夢を実現するために21歳の気持ちで青春したい

2月19日 「育児」

恋人同士が馴れ初めの頃、胸の鼓動を感じながら強く抱き合いキスするとき、互いにこれ以上の幸福がないと思う。この幸せの瞬間が永遠に続いて欲しいと願うものである。しかし、多くの人はこれ以上の幸福を経験したことに気がつかない、またその事実も思い出せない。その経験とは赤ん坊が母親に抱かれて、母親の乳首に吸いつき無心に母乳を飲んでいるときである。

「3つ子の魂 百まで」という諺がある。これは「幼いころの性格は年をとっても変わらない」との意味である。つまり、この三つ子の魂の基礎性格は、建築物でいえば土台であり、土台の上に日々の生活を重ねながら建築物である現在の性格を築いている訳である。だから、土台は大変重要になってくる。土台作りの工事を手抜きすれば、その上の建築物は不安定になり、地震など衝撃で崩れてしまう。これは人間も同じである。土台の形成が正常に行われないと次の疾患になる恐れのある土台も形成されるらしい。

0～1歳児：統合失調症、自閉症

1～2歳児：境界例、パラノイア

2～3歳児：躁鬱病

参考：極楽とんぼの精神分析学入門

フリー百科事典ウィキペディアは「三歳児神話」を次のように書いている。

1951年、ジョン・ボウルビイは母親から引き離されて、乳児院などに預けられた子供の発達不良に関して論文を発表した。

1985年、日本大百科事典の「育児」の項においては「三歳児未満は、親子間の情緒的な関係を緊密にする時期」とされ、三歳までに十分な母子間の緊密な情緒的関係が形成されない場合は「情緒の発達が遅れ、情緒の不安定は次第に強くなる」と記述された。

1998年、「厚生白書」において「自立した個人の生き方を尊重し、お互いを支え合える家族を」との省の主張が掲げられ、「これらのことを踏まえれば、三歳児神話には、少なくとも合理的な根拠は認められない。」と記述された（詳細後述）。

2001年、日本赤ちゃん学会において「三歳児神話」の2種類の定義を中心に議論が進められた。この2つの定義とは、(1)「子どもは3歳までは常時家庭において母親の手で育てないと、その後の成長に悪影響を及ぼす」、という定義であり、(2)「3歳までの脳の成熟は極めて重要であって、その間に正しい刺激を与えなければ、健全な発達が臨めないことがある」という定義である。

2005年、文部科学省の「情動の科学的解明と教育等への応用に関する検討会」は、「適切な情動の発達については、3歳くらいまでに母親をはじめとした家族からの愛情を受け、安定した情緒を育て、その上に発展させていくことが望ましいと思われる」と報告している。

三歳児神話については肯定と否定の見解があるのは事実である。しかし、鳥類や哺乳動物の子育てを見ていると人間の三歳児神話を私は支持する。

私は過去に鬱病になった経験のある一流大学を卒業した社員を多く採用したが、結局ほとんどが就業不能となり退職した。彼らが何回も体調不良で休んだときに色々過去を聞いたが次の事実があった。

1. その社員が幼児期に母親が働いていた。
2. 母親が育児に興味がなかった。
3. 母親と子供の会話が少なかった。



4. 夫婦喧嘩など夫婦仲が良くなかった。
5. 家庭内に父親の暴力があった。
6. 子供の頃、友達と屋外で遊んでいなかった。

社会人になってから鬱病になった人を治すのは不可能であるような気がする。なぜなら人間関係を意識しながら金を稼ぐことは人生で最もストレスが溜まることであるからだ。

幼児期の家庭環境が心の強弱に深い関係があるのは事実であろう。だから、夫婦円満な家庭の中で母親は3歳児まで愛情豊かに育児すれば、大人になってからどんな困難にでも打ち勝つ心の強い人間が育つと思う。

また、孤独こそが心の疾患の温床になりやすい、笑顔で友と遊び、仲間と笑いながら仕事すれば、いつまでも健康でいられる。私は心の病を萌芽させないような職場環境を意識して経営している。

#### 2月20日 「学生のアパート」

私の息子が高校に進学したとき、息子がアルバイトしてよいかと母親に尋ねた。嫁さんは私にそのことを相談した。私は「だめだ」と一蹴した。その理由を説明した。

学生の本分は知識や教養を身につけ、社会に役に立つ人間に成長することである。しかし、アルバイト料で遊びの誘惑にかられ勉強しない。これでは社会に出てから役に立たない。

例えば、私立明治大学の今年度予算を見ると総額で682億円、内訳では学生の納付金が361億円、国庫補助金等が36億円となり、親の負担が半分くらいで、国家も負担している。国立東京大学の今年度予算を見ると総額で1951億円、国庫補助金等が829億円、学生の納付金が161億円となっている。国立大学の収入の半分は税金である。このように多額の税金を使いまた多額を負担する親の気持ちを考えながら、学生であることの幸福を感じるべきである。

一方、企業側は安易に学生を労働資源と考えてはならない。その企業側とはファーストフード、コンビニや居酒屋など挙げられる。アメリカの大学に留学した者を面接したことがある。その応募者によれば、その大学では1週間のアルバイトの時間が制限させ、アルバイトは学内だけで規定されていたと話した。これが米国の大学すべてではないだろうか。このような規定があるのではないか。

大学は学問するための場所であり、単純労働を必要とする企業の労働資源の提供するところではない、国家や社会が繁栄するためには大学側はアルバイトに関する制限を設ける必要があろう、また、企業側は学生を労働資源としない経営姿勢を見せる必要がある。

#### 2月21日 「コンビニ」

コンビニとはコンビニエンスストアの略称であり、便利な店という意味である。セブンイレブンは最初のコンビニで、AM7:00~PM11:00の営業時間からセブン

イレブンの名前が命名された。都内ではちょっと歩けば、なにがしのコンビニで出会う。こんなに乱立して、商売になるのか心配するほどである。

近頃、ほとんどのコンビニは365日24時間営業のノンストップビジネスである。どの会社が24時間営業を始めたのだろう。私が知る限り、ドン・キホーテの前身である「泥棒市場」が24時間営業を始めた。しかし、これは偶然から生まれたサービスである。夜遅く店を閉めようと店の外に山積みしていた商品を店内に入れようとしていても客の切れ間がなく、等々朝まで営業したのが始まりと聞いている。朝までのサービスは売上や利益率が良かったのでそれを知った他社が真似したことによるらしい。

365日24時間営業は仕入れや商品の回転率などで考えると利益率向上に繋がるらしい。経営者と客には嬉しいサービス形態である。しかし、働いている社員やアルバイトには嬉しい労働形態であろうか？夜の労働が果たして幸福になるであろうか？生活が夜と昼が逆転するのだから、家族全員と一緒に食事できない、友達と遊べない。そのような生活は他人から悲しくて寂しいように見える。

すべての生物は昼に活動し、夜は休むような仕組みで長い年月進化してきた。だから、人間は昼間に労働したり遊んだりするのは健全で夜に寝ることは当たり前のことである。我々の身体には体内時計が存在する。その体内時計が正常に動作しないと身体に諸問題が発生する。体内時計を専門用語では概日リズム（サーカディアン・リズム）という。これは約24時間周期で変動する生理現象で、動物、植物、菌類、藻類などほとんどの生物に存在している。

概日リズムの乱れは通常、短期的に良くない影響をおよぼす。多くの旅行者は時差ボケとして知られる状態を経験したことがあるだろう。主な時差ボケの症状として、疲労、失見当識、不眠などがあげられる。いくつかの疾患、例えば双極性障害（bipolar disorder）や概日リズム睡眠障害などは概日リズム機能の低下と結びつけて考えられている。長期的なリズムの乱れは、体の健康を深刻に悪化させる。特に心血管病を発生・悪化させる。

概日リズムの異変は心身の状態を悪化させ、健全な社会生活を送ることができなくなる。私達は太陽と月の出現に合わせた生活を送るように心がける必要があろう。コンビニの24時間サービスは果たして国民全体の生活にとって便利なものであろうか？

参考：フリー百科事典ウィキペディア

#### 2月22日 「花粉症」

私は「なぜ」を考えるのが好きだ。今年は例年に比べ花粉が多いとの予報が出ている。社員にも目のかゆみや鼻水などの症状があり、とてもつらそうである。花粉症は不快な生活、無駄な出費、また労働生産性の悪化にも繋がっている。現在、正確なデータがないが数千万人が花粉症の症状が出ているといわれている。なぜ、（1）こんなに花粉症の国民が多いのか？（2）発病する人とならない人は何が違うのか？私だけでなく疑問

に思うのは当然である。以前から私は花粉症にならないと思っている。なぜなら、田舎者であるから、花粉症は都会病であると漠然と思っている。これらのなぜを調べてみよう。

## 1. なぜ、花粉症の国民が多いのか？

花粉症はくしゃみ、鼻水、鼻づまりなどはアレルギー性鼻炎（鼻アレルギー）の症状であり、花粉の飛散期に一致して症状がおこるため、季節性アレルギー性鼻炎（対：通年性アレルギー性鼻炎）に分類される。また、目の痒みや流涙などはアレルギー性結膜炎の症状であり、季節性アレルギー性結膜炎に分類される。これらを合わせて花粉症という。

花粉症と思われる最古の記述記録は紀元前500年ごろのヒポクラテスの書著である「空気、水、場所について」に残っている。昔から花粉症があったことになり、現代病ではないことである。近年の花粉症は春先に飛散する杉花粉によるものであるといわれている。これは日本の森林の整備不良に起因している。日本国土は非森林面積が1,214万haで全体の33%, 杉人工林が1,040万haの28%, 自然林が1,338万haの32%となっている。木材の価格が低迷しているため、伐採するための経済負担が大きく、伐採や間伐がなされていない森林の放置状態により、近年特に杉花粉の飛散量が多くなっているのである。

## 2. 花粉症になる人ならない人の違いは何か？

花粉症の患者では、原因植物の花粉に対するI g E量が多いことは明らかであり、これがアレルギーを起こす直接の原因である。I g Eが多くても発症しない人がいる。またI g Eの量と重症度とは必ずしも相関しない。

環境が清潔すぎると、アレルギー疾患が増えるという衛生仮説は非常に話題となっていたが、近年、ドイツを中心とする医科学チームの研究により乳幼児期におけるエンドトキシンの曝露量が、以後の花粉症やぜんそくの発症に密接に関係していることが明らかにされた。これは、乳幼児期の環境が清潔すぎるとアレルギー疾患の罹患率が高くなるという重要な報告である。つまり、環境が清潔すぎると免疫機能が低下する恐れがあるということであろう。外で泥まみれに遊ぶ子供は免疫力が強くなり、病気に強くなるような気がする。国立精神・神経センター神経研究所部長の本田学氏の研究によると、超音波を含む熱帯雨林の自然音は脳幹や視床下部を活性化させ、免疫力を強化させるとの報告がなされている。

このように国土の森林の未整備により杉花粉が多く飛散してこと、そして生活上の過度な清潔は免疫機能を低下させ、アレルギー疾患を起こす原因になっている。これが花粉症発病の「なぜ」である。

参考：花粉症撲滅センター、フリー百科事典ウィキペディア、  
NATURE INTERFACE 31号

## 2月23日 「小さな旅1」

金沢八景は神奈川県横浜市金沢区にある。金沢八景は、1694年（元禄7年）に水戸藩主徳川光圀が招いた明の禅僧東卓心越（とうこう しんえつ）が光圀の編纂した『新編鎌倉志』に基づき、山の上にある能見堂（現在の能見台）から見た景色を故郷の瀟湘八景（しょうしょう はっけい）になぞらえて七言絶句の漢詩にして詠み、八景として金沢八景と命名したことが由来となっている。後に歌川広重が浮世絵に描いたことで広く知られるようになった。

品川駅から京浜急行電鉄の三崎口行き快速特急10:54発で金沢八景駅に11:33着の予定で徹夜麻雀明けの光がまぶしい天気の良い日にシロギス釣りを目的に電車で徹夜麻雀で眠ったような社員と乗った。普通電車とは違い、席はボックスシートで乗り心地は良い。雑談していると時間はすぐに過ぎた。金沢文庫駅に止まり、車窓から見える風景を見ながら、ふとなぜ金沢文庫なのか疑問に思った。余談だが、今調べたら鎌倉中期の武将北条実時が建設した武家の文庫で、日本の初期における私設図書館とも位置付けられてことに由来していた。再び、金沢文庫駅を出発して、電車は加速した。すこし経ってから、次の駅なのに少々止まらないなと思いつつ、ドアの上の停車駅案内を見た。そうすると快速特急の停車駅は横須賀中央駅になっていた。乗り過ぎた。参ったな。約束の時間には余裕があったので安心した。横須賀中央駅で降り、上り普通電車に乗換え、やっと11:58に金沢八景に着いた。

別の社員も同じように乗り過ぎていたので議論になった。そうすると12両編成の後ろ4両が金沢文庫駅で切り離させ、普通電車に接続させるのだと分かった。それを知らず、空いている進行方向の先頭車両に乗っていたことに気づいた。次回から間違わないように乗ろうと「後部4両」を心に刻んだ。待ち合わせの喫茶店の前で6人全員集合して、シロギスの釣果の期待に胸を弾ませながら船釣りの「荒川屋」に向かった。

（明日に続く）

## 2月24日 「小さな旅2」

荒川屋は駅から徒歩4分であり、喫茶店の前の国道16号の横断歩道を渡り、横浜方面へ国道16号を道沿いにちょっと歩き、右の分かれた海の公園方面の道を歩くと棧橋が見えた。船着場には他の船宿を含め何艘かの釣り船が釣り人を乗せて出航を待っていた。荒川屋には3艘の船があるようだが、2艘しか見えなかった。1艘の定員は最大35人である。1艘はシロギス釣り船、他の1艘はカレイ釣り船と書かれてあった。その2艘には既に釣り人が乗っていた。

歩道から階段を上がると船宿の待合室がある。乗船名簿に名前や住所を書き、料金を払い、釣りの仕掛けを貰い、階段を下り、板を敷き詰めた船着場についた。今日は釣り人が少ないのでゆったり座れると船長が釣り客に話している声が聞こえた。我々6人は横一列に座りながら、船の側面の縁の穴に差し込んである釣竿の前の座布団の上に座り、仕掛けを道糸に付け、そして煙草に火をつけ、白いかもめがマストの上を飛んでいるのを見ながら、出航を待っていた。もう既に出発予定時間の12:30を過ぎていた。他の船宿の釣り船のエンジン音が重なり合い、出航して行った。そのとき釣り人の興奮を味わった。我々が乗っている釣り船も棧橋から離れ船尾から出港した。

平潟湾（八景の一つ）の潮風が頬に当たり、心地良かった。船は金沢シーサイドラインに沿って平潟湾を走り、帰帆橋を潜り、野島公園駅を左手に残し、眼前に横浜・八景島シーパラダイスの島を見ながら、広く広がった東京湾に出た。船は途中で帆を揚げて、加速した。海の風は容赦なく頬に当たり、髪は乱れ、隣の釣り人との会話が出来なくなった。

八景島のループしたサーフコースターを船の進行方向から右手に残しながら、釣りポイントまで進んだ。海上には他の釣り船があちこちに停泊し、釣り人が竿を下ろし、釣りを楽しんでいた。その先の海面には白い帆のヨットが風を膨らませ、海上を走っていた。我々の船は住友ドック沖で減速し、船体を回転しながら船先を波に向かって停泊した。

「釣ってもいいですよ」と拡声器から船長の声が聞こえた。一斉に餌の環形動物である生きているごかいを口から釣り針に通す。ごかいを釣り針に通すのが中々難しい。やっとなり、仕掛けが完了して、竿を穴から取り出し、揺れる船上でバランスを取りながら立って、竿を水面に並行にしなが、道糸を海中にたらず。道糸が30mくらい降りたところで錘が底に達した。釣り竿を上下に動かしながら、魚を誘き寄せる。それをただ繰り返す。最初は錘の重さに魚が掛かったと勘違いする。糸を巻いても錘と餌のついている釣り針だけである。

それを何回か繰り返すと竿先の動きが微震し、竿を握っている手に「あたり」を感じた。魚をばらさないようにリールをゆっくり巻いて水面まで魚が上がってきたところで最初の釣果であるパールピンクの20cm前後のシロギスが釣りあがった。嬉しい。これが釣りの醍醐味。左手に竿、シロギスが逃げないように右手でしっかりと握み、船内に引き込む。えらの辺りを握み、釣り針を口から外す。そして、海水の満したバケツにシロギスを入れる。これで初めて釣ったことになる。左手に座っていた見知らぬ釣り人はベテランで2本の竿を使いながら、何匹も型の良いシロギスを吊り上げていた。右手の釣り人は社員であったが、最初に掛かったシロギスを手元で海に落とし、落胆した様子だった。

（さらに明日に続く）

2月25日 「小さな旅3」

落胆した社員に始まったばかりだよと慰めの言葉を掛け、再び竿をシェイキングしながら、水平線を眺め、古の人々は水平線の先に何かあるのか考えただろう。その先は大きな

滝があると恐れていただろうか？暑い夏の太陽、海特有の潮風の塩の香り、大海原、青い海、繰り返すキラキラする波、岩にぶつかる白波とその音、海水のしょっぱさ、すべてに驚き、すべてが新鮮だった子供時代に初めて来た海の体験が水平線の向こう側に見えた。

そんなことに空想して、釣れないなと思って、リールを巻いてみると10cmくらいの小さなシロギスが掛かっていた。「あたり」のない釣果は楽しくないが1匹は1匹と思ひ、バケツに入れた。逃がした魚は大きいかな。隣の社員にはあたりがない。彼の右の釣り人は釣れていた。気分は消沈しているように見えた。これから、これからと声を掛けた。

全体的に「あたり」がなくなったので船長が竿を揚げてくださいと拡声器の声で釣り人は釣りを止め、船は新しいポイントに移動し、錨を落す。船長の再開の声で、糸をおろす。錘が海底についたと同時にあたりを感じ、引き上げる。型の良いシロギスが釣れた。右となりの社員にも「あたり」があったようで、型の良いシロギスが釣れ、ほんとうに安堵していた。

彼の右となりの社員には大物が掛かったようで中々引きあがらない。謎の魚と格闘しているようである。吊り上げたものは体調40cmくらいの可愛い目をした子供のサメであった。船長に食べれるか聞いた。サメが美味しくないし、またこのサメの大きさでは食べるところがないと船長は答えた。それでサメを海の中に返した。また、ポイントを変えるために船はエンジン音を大きくしながら加速しながら移動した。時間が過ぎ、空を雲が覆い、少し風が強くなり、海が動き出し、波は高くなってきた。強い寒い潮風は体温を下げ、腹筋に力が入った。

時間的にも最後のポイントだろう。波で船が揺れ、座ったままで糸を垂らした。しばらくするとあたりがあり、シロギスではない魚を釣り上げた。それは銀白色の25cm程度の口の大きな魚な「いしもち」という魚だった。大きな口の中には浮き袋がとびだし、釣り針が奥まで刺さって、なかなか抜けない。強引に口を開いて、釣り針を引き抜いた。この魚の身は水分が多いため鮮度が落ちやすい。塩焼きが一番美味しく、また、鮮度さえ良ければ刺身も美味しいようだ。隣の社員にもあたりがあり、同じく「いしもち」を吊り上げた。「いしもち」の大群がいるようで、入れ食い状態になった。糸を垂らしたら釣れる状態で10匹ほど一気に釣った。もう海の空は帳が下り、薄暗くなっていた。隣の社員も何匹も釣れた。船長が竿を揚げてくださいとの最後の拡声器の声で釣りは終了した。強くなった風は煙草に火をつけさせない。胸の中で火をつけ、大きく深呼吸ながら、隣の社員を見た。彼は誇らしげに口元から煙草の煙を天に向かって大きく吐いていた。

（完）

2月27日（金） 「長岡が熱い?!」

昨日、上野駅8:30発の上越新幹線MAXとき309号で長岡まで行った。越後湯沢駅に近づくと車窓の外は遠くの山々も近くの田んぼも白い雪で覆われていた。今年初めての純白の雪景色に心が洗われた。川端康成が越後湯沢を舞台に書いた小説「雪国」の始ま

りを思い出した。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。」と主人公の島村になった気分です。車窓の外の風景をぼんやりと眺めた。ロマンチックな時間は新幹線の速さでゆっくりと余韻を楽しむことができなかった。

しばらくすると、「長岡」のアナウンスが流れ、下車した。長岡駅には10:13に着いた。NHK大河ドラマで話題になっている直江兼続を主人公にした「天地人」の旗やポスターが目についた。

直江兼続は現在の新潟県南魚沼市で1560年に生まれた。直江兼続は上杉謙信の養子となった上杉景勝に仕え、徳川家康を激怒させたことや長谷堂城攻略を中止して米沢への撤退に成功したことなどが有名である。この撤退戦の見事さは敵である最上義光や徳川家康らに賞賛され、語り草となった。直江兼続は「愛」という字を前立させた兜を所用していたといわれているが戦の中でも使っていたのであろうか？

長岡駅では一万羽のカラスの大群が押し寄せたり、猪が現れたりとして市民の話題となっている。直江兼続を含め、長岡は今、熱い！？

3月1日 「モグラ打ち」

宮崎駿監督のアニメ「トトロ」の情景を浮かべると想像しやすい昭和40年前後の長崎県諫早の田舎で育った子供頃の話です。小学生に入る前の6歳から中学3年生の子供達までが12月になると、日が暮れた暗い夜道を白い息を吐きながら懐中電灯を右手に凸凹の道を歩いて村一番の家に毎年集まり、毎日歌の練習をしていた。その頃は意味も分からず、年輩の先生の歌う吟のリズムの後に毎日繰り返し練習していた。はっきりと覚えていないが次の詞を吟のリズムで歌っていたようだ。

「高砂」のお謡

所は高砂の尾上の松も年古りて  
老いの波もよりくるや  
木の下かげの落葉かくなるまで  
命ながらえてなおいつまでか生の松  
それも久しき名所かな  
それも久しき名所かな  
四海波静にて国も治まる時つ風  
枝を鳴らさぬ御代なれや  
あい相生の、松こそめでたかりけれ  
げにや仰ぎても、事もおろかやかかる代に  
住める民とて豊かなる 君の恵みぞありがたき  
君の恵みぞありがたき

「鶴亀」のお謡

庭の砂（いさご）は金銀の玉をつらねて敷絶（しきた）への五百重（いおえ）の錦や  
瑠璃（るり）の扉（とぼそ）しゃこの行（ゆき）げた瑠璃（め）のう）の橋  
池の汀（みぎわ）の鶴亀は寶菜山（ほうらいさん）もよそならず  
君の恵みぞありがたき

・・・  
・・・

何の目的で歌っていたのであろうか？それがモグラ打ちに繋がっていく。

「モグラ打ち」の伝統行事は今でも地方の農村集落に僅かに残っているようだ。モグラ打ちの起源は定かに分かっていないが、餌が減る冬期間にモグラは食物を求めて地上付近に現れ、庭先や畑の土を掘り起こして麦やネギなどを傷めることがある。これを防ぐ目的で寒さの厳しいこの時期にモグラ退治を行うようになったことに由来するようだ。

モグラ打ちの道具は竹林の山からしなりの良い女竹を数本ノコギリで3mから4mに合わせて切り出し、枝を落として、物干し竿のようになった数本を縄で縛り束ねて竹林から家に持ち帰った。その竿の頭部分に円柱状に藁を巻き、親父の協力を得ながら縄で強く縛る。モグラ打ちはその竿を何度も地面に力強くたたきつける。暗闇の中、地面に槌付ける角度が悪いとすぐ竿が折れる。だから数本用意した。

私の子供時代には新築や改築した家の家内繁栄や商売繁盛、子供の生まれた家の無病息災などの祈願として行われていた。1月14日か15日どちらかの夕刻に子供達がモグラ打ちの竿を持参して集合場所に集まり、リハーサルのモグラ打ちを試してから祝う家を順番に廻っていた。

祝う家の玄関の前もしくは庭で、「鶴は千年亀は万年、こなたのお家（いえ）は万万年、お祝い申そう、やあもそもそ」と中学生の年長者が口上を述べながら、そしてその後につき全員で「やあ」と掛け声を出しながら竿で地面を何度も叩く。これをモグラ打ちと云う。

モグラ打ちが終わった後、新築の大きな家ときは子供達全員が大広間の座敷に案内され、用意されている座布団に座り、子供の年長者が祝いの口上を述べた後、お謡を子供達全員で数曲歌うのである。その後、ご馳走が並んでいるお膳が運ばれて、祝いの一杯の酒を飲んだ後、美味しい食事をすることができた、とても嬉しかった。2軒目の座敷に上がるのは数年に一度で稀だが、その時はお腹一杯になり、全部を食べることができなかった。その家から出て、歩いていると酔いが廻ってくる。子供が酒を飲めるのは年に一度のモグラ打ちのお謡の後の食事のときだけであった。後日、廻った家から祝儀がもらえる。その祝儀を年長者が子供達に公平に分けるので、ほんとうに嬉しいお年玉になった。

その当時は敗戦からようやく復興し、生きる希望を持っていた時代で、多くの人々が貧しかった。しかし、伝統文化を大切にしながら、人々が助け合って生きていたような気がする。だから、アニメの「トトロ」を観ると暖かい感情が湧く。日本企業はアメリカの物まねの営利主義を捨て、日本人は拝金を捨て、利己主義を捨て、忘れ失った日本の良き伝統文化

を思い出し、古き伝統文化を新しい感覚で今日の時代に合わせながら皆が助け合って生きる必要がある。

### 3月2日 「記念」

私が書いた松下幸之助一日一話を読み返した。書いた内容をすっかり忘れていた。いろんな内容を書いていたなと懐かしさも含め自分自身に驚く。第一回目が2004年9月15日で、365回目の最終回が2006年6月21日であった。約1年10ヶ月間に及ぶ大作であり、必死に生きていた証である。

なぜ、9月15日からだろう？この日は老人の日（敬老の日）である。何か記念に重なる日から始めようと考えていたので、9月15日は妻の誕生日であり、その日に合わせて開始した。

第一回目の内容は「仕事を味わう」であり、次のようなことを書いていた。

### 2004年9月15日「仕事」

コピーを依頼したとき、爽やかに受ける人と私がこれをコピーするんですかといやいやながらコピーする人がいます。

爽やかに受ける人は将来重用されます。いやいやながらコピーを受ける人は自分の能力に相当の仕事ではないと判断し、嫌がる心理が働いているのですから、その人は将来重用されることはないと考えます。どんな仕事でも気持ちよく引き受ける気持ちが人脈をつくり、信用を作り、生き甲斐を持てる仕事がどんどん回ってくるようになります。

また、古人が「石の上にも3年」と辛抱忍耐の重要性を語っています。私もそのように努めたいと思います。皆さんもそのように思って、日々を過ごしてもらいたいと思います。

### 2004年9月16日「責任」

私は創業から多くの苦難に対面しました。その個々の苦難にもうだめかも知れないと思ったことが何度かありました。しかし、いつもその困難な出来事を正面から見つめ、逃げることはありませんでした。また、その事実をできるだけ多くの人に話しました。人に話すことで冷静さを取り戻しことができ、考えが整理整頓できました。また、その問題に隠されている本質を見つけ出すこともできました。対策案を幾つも頭で作成しました。そのおのおの案の未来も予測しました。最終的には経営理念に最も近い案を採択してきました。そして、現状の会社があります。

私は常に経営理念を念頭において、言動することを心しています。部課長や社員も経営理念を念頭に言動することは大切であると考えています。短期的に結果がでなくても長期的な展望をもって決断するならば、私はその社員を褒めたいと思います。

過去を振り返るとき、多くの人は懐かしさより恥ずかしさを感じる人が多い。成長して

いない自分を見るから恥ずかしいのであろう。私はその日の自分と翌日の自分は変化し、違う自分が存在していると考えている。だから、過去の自分も恥ずかしくない。

創業するとき、経営理念を作成し、悩むことがあれば、初心の自分に戻り、決断しようと決意したのである。これまでその決意は変えていない、また実践してきた。これからもそうでなければならない。今年には会社にとって最も試練を受ける年になるだろう。だから本年が「未来の繁栄に対する記念の年」になることを祈念したい。

### 3月3日 「雛祭り」

今日は雛祭りの日、平安の中期頃から子供達の無病息災を願ってお祓いする行事であった。また、宮廷の子女が紙で作った小さな人形などで遊ぶ「ひいな遊び」というおままごとがあった。この2つがいつの間にか、いっしょになって、江戸初期頃から3日3日の雛祭りという女性のお祭りになった。

12年前の冬、娘が生まれた。親は人並みに子供を幸せにしたいと思う。生まれた後雛祭りに間に合うようにと吹上から電車で2駅上りの鴻巣まで行く。鴻巣は380年の歴史を持つ古くから人形の町として知られている。中仙道の両脇に綺麗な雛人形を飾っているお店が並んでいた。何処の店に入ろうかと迷いながらも大きな店に入った。七段飾り、五段飾り、三段飾りと宮中の雅にうっとりとする。これを狭い部屋に入れるのは無理、小さなものが良いと考え、二人飾りの所に移った。客が居なかったので女将が親切丁寧に説明する。ちらりと値札を見ながら、話を聞いていた。ちょっと上品な顔立ちの男雛と女雛に目が留まり、それを見ていると女将の話に力が入った。これは私の息子が作った素晴らしいものです。品があるでしょう、さらに身内話まで展開して行った。私と妻は相槌を打ちながら聞いていた。女将の熱意や身上を察して、その二人飾りを買った。

二人飾りが配達され、箱を開け、説明書を見ながら、箆箭の上に飾った。雪洞を灯すと飾りの完成である。部屋の蛍光灯を消し、雪洞の明かりに映える雛人形に娘の無病息災を願った。

### 2004年9月17日「豊かさに見合った厳しさ」

「競馬」、「宝くじ」、「パチンコ」のようなギャンブルで一攫千金の夢を見る人がいますが一攫千金を手にする人はほとんどいません。世の中、甘くありません。

コンビニのアルバイト料金はなぜ安いのか？マイクロソフトのビルゲイツの給与はなぜ高いのか？コンビニのアルバイトはその人だけができるのではなく、交代要員が世界に何億人いるからです。ビルゲイツの交代要員はいません。簡単に言えば、このようなことでしょう。アルバイトの社会的責任は非常に軽いがビルゲイツの社会的責任は非常に重い。給与が高い人は当然希少価値があり、社会的責任も重く、日常での言動も厳しくなります。一般にいえば、収入の多い人は才能があり、良い人格を持っています。

当社の賃金体系にはその厳しさに比例した豊かさを取れるような制度になっていると思

います。資格を取得する過程で根気を持たせ、才能を開花させ、人格の成長を助成するからです。難易度の高い資格取得は人格の形成に役立つと私は信じています。

#### 2004年9月19日「大家族」

高度成長による豊かな賃金が核家族を作ったとも言えます。しかし、生産活動の拡大に伴い、個人の行動半径が広がり、親の生活圏との違いも核家族が進んだ理由ではないのでしょうか。バブルが崩壊し、経済成長が止まって、デフレによる賃金低下が進み、首都圏では2世帯住宅を作る家族が増えているのは事実です。賃金下がると家族が協力して生活レベルを下げないような知恵を働かせているようなことなのでしょう。良いことだと思います。1人より2人、2人より3人、4人より5人家族のほうが楽しいに決まっているからです。

先人は両親や先祖を敬うことの大切を説いています。田舎に両親がいる人はなるべく電話を掛け、家族との対話を図って欲しいものです。

当社も創業当時より社員数が増え、私が各社員に話す時間が急激に減っていることは大変申し訳ないと思います。なるべく、対話を大切にしたいと思います。課長や主任が各社員との対話を行って、心を通じるように努めて欲しいと思います。また、各WGなどで社員間の交流を活発化して、社員間の心を通わせるようにして欲しいです。

#### 3月4日 「扁桃体を知る」

ストレスが溜まると心身の気力が低下し、食欲が減退したり、不眠になったり、何事にも集中できなくなり、不安や心配が大きくなっていく。これでは生きることが楽しくない。

脳幹の中に扁桃体という神経細胞の集まりがあり、これは情動反応処理や記憶に重要な役割を持っていて、快・不快、または喜怒哀楽の感情にかかわりを深く持っている。

扁桃体には嫌いなものに反応する細胞、好きなものに反応する細胞があり、例えば猿は蛇が大嫌いであり、蛇を見るだけで扁桃体が活発に反応し、身体が緊張する。逆に、猿はスイカが大好物であり、スイカを見るだけで扁桃体が活発に反応し、嬉しくなる。

アメリカの心理学者ジェームズは「悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しいのだ」という名言を残している。泣くから悲しい。不満があるから苛立つ。失敗すると心が暗くなる。これは負の情動であり、これは心身に緊張を走らせる。これがストレスである。

笑うから楽しい。美味しいと嬉しい。褒められると喜ぶ。これは心が元気になり、免疫力が高まり、身体機能が高まり、いつでも健康でいられる。

つまり、どんな時でも、負の情動になるような行為をやめ、正の情動に繋がるようにすれば、愉快的な人生が送れ、心身とも元気でいられる。

私は以前「泣かない」と書いたことがあるが、これは悲しいストレスを溜めない方法になって理にかなっている。毎年健康診断を受けるが、昨年より今年が健康になっている。具体的には肺機能（EからA）、聴力（CからA）、消化器検査（CからA）と改善し、ほ

とんどの検査項目がAになった。

笑う門には福来る。これを実践しよう。

#### 2004年9月20日「会議」

- ・ ホンダの創業者である本田宗一郎は会議中、無駄なことをしゃべっている役員がいると、あとでその役員をどなりつけました。
- ・ 豊田章一郎（トヨタ名誉会長）は、廊下を歩いて会議室までいくのに10分もかかるのでは時間ももったいないと、ちょっとした打ち合わせは廊下での立ち話で済ませるようにしていました。
- ・ 京セラの稲盛和夫（同社名誉会長）は、社内で1年間に会議にかかった総時間を出させて、会議時間の徹底的削減をやりました。
- ・ イトーヨーカ堂は、社内のどの会議も1時間半以内と決めている。
- ・ キヤノン電子は課長代理から部長級、役員会議に至るまで、社内の会議はすべて「立ち会議」で行っている。

一流企業の会議方法は参考になります。

よい会議の最低条件は

1. 全員が事前準備する。
2. 全員が発言する。
3. 時間内で会議の目的を達成する。

#### 2004年9月21日「中小企業」

松下幸之助は松下電器産業といえども沢山の中小企業が協力してもらわないと繁栄できないことを社員に理解させ、会社全体として下請企業を大切にしていることがよく表現されているように思います。

戦後の松下電器やソニー、ホンダ、京セラも中小企業から始まりました。なぜ、この会社が名実を持った大企業になったのでしょうか。熱意や夢が他社より強く大きかったのではないかと思います。

幸之助は熱意の重要性をこのように語っています。

「熱意という、一見平凡な条件こそが、一番大事だ。いかに才能や知識があっても、熱意が乏しければ絵に描いた餅に等しい。強い熱意があればこそ、知識や才能が活かされ、何をすべきかが思いつくのである。正しい熱意あるところ必ず、成功の道が開けてくる。」

当社が名実のある会社になるためには、「社員の熱意」と「社員の持つ夢」が大変重要な要素であると考えています。

#### 3月5日 「慢性疲労」

昨日、文京区本郷にある東京大学キャンパスの古木の茂る間にある山上会館に社員と共

に行った。2000年に会社設立してから3ヶ月に一度、NPO法人ウェアラブル環境情報ネット推進機構の主宰する定例講演会と懇親会に参加してきた。

今回の企画は人間情報センシングの応用であり、関西福祉大学健康福祉学部の倉恒弘彦教授（日本疲労学会 理事）の「慢性疲労に陥るメカニズムと診断・対処法」という講演であった。

国民の約4割が慢性的疲労を自覚し、慢性疲労による純経済損失が1.2兆円に達するとの試算がなされている。慢性疲労は各種の複合するストレスを起因して自律神経機能の異常によって発病する。しかし、従来の検査（血液検査、胸部レントゲン、心電図、筋電図、筋組織検査、精神科の診断）では診断できない問題がある。彼らの研究では口内にいるヒトヘルペス6型ウイルスの量を測ることなどで慢性疲労を診断できるとしている。

慢性的疲労を回復する方法の一つとして森林浴が挙げられる。森林浴後の唾液中疲労物質の量が減少していることで疲労回復していると診断できる。これは森林の緑の香りが前頭葉を活性化することでリラックス状態を判断できる。

「肩こり」、「疲れた」やイライラなどを感じたときは会社や自宅の近く公園のベンチに座り、何も考えないで風景を眺めていると疲労回復できる。

2004年9月22日 「平和」

私は人間が地球に生存する限り、戦争は無くならないと思います。動物や植物は生きるために日々戦っています。草食動物は草木を食べます。肉食動物は動物を食べます。昆虫も魚も同様に他の生物を食べて生きています。これは生物の生きるために必要な戦いだからです。戦うことは自然の摂理です。

人間も生きるための戦いを行います。多くの戦争は植民地支配、権力争いや宗教的な対立により始まっています。平和を理想郷と思うならば、すべての人間に理想郷が訪れることはないと思います。楽をして理想郷を手に入れようとするから武器による戦争が起こるのです。しかし、武器を持ち、同じ人間を殺すことが意味のあることなのか。家族や友人間での争いをあまり聞いたことはありません。なぜなら、相互に理解して、なるべく相互の立場を理解・尊重するように努力しようとしているからです。同様な考えで民族・国家間の関係を広げていけば、憎しみを伴う戦争は少なくなると思います。良い意味の戦いが拡大していくように意識すれば、地上から武器を使用した戦争は少なくなると思います。

良い意味での戦争とは切磋琢磨し、個人や団体間の競争をフェアな形で行うことだと思います。代表的なものがオリンピックやワールドカップ等のスポーツ競技です。企業も良い知恵・技術で企業間競争をすれば、大いに国家・社会が発展し、豊かな暮らしができるようになると思います。負けたものは妬む事を捨て、謙虚に努力する必要がある、勝利した者は、奢ることなく、敗者を讃えるように思えば良いと思います。このような考え方が平和であると私は考えます。

2004年9月23日 「空海」

高校の修学旅行で高野山に行ったと思いますが記憶に残っていません。

1200年の時を経た今も、高野山に多くの人が訪れています。なぜでしょう。空海とその弟子たちが「民を救いたい」と思う気持ちが煩惱を持つ人々を惹きつけるのでしょうか。弘法大師空海を調べました。ちょっと歴史の勉強と思い、読んでください。

空海は、774年（宝亀5年）、讃岐の国（香川県）屏風が浦（びょうぶがうら）に三男として生まれた。

18才の時、都の大学へ入る。明経科に入学し、経書（儒学）を学んで、将来の官吏になる勉強を始めた。「雪あかりや螢の光の先で読書した古人をめざして、それでも怠ろうとする気持ちをくじき、また縄を首にかけ錐で股を刺して睡魔を防いだ古人にならって、おのれの不勉強をはげました。」

804年に留学僧として空海は最澄と共に遣唐船で入唐しました。

816年帝より高野山を賜り開祖に着手しました。

835年3月21日寅の刻、声明の響きの中、入定しました。

921年弟子達の熱心な奏請により、朝廷より「弘法大師」の諡号が贈られました。

空海は理想の教育の4条件を上げています。

1. 教育の環境が大切である。『論語』里仁篇「仁の広がるところにおらずして、どうしてものごとを知ることができようか」。学校にとって、立地条件や、建物よりも、もっと大事なものは、「仁」のあるところ、つまり、人間としての最高善、に対する尊敬に満ちた雰囲気である。それは、個人的な立身出世を求める功利的な雰囲気と正反対である。

2. 総合的に学習することが必要である。「(5味の内の) 1味だけでは美膳はなり難い。(5音の内の) 1音だけでは、妙なる調べは作れない」。諸学を兼ね綜べて学ぶこと、つまり総合的な教育の重要性を彼は強調する。

3. そのためには、多くの専門分野を異にする良師が必要である。道（仏教）の師と俗（その他の学問）の師が、ともに必要である。「真俗離れざることは我が師の雅言なり」（仏教の学問と、世間の一般の学問とは、お互いに密接に結びついていて離れえない）。

4. 勉学を続けるためには、師弟ともに給費することが必要である。当時は、大学においても「貴族の人々、とくに地位の低い吏僚、また土豪の子弟が集まったが、学資に窮するものが少なくなかった」とのこと。そのため天皇は、田畑を大学に寄付して勸学田としたこともある。その事情は、一般庶民においてより切迫したものであった。給費制がなければ勉学を続けられないのは、より明らかであろう。ところで、その資金はどこから出るか。空海は『綜芸種智院式并序』の最後に、広く寄付をよびかける。しかし、予想されるように、実際、学校は主に経済的な理由から、10年足らずで活動を中止してしまったようである。

善意の寄付だけで教育を続けられないのは古今変わらないようです。学問とは生きるための知恵ですから、労働する中で目的のある学問をすることが生きる喜びに繋がると思いません。

#### 栄枯盛衰

歴史は栄枯盛衰の繰り返しです。その中に人間のドラマがあり、先人の喜怒哀楽が伝わってきます。

私は若い頃から芭蕉の句が好きです。栄枯盛衰を読んだ句ですぐに思い出すのは

##### ◎夏草や兵どもが夢の跡

句解釈：人気のないところに、今はただ夏草だけが生き茂るばかりだが、ここは、かつて義経主従や藤原一族の者たちが功名・栄華を夢見たところである。知るや知らずやこの夏草を眺めていると、すべてが一炊の夢と消えた哀れさに心が誘われる。

##### ◎五月雨の降のこしてや光堂

句解釈：かつて栄華を極めた平泉を訪ねてみれば、粗方の古きものが土と消えた中で、金色堂だけは500年を越える歳月を忍耐し、かつての姿をとどめていた。

栄華は砂城のように儂いものであり、消えた栄華は大変哀れに思え、生きることの儂さが伝わってきます。

企業も同様に栄枯盛衰があります。これは自然の摂理と考えれば、未来に憂いを持っても仕方ありません。個人や団体が生きたかを決め、その生き方を貫くかが重要です。世の中が良い考えと思えば、その思想とか業績を継続的に若者たちが次世代に伝えてくれるのではないか。これを文化と呼ぶのではないかと思います。

#### 3月6日 「不透明」

ニューヨーク株式相場はアメリカの金融機関の経営不安が強まったことやゼネラル・モーターズが損失拡大や資金の流出が続けば、事業を継続できるかどうか懸念があるとの決算を担当した監査法人の指摘による経営不安が強まったことで、平均株価は11年11ヶ月ぶりに6600ドルを下回った。2007年7月23日のN.Y株価は最高値の14000ドルを付け、その後は急斜面を駆け落ちるように急落した。ピーク時の47%まで達している。

日経平均株価は2007年7月23日には約18000円の値をつけたが、N.Y株価と同様に急落して来た。昨日の終値が7433円とピーク時の41%まで落ちた。

株価などが実体経済を左右する金融システムは我々の知恵や努力には関係ない所で世界を動かしてきた。その破綻がまた実体経済を飲み込み、制御不能に陥っている。我々の未来を予測させない金融システムを制御できるような政策が必要である。

世界の实体经济は音を立て崩れていっている。それを見守るしかない状況は悲しい。ま

た、この先どのような未来があるのか、私には分からない。

#### 2004年9月24日 「人に尋ねる」

私は会社を作る前に、仕事で世話になった大企業の先輩達に創業の祝いとして言葉を頂きたいとお願いしました。

「歳月が初心を風化させ、驕るようになる。今の謙虚な気持ちを忘れないように。初心を忘れるな！」

「経営者は会社の責任者である。従業員とその家族を考え、感情的言動を抑え、常に平常心を持つように。」

他にも言葉を幾つか頂きました。記憶のインデックスがなくなったようです。思い出せません。記録する必要がありました。先輩達の言葉には人生経験を伴った暖かいものがあり、大切にしています。私は古典や歴史上の先人達の言葉を自分なりに解釈して、彼らの思想に近づきたいと努力しています。

現在の職業を天職と思っています。才能があるとかではなくて、好きだから、苦痛なく24時間仕事のことを考えることができます。私は「諦めない」という言葉が好きです。多くの人は途中で諦めます。そして、老いてから「もっと努力とか勉強しておけばよかったとかなど」後悔する人がいます。私は社員に後悔しない人生を送って貰いたいと思います。

社員に思うこと。

- ・社員が仕事を好きになれること。
- ・学問が面白いと感じること。
- ・家族に夢を与えること。
- ・お客様から「ありがとう。」を言って下さること。

私は自分の野心や欲望を捨てるように努めています。無理はしないように、リスクを少なくするように、夢のある会社であるように心がけています。世間様から立派な会社だねと言われる日が来ることを夢見ながら。

#### 2004年9月25日 「真剣勝負」

真剣勝負とは本物の剣を用いて勝負することを言います。武蔵は生涯、真剣勝負を六十余試合戦って一度も負けた事がないと言われています。負けたら、死を背負っての戦いですからまともな神経ではないことが判ります。プロスポーツ選手や囲碁・将棋などの棋士達の練習は凄いです。それでも勝たないとその世界に留まることができない厳しい世界です。

私達もプロとしての自覚を持って仕事をする必要があります。プロは心身とも健康でないと良い仕事できません。257安打の記録に挑戦しているイチローは体調が悪いから今日休ませてくださいというのでしょうか。一流選手には極めて強い精神力と人格があります。



そのような人間でないとい偉大な記録に挑戦などできません。プロは拍手を貰わなくてはなりません。私達もイチロー選手のようにお客様から拍手をもらえるようなプロの仕事をしたいものです。

### 3月8日 「世界金融危機の原因」

私達は米国のサブプライムローンに端を発した世界同時不況に巻き込まれ、厳しい状況に置かれている。私もこの世界金融危機を良く分からないので勉強した。世界金融危機はなぜ起こったのか。

1. 1990年の世界の实体经济は3100兆円で、金融資産が5500兆円であった。17年後の2007年には实体经济は6400兆円で、金融資産が2京2000兆円にも膨らんで、膨大な投資マネーが金融バブルの温床になっていた。
2. 米国経済の好調を背景に1993年からの米国は住宅ブームが起り、住宅価格が毎年10%上昇するようになった。銀行は好調な住宅ブームにより移民などの低所得者向け住宅ローン（サブプライムローン）を販売した。
3. 米国の証券会社は爆発的に金融商品を取り扱うようになった。その一つに証券化商品があり、自動車、カード、住宅ローンなどのさまざまな債権を組み合わせて作られた。損失のリスクを分散することが目的であった。しかし、証券化商品を組み込んだ新たな証券化商品が作られ、サブプライムローンなどのハイリスクな債権が見えなくなった。
4. 1990年代半ばに米国は製造業から金融を柱とする国家戦略を立て、金融自由化を図り、銀行や保険会社にも金融商品を扱えるようにし、世界からの資金を流入させる仕組みを作った。
5. レバレッジによる過剰な投資が金融システムに重大な問題を引き起こした。
6. 証券会社は短期的利益を追求し、従業員に利益連動型報酬を与えた。従業員は利益を追求し、また莫大な報酬を貰うために道徳心を捨てた。

このような問題が複合的に重なり合い、米国の金融経済は膨張した。米国政府は公定歩合を上げる政策を行ったがすでに暴走した金融経済を制御することが出来なくなっていた。

2007年から米国住宅価格は下落を続け、2008年4月には1987年以来の最大の下落となった。2008年9月14日、アメリカで4番目に大きな投資銀行であるリーマン・ブラザーズが商業不動産関連投資の損失拡大などの原因に伴い経営破綻した。それきっかけに、2008年10月に米国の株価が暴落し、世界中の株価が下がり続け、信用収縮が始まり、金融バブルは破綻した。それによって、世界中の経済活動が萎縮し、資金調達ができない、商品が売れない、失業者蔓延などの問題を引き起こし、大不況になっている。

G7などで金融危機回避や景気浮上などの強調政策が実施されている。しかし、株価は下落が続き、不況は深刻さを増している。1929年末に始まった世界大恐慌は第二次世界大戦が始まるまでの四年間続いた。今回のサブプライムローンに端を発した世界同時不況

は世界大恐慌と同じように景気が回復するまでにはある程度の時間を要するとの悲観的な予測をする報道が多い。世界中の不良債権の大きさが分からないことなどから私もそのような気がする。

しかし、我々はなんとしても知恵を使い、新しい挑戦を挑みながらこの苦境を乗り越えなければならない。

### 2004年9月28日「ユビキタス社会の落とし穴」

幸之助がコンピュータ開発を断念した話は有名です。

幸之助は、利益を生まないものは作らないという信念を持っていました。1964年、幸之助は、幹部を集めて会議を開きました。議題は、「コンピュータの開発を続けるかどうか」です。当時、コンピュータを開発している会社は、7社ありました。幸之助は、7社は多すぎるので、コンピュータの開発を辞めることを提案しました。意見を求められた幹部は、「開発を辞めたら、松下は、エレクトロニクス事業で遅れをとる」と発言しました。

しかし、幸之助は、「コンピュータを扱っていない店は全て潰れるのか」と反論しました。幹部の意見を全て聞き、結局、幸之助は、コンピュータの開発を断念しました。これは、後に、松下がパソコン分野で遅れを取った原因であるといわれています。そのため、幸之助のミスジャッジともいわれています。

今や幸之助が開発を断念したコンピュータや通信網がないと何もできない社会に至っています。私達はコンピュータや通信ネットワークの恩恵なしに生活できません。電子メールは多くの人に同時に同時に正確にメッセージを送ることができます。この電子メール等のITツールを利用して仕事を素早く決断・処理することができるようになりました。この電子メールが従来型の組織を変えたと言っても過言にはならないでしょう。

しかし、簡単に手紙（電子メールによる）を送ることができるため、その手紙が自分の意図した目的に使われないことがあります。つまり、誤解を招くこともあるので注意を要します。私は常にそれを意識して誤解されないように目的、事実と思想を正確に書くように努めています。企業での電子メールでは人の悪口、中傷、事実確認のない噂話等を絶対に書いてはなりません。また、社員が軽い気持ちで書いた内容がお客様に冗談を超えて致命的な誤解を招いた事例があります。お客様には内容を精査してメールを送るように心がけてください。

### 2004年9月29日「仁」

「子供を思う親の心は深い」と言われます。人間も動物も子供を守るためには自分の命を捨てる覚悟があります。これが真の愛情であると思います。このような行為を他人のためにできるでしょうか。中々できないことです。孔子はこのような人を「仁」を備えていると考えています。「仁」とは何か。仁とは「相手に対する思いやりの心」です。では、どのようにすれば、仁を持てるのでしょうか。論語の陽貨第十七に書かれています。

能く五つの者を天下に行うものを仁となす。恭・寛・信・敏・恵それなり。

「恭（きょう）はうやうやしく身を慎めば、人から侮られることはない。

「寛（かん）は心を広く持てば、多くの人が集まってくる。

「信（しん）は信用を重んずれば、仕事は任せてもらえる。

「敏（びん）はぐずぐずしないでテキパキと片付ければ、仕事ははかどる。

「恵（けい）は人に恩恵を与える人ならば、黙っていても人を動かせる。

各自が恭・寛・信・敏・恵の五つの能力を備えるように努めれば、商売が大いに繁栄するでしょう。

### 3月9日 「IT業界の現状と課題」

2月20日、前橋にある群馬テレビで毎週放送される30分番組のビジネスジャーナルにアナウンサーの淵上詩乃さんと共にコメンテータとして出演した。何を話してよいかと頭が真っ白になるくらい大変緊張した。番組のご意見頂戴のコーナーで7分間の時間を貰って「IT業界の現状と課題」を話した。

IT業界は日進月歩の技術革新、国民のライフワークの変化、経営環境の変化やビジネスのグローバル化を背景に急速に成長してきた。社団法人 情報サービス産業協会が作成した特定サービス産業実態調査によると情報サービス産業は1990年の売上高が7兆1,276億円、従業員数は48万8469人、2000年が10兆7,228億円、従業員数は54万7928人、さらに2007年には売上高が16兆7,959億円、従業員数は78万6677人と急成長してきた。

また、通信事業者の交換機障害によるオンライン業務停止や通話停止、銀行のオンラインシステムダウンによる取引停止、証券システムダウンによる株式の売買停止、航空機の予約システム障害で空港が大混乱になったなどの重大な社会的影響があった。それだけコンピュータを利用した業務システムの社会的責任は大きくなり、IT業界の社会的使命も大きくなってきた。しかし、3Kに象徴されるようにIT業界で働く従業員は多様な業務システムを苦悩しながら開発している。

このような現状を整理してみると

1. 3K（きつい、帰れない、給与が安い）という言葉で象徴されるように極めて労働環境が悪い。
2. コンピュータのハードウェアやソフトウェアの急速な技術革新により、従事する技術者は実務と勉強にと激しく追い込まれるようになった。日進月歩の技術革新に取り残されたシステムエンジニアやプログラマは市場からの必要性を失い、疲労と失意の中で他業界に転職し去っている。そのような現実が35歳定年説なる言葉を生んだ。
3. システム構築を望む発注側（エンドユーザ）は業務には精通しているがコンピュータやソフトウェア、通信ネットワークなどのITのことに対する知識は浅い。逆に受注側（システムインテグレータ）はITには精通しているが開発する業務の知識が浅い。

発注側と受注側の相互が互いのことを知らないことで円滑に意思疎通が図られないという問題が発生している。納期が決まっているにもかかわらず、時間が過ぎても基本設計書が纏まらない。何時も仕様変更などの言葉を使って、下流工程に皺寄せがなされている。これが品質の悪化、超過工数の原因にもなっている。

4. 近年、エンドユーザの急激な情報化投資でIT技術者の確保が難しくなったり、開発コストが高くなったりという理由で低コストの技術者を確保できる中国・インドなど発展途上国にプログラミングなどの製造工程を委託する「オフショア」が多くなっている。そのため、日本のIT技術者がプログラミングなどのものづくりできない、技術の空洞化が進行している。  
(明日につづく)

### 2004年9月30日「感謝」

永安幸正教授は「感謝」を次のように説明しています。

感謝とはまず、「自分は偉大な恵みをいただいている存在である」という事実気づき、その恵みを「有り難いことである」と受けとめ、ちょうだいする心です。すなわち、「有り難くも、恵みとして計り知れない宝や財産が自分に与えられている」という事実気づきことです。言い換えると、自分は大いなる潜在力を恵まれ保持している人間である、と気づくことです。この恵みが恩（恵）と言われるものです。日々、ことごとに、この恵みに気づくと気づかないのでは、人生行路において、天地雲泥の開きが生じるのです。

さらに進んで、感謝とは、そうした恵みを「どなた」からいただいているのであるから、いつも「どなた」が、自分への思いやり、保護、手助け、愛情を注いでくださっているのであると気づくことです。すなわち、「自分はだれからも愛されないままに荒野に放り出されているのではない」と考えるのです。「神仏はいつも私を見ておられる」という教えが、どれだけ人類を励ましてきたことでしょうか。人間は弱い生き物。思いやり包み込んでくれる大いなる存在を求めます。これこそがわれわれの希望の源なのです。

こうして、自分を保護し、援助し、愛してくださる方がいらっしゃる信じることができれば、たとえ弱い存在であるわれわれでも、だんだんと元気が出てくるのです。なぜなら、自分は「その方」の力で「支えられている、見捨てられてはいない、期待されている、愛されている」と、徐々に思えてくるからです。「その方」とは、神仏であり、親先祖であり、恩人であり、人類社会であり、宇宙・天地自然であるのです。

だから、ブッタは仏の無量の恵みを説き、その恵みを慈悲として人々に教え、イエスは神の無償の愛（アガペー）の働きを強調し、孔子も天と恩人の働きにある仁というものを強調されたのです。これこそ人生に社会に希望をもたらす倫理道德の源泉でしょう。

こうして、感謝する心をもって、恵みとか慈悲とか愛の働きをなさる方の存在を思うようになれば、自分で自分の中にある天分（因、恵みの資源）を育てることができるようになります。不運、困難、苦しみは、人生という旅の味わいを深める出会いであり、恵みな

のです。平坦な人生より、平和な世界より、むしろ味わいが深いことになるのです。

ひとたび自分の宝に気づき、支えてくれる方の思いやりに包まれていると感じることができれば、その自分に恵まれた宝を見つけ出して磨きをかけ、自分の力を発揮したいという元気がおのずと湧き出てくるようになるのです。すなわち、「自分は天分天才を恵まれているのだ」という自覚ができ、その天分天才を発芽させ育てることに心が集中する。そして、少しでも芽が出はじめたとき、さらに感謝の心を持ち続けければ、その天分天才という宝の芽はますます勢よく伸びていく。だれでも、すべてを恵みとして感謝し、自分のその恵みに気がつけば、天分を伸ばすことができるのです。

ですから、家庭でいえば親たるものは、毎日の会話と行動で、みずから感謝の心を育て、子どもに教えることが望まれます。子どもの欠点ばかりに目を向けて、そこを批判するより、欠点も含めいっさい恵みへの感謝の心をもって子どもを褒め、子どもが自分で自分の天分を伸ばすことに援助をします。感謝の心のない家庭では、親にも子どもにも自暴自棄と絶望の谷が待ち構えているといえます。

感謝は創造の母。この言葉は、自己の恵みに気づく人にとっては、まさしく疑いのない事実を言い表しています。創造の根本は、宇宙の一隅で、宇宙から自己に対して恵んでいただいた天分天才の芽を出させ伸ばすことです。自己の内なる生命力（因）を外部の条件（縁、出会い）と結びつけ、人生の果実をより豊かに生産することです。

幸せとは、天与の恵みを育て、より高い価値を創造することです。創造は感謝から表れ、苦しみを喜びにつくり変えます。感謝は偉大な力を秘めているのです。

挨拶する時、有難いと感謝の心を持てば、その挨拶に心が籠ります。相手は良い人だなと思うでしょう。有難いと思って食事を取るとご馳走に感じます。話し言葉教室の金井学院長から聞いたことですが、松下幸之助に人生で一番大切なことは何かを尋ねたら「人生で最も重要なものは素直さである。」と答えたそうです。すべての物事に有難いと感謝するとき、その人は素直な気持ちになっています。

## 2004年10月1日「倫理教育の重要性」

孔子は罰を持って国を治めるより徳を持って治めるべきであると説いている。しかし、現在のような社会変化が激しい時代では他人に無関心になり、企業も営利主義に走り、若者は苦勞する生き方を嫌う風潮がある。そのような背景の中で徳をもって国を治めることができないと考える。

立法は常識の確立であり、悪いことをすれば新たな法律ができる。また、新たな犯罪を起これば、新たな法律ができる。ここまで法律を作らなければ、犯罪を抑制できないのは異常なことだと思う。倫理観の欠如が根底にある。日々、真面目に生活している人が不幸に見舞われる社会を異常事態であると憂いを隠せない。近頃のニュースに流れる犯罪を見るたびに幼い子供を持つ親の不安さを察する。このような状況で処罰の強化や警官の増員では犯罪を抑制できないと憂いを持つ。

正常な法治国家を維持するためには子供のときに学力教育重視から倫理教育重視に重点を移すことや他人の子供でも注意する社会の目が必要ではないかと思う。

来年の4月1日より施行される個人情報保護法に関して、倫理観の欠如人間が犯す行為に対する予防のために多くの企業が膨大な費用を使わなければならない。予防するために科学技術は確実に発展するかもしれないが、人を疑う社会が良い社会なのだろうか。人を信じられる抜本的な解決策はないだろうか。

## 3月10日 「IT業界の現状と課題2」

このような現状になったのはなぜだろうか？原因を整理してみよう。

1. 商業や土木建築は数千年の歴史を持つのに対してコンピュータの歴史は僅か50年である。IT業界は産業的に未成熟であるにもかかわらず、社会的な背景で急激な成長してきた。私がこの業界に入った頃はアナログ交換機の開発や機能的に不十分なメインフレームの時代であり、ハードウェアの技術者は尊重され、ソフトウェア技術者は人気がなかったような気がする。独立系のソフトウェア会社には優秀な人材は来ない。その頃の日経コンピュータの記事に下請けのソフトウェア技術者はメーカーの「お手伝いさん」などと書かれていたことを思い出す。ソフトウェア業界には当初から優秀な人材は集まらなかった。メインフレームでのソフトウェア開発はCOBOL言語でのアプリケーション開発が主流であり、力仕事で出来ることもあって、そんなに知的能力を必要としなかった。力仕事とは納期前など100時間残業が当たり前、そんな背景で文句を言わない肉体労働に強い人材が好まれていたと思う。しかしながら、UNIX-OSの出現で事態は一変した。ダウンサイジングの波により、高価なメインフレームが安価なUNIX-OSを搭載したサーバマシンに置き換わっていく時代が到来した。しかしながら、ソフトウェア開発は知的労働ではなくなり、肉体労働業種になっていた。時代はスピードを要求し、企業が国際競争に勝つためにビジネスのグローバル化が進んだ。そんな背景に企業のコンピュータ投資は加速的に増えた。ソフトウェア会社は人間を集めれば儲ける。人材の質などどうでも良かった。集めれば儲かる。しかし、開発はトラブル、さらに増員するとその悪循環のスパイラルに入っていた。ただ、2chなどでブラック企業と叩かれているソフトウェア会社のオーナーだけが巨万の富を作り、業界に対する権力をも持った。これは業界の歴史的事実であり、3Kという業界の悪いイメージが定着し、優秀な人材は他業種に就職することが当然となって今日まで来た。
2. ソフトウェア開発はほんとうに日進月歩に新しいアーキテクチャーが大波のように後から後から現れてくる。開発言語、ネットワーク、OS、アプリケーションサーバ、フレームワークで新語の続出であり、個々にも進化が凄まじい。新しい概念はすべて英語であり、何を言っているのかチンプンカンプン、どのように使うのかもチンプンカンプン、使いこなせるようになったら、また新しい概念が登場する。これがITの

常識である。IT企業はOFF-JTをしたいのだが、教育投資が見えない、新しい技術を知っている教官がいらないなどでアカデミックな教育ができない。実践あるのみとOJTに比重をかけてきた。これでは建築士にはなれない。大工さんのような職人にしかなれない。大工さんでは同じことをするには都合がよいが新しいことには苦手である。だから、業界の歴史が50年あるにもかかわらず上級SEが非常に少ない。この業界がOJTに依存した教育をしてきたことが人材育成に繋がらなかった最大の原因である。

3. この業界は非常に建築業と同じで多重下請け構造になり、大きなプロジェクトになるとシステムエンジニアやプログラマが玉石混交となり、彼らの能力に依存した狭義の理解範囲でしか物事が運ばない。また、多重階層からの要員はどの会社に所属しているか分からなく、厳しいことをいえば明日から出てこないなどと指揮命令が難しく、プロジェクト管理が非常に難しい。そのような形態で進行したプロジェクトは必ず最後には低生産性で工数が増大した粗悪な品質で終焉する。玉石混交の技術者と多重階層の構造がこの業界を悪くした。

(明日につづく)

2004年10月2日 「シミュレーター」

昔、某大手メーカーで完全Q3インタフェースの伝送装置の開発に参加したことがある。Q3が全く分らない。OSIテンプレートがすべて英語で書いてある。全く歯が立たないと思った。ファームウェア開発も経験ない。バブルが崩壊した後のこんな大きな仕事だったので会社側は某大手メーカーの副社長に遣らせていただきますと返事した。某大手メーカーも藁でも縋りたい酷い状況だった。私はリアルタイムOSでアイスでのデバックでは時間と工数が天文学的に大きくなり、品質の悪い状況では納期の予測は困難と思った。ファームウェアをUNIX上で擬似リアルタイムOSを実現して開発できないかと考えた。UNIXでシミュレーターの開発を某大手メーカーに提案した。この提案に確信があったわけではない。兎に角挑戦しようと思った。Q3インタフェースを理解するのとシミュレーターの開発検討を同時に行ったが時だけが過ぎた。OSIテンプレートも理解できるようになった。MC68000のソースをUNIX上で動作することができるようになった。リング状に結ばれた伝送ノードをUNIX上の仮想ノードに実現する方式も考案した。何とか形になっていった。しかし、データ生成が大きな課題として残った。人間がパラメータを作ることは不可能であった。ここに私の考案した方式の大きな欠陥があった。私はシミュレーター開発に没頭しなければならず、全体のプロジェクト状況を見ることが出来なかった。益々プロジェクトの状況は悪化した。どうしようもなかった。シミュレーター開発を急いだ。何とかいけるのかという状況になった。シミュレーターでのデバックを担当した。実OS上で発見できないバグをシミュレーターで発見することが可能になった。

膨大なデータを蓄積し、数千のデバックパターンを瞬間に実行する自動試験も考案した。

伝送装置全体をシミュレーターでできなかったがQ3インタフェース部分のデバックがそこそこできるようになった。シミュレーターを使うことによりデグレードがなくなり、極めて品質の良いシステムになった。某大手メーカーはユーザA社とユーザB社に伝送装置を納品することができた。シミュレーターでリング型伝送ノードの開発方法を考案したが短期間で十分な評価が出来なかったのが大変残念だった。

このプロジェクトは維持管理のため縮小した。某大手メーカーはユーザA社とユーザB社から大変褒められた。私の考案した方式で極めて品質の良い製品ができたことを某大手メーカーの上層部は大変評価した。風の便りで聞いた。新たな消化活動は別の某大手メーカーの海浜幕張のプロジェクトに移っていた。後日当社に入社した社員と出会ったプロジェクトだった。

2004年10月3日 「見栄」

中国では今でも祖父母を最も尊敬しなければならない。子供達は親の為に働かなければならないとの思想が未だ残っている。子供は親の面倒を見るのは当然なのでと考えている。儒教の思想であろう。戦前の日本も同じであったようだ。先祖を大切に思うことはどの民族も同じである。

娘のピアノの先生から見ると、中国人の母親は非常に教育熱心である。逆に日本人の母親は教育熱心ではない。理由として中国人の母親は家庭で良くピアノの練習を指導している。しかし、日本人の母親は家庭で練習をさせていないようだ。

日本人の母親は習い事に行かせていることが重要で、その成果や上達度には関心がないのかな。上達しないのは先生の教え方に問題があると愚痴を漏らすのだろう。自分の子供の成績はすべて学校の先生の指導で決まると思っている。自分の子供の成績が悪いのは教え方に問題がある。宿題を出さないから、良く覚えないと先生に文句を言う。つまり子供の成長を喜ぶのではなく、上位の成績は母親としての面目を保てるのであろう。

電車に乗っていると不釣り合いなブランド品を身につけている茶髪の若い女性を見かける。中身の無い自分をブランド品で飾りつけることで自分の付加価値を高める哀れな努力をしている。

私立の中学校説明会に参加するが土曜日でも父親の姿を見かけることが少なく、母親の姿しか見えない。もっと父親は子供に関心を必要がある。父親は仕事だけでなく、父親としての思想信条を子供に語り、子供の躾とか教育をしてもらいたい。独身男性は熱い情熱で女性を口説き、少子化に歯止めを掛けてもらいたい。

3月11日 「IT業界の現状と課題3」

このような現状の問題をどのように改善したらよいだろうか？

1. 人材育成に力を入れることを最優先に行わなければならない。そのためには最低情報処理の知識が必要になる。大学や専門学校で基礎知識を取得していればよい多くのIT技術者はいろんな学科を卒業しているので情報処理の基礎知識はないと思

ってよい。企業に入社してからじっくりと教育することは資金的時間的に難しい。やはり、多数の情報処理の資格を取得することで情報処理の知識を積み重ねていく以外にない。資格取得の意義と資格取得の方法をきちんと時間を割いて指導することが必要である。

OFF-JTではシステム開発に必要な知識、問題分析のアプローチ方法、折衝など高度なコミュニケーション能力開発、自分の立場で物事を考えるだけでなく、相手の立場で洞察する能力や感性をも身に付けさせなければならない。

能力開発や実務の達成度などを客観的に見るには経済産業省のIPAが推進しているITスキル標準を利用して、毎年IT技術者の成長をITスキルレベルで把握し、長期的な視野で人材育成をする必要がある。IT業界ではIT技術者の転職が多い。だからといって、企業は技術者が転職するから人材投資するのがもったいないという考え方を捨てなければならない。人材は社会共通の財産であり、他企業に転出したといえども転入先企業を通じて社会に貢献できるという寛大な気持ちを経営者は持たなければならない。また、転出先で人材が活躍すれば、それが回帰して自社にも有益になることも理解すべきである。

2. この業界を3Kから脱却させなければならない。そのためには賃金を上げ、社会的地位を向上させなければならない。また、労働時間を短縮しなければならない。客観的な能力で賃金を決め、IT業界のイメージUPを図るように業界団体が啓蒙活動すべきである。さらに業務システムを受注するときに発注側（エンドユーザ側）と受注側（システムインテグレータ側）の間で責任の分解点の明確化を図り、きちんとした契約をする必要がある。発注側は仕事を出すという強い立場にあり、受注側は仕事を貰うという弱い立場がある。それによって、開発費を抑えられることは慎むべきである。公共事業などの入札は最低価格落札方式をとっている場合もある。しかし、無理に落札すると悲劇が起こる。発注仕様書が実にいい加減で、どのように予定価格を設定したのか大いに疑問が残る。打合せでぞろぞろと新たな資料が出てくる。これでは価格の応じた粗悪な成果となり、税金を溝に捨てるようなもので公共のシステム開発は衰退していく。

システム開発を安易に考えているエンドユーザが多いことが我々の業界が3Kになっている要因にもなっている。自ら業界の品格を上げること、それからエンドユーザにシステム開発の難しさを理解する地道な取組みが業界の地位向上につながり、技術者の労働環境が改善させると思う。

3. 近頃、システム構築するエンドユーザにCIO（最高情報責任者）を置くケースが増えている。それは情報システムの価値が認識され、急速に変化するビジネスにいち早く対応する経営判断が必要になったからである。CIOは企業内の業務と情報処理ともに理解を示す能力があり、従来は発注側と受注側の円滑な意思疎通の障害になっていたことを取り除くことができる。それによって、発注側と受注側相互に

利益をもたらす。多くのシステム構築するエンドユーザはCIO（最高情報責任者）を考える必要がある。

4. 現在、大小含め約1万2000社のIT企業がある。多くは中小企業である。中小企業は人材派遣でしか食べていけない。それが多重階層の下請けを許す型になっている。これではまともな経営や人材育成はできない。企業機密保持契約や個人情報保護契約なども鑑みて、エンドユーザから下請けまで最大4階層までにするべきである。それによって各企業は知恵や努力を駆使しなければならない。その結果として健全な業界発展が期待できる。
5. 単価の安いオフショアは確かに営利目的の企業の収益には貢献するが日本国全体の長期的利益につながるのだろうか？現状のオフショアは上流工程と総合試験などは日本人SEでその中間が中国などの新興国に発注している。オフショアからの品質がよければ問題ないが不良の場合、日本人SEが疲弊し且つオフショアに対する嫌悪感を持つ。不良の場合、長期的に友好関係が築けるだろうか。また、若いプログラマがオフショアによって、製造できなくなり技術の空洞化が発生し、彼らその後立派なシステムエンジニアになれるのであろうか。私はオフショアを否定しないが、民間企業の短期的利益追求、日本人SEの尻拭い、日本人の若い人材が育成できないことや長期の友好関係を築けなかったりしたら、次世代の技術者にとって不利益にならないだろうか。私の思うことは老婆心に過ぎないだろうか？長期的な視点で国益になかったオフショアを考える必要があると思う。

2004年10月5日 「休日」

会社を作る前、社員としての立場で休日は仕事をしていなかった。休日は家族と出かけることが多かった。会社を作ってから休日もなく、仕事をしている。仕事は趣味のようになった。好きでやっているのだから、苦にならない。趣味がないのは寂しい気もする。

休日も積極的に楽しく過ごすような気持ちで生活すると仕事も前向きになってくる。休日は疲れたからゆっくり休もうとか思うより、寝そべりながら、読書しようと思う気持ちがよいのではないか。

ワーキンググループに参加している人達は休日にテニス、ビリヤードをしたりして、盛り上がっているようだ。WGではないが数人の社員で外房まで釣りに出かけている。このように社員が交流しながら休日を計画的に楽しく過ごしている状況が大変嬉しく思う。

2004年10月6日 「気力」

2004年2月28日、アメリカ、ユタ州のスノーバード・スキー場でプロスキーヤー・山岳カメラマンである満100歳の三浦敬三が標高3000メートルの地点からの滑走に成功した記事がある。人間には大きな可能性を秘めている。遣りたいと思う気持ちが大切であろう。「病氣」はこのような漢字になっている。病は気からである。年を取ると体力は

確かに落ちるが、気力は精神作用であり、テニスで汗をかいている元気な爺さんになったり、ぼんやりと縁側で日向ぼっこしている老人になったりと気持ちの持ちようが変わる。決して諦めない気持ちが気力を維持できるのだと私は考える。

### 3月12日 「確定給付企業年金制度」

今年6月頃、前年度の決算書をじっと眺めていた。ふと思った。貸借対照表の負債の部の中に「退職給付引当金」の項目を見て、借金なのだ。それなら、純資産の中に将来の借金が含まれている。負債を含む経常利益は見せかけのものであることが分かった。ほんとうの企業の儲けは何だろう。それは現時点と将来に対する負債がない財務内容である。この退職給付引当金を負債の部から削除するのはどのようにしたらよいだろうと色々調べた。

そうしたら、確定給付企業年金制度があった。これは2002年平成14年4月から「確定給付企業年金法」の施行によって始められ、給付額が決定している（確定している）企業年金である。確定給付企業年金制度には2通りある。

1. 「規約型企業年金」とは、労使合意の「規約」を結びその資金の運用は信託会社、生命保険会社、投資顧問業者等に契約で任せるのが原則である。
2. 「基金型企業年金（企業年金基金）」とは、運営体制が整っているとみなされる場合は企業が別格法人の基金を新たに設立してそこで運営する仕組みのものを言う。

当社は運営体制が整っていないので規約型企業年金になる。

この年金制度の特徴は母体企業の破産等により継続不能となった場合や厚生労働大臣の認可、許可で終了でき、終了時点までに蓄えられた財産は会社と無関係に加入者（従業員）に分配される。この確定給付企業年金は労使双方にメリットがあると分かった。

ここまで理解できた。何時も出入りしている住友生命さんに規約型企業年金について教えてもらうように依頼した。

8月頃、住友生命さんの年金担当に来てもらい、確定給付企業年金制度について詳しく説明してもらった。その頃は前向きに検討することになった。しかし、10月以降の株価暴落での不況感が蔓延する中、この年金を導入することに躊躇いがあった。しかし、今出来ないことはこの先もできないだろうと決断した。経営方針にある「余剰な利益は将来への投資と社員の福祉に充てる。」を一つ実践することに繋がった。

### 2004年10月8日 「進歩への貢献」

創業から間もない頃の2000年6月 東京大学 開発研究型NPOであるWINの会に何の根拠もなく、知り合いもない状態でこの会に参加しました。当初から1年くらいは白い目線を感じながらの参加でした。知り合いもなくままの一人ポッチでの参加でしたので寂しく辛いものがありました。もう辞めようと思ったことが何度もありました。

ある冬の寒い夜、WINの会が終わって、事務所に戻る帰り道、本当に行くことの意味を感じなくなるくらい孤独感を感じました。自問自答しながら歩いていると道に迷い、益々

孤独を感じました。1時間くらいさ迷いながら、何のために会社を作ったんだ。最初の思いを忘れるな。諦めるな。強い自分が弱い自分に語るのです。そのときに気持ちが明るくなりました。ビルの間から見える夜空の星が綺麗に見えました。大野さんが入社してからはWINに行くのが楽しくなりました。昨年の5月頃、老人性痴呆症を発見するシステムを作るから参加してくれと理事長から頼まれました。課長以下で6月から作業を開始して良い仕事をして11月に納品しました。諦めないで良かったと心から思いました。

WINは会費で運営されているので、お金がなくて、運営が苦しいようでした。今年の1月に事務局長から200万円寄付してくれと頼まれました。200万円は難しい、100万円なら会費として払ってもよいと伝えました。100万円を会費として振り込みました。更に、今年の5月中旬頃、事務局長から大野さんに電話があり、来社しました。本当に困っている、1000万円を貸してくださいと頭を下げ頼まれました。本当に困っているようだったので了承しました。その後、理事長からの借入書を確認してから振り込みました。

WINには超一流企業が多く参加していますが、大企業には頼めなかったのでしょうか。新しいことに挑戦している人を早めに助けることはそれだけ世の中の発展に貢献するのではないかと前向きに考えています。

### 2004年10月9日 「人を中心とした経営」

「人は石垣 人は城」という武田信玄の言葉は、武田節という歌の一節にもなっている。企業の盛衰は、結局のところ「企業は人なり」という言葉の「人」に尽きる。武田信玄は、「国を守るのも滅ぼすのも、また繁栄させるのも、所詮は人であって、石組みを組んで築き上げたお城ではない」という哲学の武将である。

社員皆が理解していると思うが、私も人を大切に考えて、人を活かすように言動している。企業は概念のみであり、企業体は一人ひとりが力を合せた形である。社員のベクトルで企業の栄枯盛衰が決まるのである。

### 3月13日 「不況克服の心得十カ条」

私は数年前から松下幸之助の「不況克服の心得十カ条」を事務所の壁に貼って、毎週一度は読んで、自分に足りないことは何かと省み、改善してきたつもりであった。当社社員が第三条の「再点検して自分の力を正しくつかむ」という意味は何ですかと質問した。しばらく考えて、自分では完璧に自己評価を行っていたつもりであったが未だ不十分であることに気づいた。またまだ、項目別に改善しなければならないと気づき、心さわやかになった。真空を作るときに空気を取り除くが未だ真空を作ることにはできない。その行為は限りがない。それと同じように自己改善も限りがない。松下幸之助は偉大である。

【松下幸之助氏の不況克服の心得十カ条】

#### 第一条 「不況またよし」と考える

不況に直面して、ただ困ったと右往左往していないか。不況こそ改善へのチャンスであると考え前向きな発想から、新たな道もひらけてくる。

#### 第二条 原点に戻って、志を堅持する

ともすれば厳しさに流されて判断を誤りやすい不況こそ、改めて原点に戻り、基本の方針に照らして進むべき道を見定めよう。そこから正しい判断も生まれ、断固とした不況克服の勇気と力が湧いてくる。

#### 第三条 再点検して、自らの力を正しくつかむ

ふだんより冷静で念入りな自己評価を行い、自分の実力、会社の経営力を正しくつかみたい。誤った評価が破綻を招くのである。

#### 第四条 不撤退の覚悟で取り組む

なんとしてもこの困難を突破するのだという強い執念と勇気が、思いがけない大きな力を生み出す。不況を発展に変える原動力は烈々たる気迫である。

#### 第五条 旧来の慣習、慣行、常識を打ち破る

非常時ともいえる不況期は、過去の経験則だけでもを考え行動してもうまくはいかない。これまでの当然のこととしてきた慣習や商売の仕方を、徹底的に見直したい。

#### 第六条 時には一服して待つ

あせってはならない。無理や無茶をすれば、深みにはまるばかりである。無理をせず、力を養おうと考えて、ちょっと一服しよう。そう腹を据えれば、痛手も少なくなる。終わらない不況はないのである。

#### 第七条 人材育成に力を注ぐ

「苦労は買ってでもせよ」というが、不況とはその貴重な苦労が買わずとも目の前にあるときである。好況のときには出来ない人材育成の絶好の機会としたい。

#### 第八条 「責任は我にあり」の自覚を

業績低下を不況のせいにはしていないか。どんな場合でも、やり方いかんで発展の道はある。うまくいかないのは、自らのやり方に当を得ないところがあるからである。

#### 第九条 打てば響く組織づくりを進める

外部環境の変化に対する敏感な対応は、よい情報も悪い情報も社員からどんどん上がってくる、お互いの意思が縦横に通いあう風通しのよい組織であってこそ可能となる。

#### 第十条 日頃からなすべきをなしておく

不況時は特に、品質、価格、サービスが吟味される。その吟味に耐えられるように、日ごろからなすべきことをなしていくことが必要である。

#### 2004年10月11日「昭和30年代」

漫画ビックコミックオリジナルの中に「三丁目の夕日：西岸良平」を読んだことがある。ほのぼのとしたあたたかいマンガで、戦後から高度成長期にはいるまでの時代を背景に、一般家庭や人々の生活を描いている作品である。私が生まれた昭和30年代の話です。テレビやゲームはなく、面子、コマ、ビー玉で遊び、5円玉を手に駄菓子屋に行くのが嬉しい時代だった。敗戦から立ち直った日本人が夢と希望を持っていた時代だった。心が暖かく感じる時代だったような気がする。

私はきびしさの中にもほのぼのとした心温まる雰囲気と希望と夢を持てる会社を作りたい。そのために良識を持つ社員を育成しなければなりません。

#### 2004年10月12日「経営は総合芸術」

画家が上手な絵を描いても評価されないし、売れない。独創性や感性を持たないと一流にはなれない。10億円でも売られる絵画もあれば、1円でも欲しくない絵もある。表面ではない、奥深い精神に裏打ちされた力強い絵には迫力を感じる。この迫力の差で絵の価値は決まる。

企業も同じだ。大きな志、妥協しない探究心や諦めない粘りを持ち、仕事に邁進する。人が生き生きと躍動する。それが企業の成長を推進する原動力である。指揮する経営者の感性で企業の価値は決まる。

#### 3月16日 「赤い糸」

明日は社員の結婚式、主賓のスピーチを考えようと思い、机に向かった。今週の疲労が重なってか、睡魔に襲われ集中できない。早朝に起床してから、書こうと眠りについた。翌朝、目が覚めた。窓の外は暗く、不気味な雨交じりの風の音が厚い窓ガラスを通して聞こえてくる。時計を見ると4時を過ぎたばかり、パソコンの電源を入れ、パソコンに向かった。何を書こうかと窓の外を見ると闇の中で激しく雨が窓ガラスにぶつかり、窓の枠が強風でガタガタと軋む。結婚式で話す「生命の継承」は止めて、新しい題材を考えた。

ふと、本屋に行ったとき新刊コーナーに「あなたは運命の赤い糸を信じますか？」の「赤い糸」の赤い表紙の本を思い出し、運命の赤い糸で祝いの言葉を考え書いた。朝が明けても窓外の春風は静まる気配がない。インターネットで鉄道運行状況を検索した。京葉線、総武線および東西線が強風のため運転見合わせであった。嫁さんが美容室に行っていたのでタクシーで帰ってくるように電話を入れた。プリンターが故障していたので手書きでその内容を写した。そして、赤い紐がないか探した。40cmの飾り用赤いリボンを収納棚から見つけた。着替えをして、赤いリボンをポケットにしまい、電話を待った。

タクシーの乗務員に京成津田沼駅に行ってくれと指示した。雨も重なって道路は渋滞していたが何とか10:20に駅についた。電車で京成津田沼駅から千葉中央駅に向かい、丁度、結婚式の11:00に間に合った。東京方面から来た社員もぎりぎりに間に合った。

12:00から披露宴が始まり、私のスピーチが始まった。簡単な祝辞の言葉の後に間を置いた。ある社員に依頼していたことがあった。その社員が新郎新婦の席に向かい、両名の小指にそのリボンを結んだ。そして、それを確認した後朗読した。

「赤い糸」  
若い女性がいる華やかな郊外のユウカリヶ丘の美容室  
美容室には似合わない若者が入ってきた  
「いらっしゃいませ」と若者には心地よい声  
椅子に案内させ、カットを任せる  
「就職面接のための散髪なんだ」と一言  
「頑張ってください」  
髪が長くないのに美容室通い  
「就職したよ」  
「おめでとう」  
「こんど。後樂園に行かない」  
「うーん、いいですよ」  
黄昏の後樂園でのデート、それは恋の芽生え  
そのとき、二人の小指には運命の赤い糸が結ばれていた  
赤い糸は信頼の証  
赤い糸は助け合う証

赤い糸は幸せの証  
赤い糸は繁栄の証  
両名に永遠の幸あれ！

14:30前に披露宴が終わった、すぐに千葉中央駅から上野駅に向かった。16:28分の上野駅発高崎線の電車に間に合い、鴻巣駅に約束の時間通りに着いた。安堵した。顧問税理士の喜寿の祝いに何時も世話になっている中小企業の社長が大勢集まっていた。喜寿の祝いの会も盛り上がった。思い出に残る一日であった。

2004年10月13日「国土を大切にする」

日本は世界に類を見ない南北に長い列島で海に囲まれた四季を持つ国です。中東のイラク、東南アジアのタイ、ビルマ、東アジアの中国、欧州のフランス、アメリカ大陸の米国を仕事や旅行で行った経験から日本は大変素晴らしい気候と文化を持っている国です。

しかしながら、CO2による温暖化が日本の四季を変えようとしています。北海道にも梅雨があります。雪が少なく、全国で異常な暑さ、異常な集中豪雨、異常に多い台風、どれをとっても過去の日本には例がない事態になっています。全世界においては森林伐採、砂漠化、驚異的な人口爆発、国土の塩分、天然資源の枯渇、インド・中国などの発展途上国のエネルギー使用の増大等で地球環境は地球誕生から考えるとこの100年くらいで驚異的な速さで悪化しています。

日本の豊かな国土や文化及び地球環境を考えると、豊かな環境を維持するためには多くの国民が現状を認識することが必要です。当社は環境ブランニング学会会員であり、私、大野さん、元社員のA君（現在国際事業団職員）、B君、C君及びD君（後日某衆議院議員の秘書となる）が勉強してきました。現状の環境問題を認識してそれを良い方向に改善していく努力も私達世代の責務であると私は考えます。

2004年10月14日「立場」

物の考え方で基本になるのは立場を変えることである。発注側と受注側との関係で考えると良く分る。

システムが予定通り行かない場合、良くもめるのがお金である。発注側は予算は決まっている。その予算内でシステムを完成させる責任がある。受注側は提示された仕様内で見積もり、そして受注する。しかし、実際は要件定義や基本設計は甘かったり、規模が多くなったり、計画が遅れたりするとお互いに立場の違いは明確になってくる。発注側はそのようなリスクを含んで能力のある貴社に依頼したのだから、この予算内で完成させて頂かないと困る。仕様が決まらなかったり、仕様変更が多い、規模が増えているのは当方に責任がない、計画とは違っているとお互いに揉めて来るのである。お互いの立場を良く理解していればこのようなことにはならない。お互いの立場を尊重するには契約段階で詳細な



事項まで確認する必要がある。そうしておけば、トラブルが発生したり、感情的なことにはならない。これを実現するためには双方にスキルと経験豊富な人材が対応しなければならない。発注側は受注側の立場で受注側は発注側に立場で物事を考えると友好的な関係が継続される。

知識とか技能は使われて価値のあるものになる。知恵とは実社会に役立てることを言う。社会環境の変化で知識とか技能の要求は変化していく。

システムエンジニアには社会の変化に対応できる地道な自己能力開発と相手の対場を理解できる人間性が不可欠である。

3月17日 「8時間面接」

ITスキル研究フォーラム(iSRF)森田事務局長が私の8時間面接に興味を持たれ、取材の記事を書いて、2008年9月5日のiSRF通信第43号に掲載してもらった。その記事を紹介しよう。

「応募者の面接に8時間を費やす、ある社長の話」

先日、あるIT企業の社長とお話した際、入社試験における面接の話になりました。その企業では入社に際して、なんと1人あたり5~8時間もの社長面接をするとのこと。面接までいった人には、「当社の面接は朝から晩まで8時間はかかるので、予定を入れないで下さい」と伝えるそうです。まずは最大で8時間の面接を覚悟できるのが、入社条件のひとつとなっているとも言えます。

この夏の中途採用への応募者は130名超。書類選考を経て対象者を20名に絞り込みましたが、毎日1人しか面接できないので、単純計算で20営業日=約1カ月かかる計算です。「それで社長業は大丈夫なのか」、「8時間もの面接なんて、いったいなぜそんな必要があるのか」・・・。いろいろな疑問が浮かんだので、さらに聞いてみました。

「私の面接はね、人生相談みたいなものですよ。相手の悩みや不安を聞いて、未来に希望と夢を持てるように話をします。私自身はもう慣れましたけど、今回は応募が多かったから、ちょっと大変でした。何のためにやるのかって？午前中の面接を終えて、食事を一緒にすると、何気ない話からその人の本質が見えるんですよ。逆に15分やそこらで、その人のことを理解できることが私には信じられない。え、睡眠時間？このところ2、3時間だけ平気です。休むときは休みますからね」。

入社時にはお互いに、「あなたは何時間だった？」と、面接時間の長さを言い合うのが挨拶となっているとのこと。この会社の従業員は130名ほどで、売り上げは本年度10億を超える受託開発企業。このところ増収増益を続けています。すべての社員にコミュニケーション研修を受講させたり、資格試験にも必ず手当を出すなど、人材育成にも意欲的です。「それにしても8時間は長すぎるのでは？」という疑問を払拭しきれず、さらに聞きました。

「私の経験上、人間、8時間、膝をつき合わせて話せばだいたい分かる。それに、人の

話を真摯に聞き続けることができる人は大丈夫、仕事もできる。当社のようなIT企業は人が命だから、一番大切なことだ」。

社長によると、入社した社員からも「社長の人柄を知ることができる、つまりは会社を知ることができる」、「採用者と応募者の双方が納得するまでコミュニケーションする。結果として8時間になっているだけ」、「ずっと対面していると振舞うことができなくなる。本質を見られているのがよく分かる。真剣に面接してくれているという信頼感があつた」などと好評だそうです。社員本人に聞いたわけではないので、割り引いて受け取る必要がありますが、社長の人柄を知っている筆者としては、納得です。

話はそれで終わりません。書類選考で落ちた人には、「全員に面接することが困難なため書類選考させていただいた」旨の説明とお詫び、そして生きること、人を思いやることを大切に、という内容のメールを送付します。一方、面接で不採用だった人に対しては、採用しない理由と相手のこれからの人生へのメッセージを伝えていると言います。「全員じゃないけれど、お礼のメールをもらうことも多んですよ」。

8時間面接も驚くべきものですが、面接しない人とのコミュニケーションもなされていることに感心しました。人と話す、人の話を聞くということを改めて考えさせられた話です。

2004年10月15日「紙一重の差」

「紙一重の差」は無数の差に等しい。基本情報試験結果で595/800点で不合格の人が1問正解していたら合格していたと嘆く人がいる。でもこの僅かな層に5000人程度の人がいて、涙を飲んでいる。もう一息の執念の差が合格、不合格を決める。この差は無数に近い差となる。毎日の小さな努力が最終結果になるのである。

随分昔の話であるが通信事業者の課金システムを開発していた頃の話である。デバック中に妙な現象で1度だけプログラムがアボートしたことがあった。前にも先にも1度だけアボートしただけであった。そのときは軽く考え、「まーいいか」とあまり深く考えなかった。

数ヶ月後、全体のテストが終わり、運用が開始された。システムが開始された瞬間、システムダウンになった。皆、慌てふためいた。すべてのメモリダンプを磁気テープにとり、旧システムに戻した。私は通信事業者のある新宿から府中の某メーカー基本ソフトウェア開発本部にその磁気テープを渡しに行った。解析が始まり、どのくらいの時間が経過したかわからないがどうも私が作ったプログラムのところであり得ないアドレスにジャンプしてアボートしていたことが判明した。

良く考えると1度だけアボートしたときのことを思い出した。アドレスを初期化していなかったのである。デバック中は同じアドレスに割り付けられるが、別のタスクが実行されるとメモリ割付が変わり、その内容にゴミが残っていて、例外アドレスでアボートしたことが判明した。とにかく、説明するのが怖いぐらい情けないことであった。

「まーいいか」が後で大変なことになる教訓から私は妥協しないことを心に誓った。それから、いろんな困難なプロジェクトを成功させることができた。この「単純なメモリアリア抜け」事件は私の生きる姿勢までも変えた。

妥協しない姿勢や諦めない姿勢は日々では紙一重の差かも知れないが長い年月では大きな差を生むと考える。

2004年10月16日「諸行無常」

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色・・・」教科書で勉強したことのある平家物語の一節です。

諸行無常とは仏教の基本的教義である三法印の一であり、この世の中のあらゆるものは変化・生滅してとどまらないこと。この世のすべてがはかないこと。つまり「諸行無常」とは、「およそこの世に存在するもので、同じ状態に留まるものは一つもない。常に変化してやまない。永久不変なもの一つありませんよ」ということである。「諸行無常」とは順境にある人には「この順境が長く続くように謙虚に努力を怠るな」という戒めの言葉であり、逆境にある人には「今こそ成功へのチャンス」という起死回生への励ましの言葉ではないかと思うのである。

すべての現象には始まりがあり、また終わりがある。なんと無常であろうかと蓮の池から地上を見つめる仏様の言葉であろう。「一瞬の光陰軽んずべからず。」を思い、この僅かな時を燃焼しようとする前向きな生き方を継続すれば、「諸行無常」を心に感じるようになると思う。

3月18日 「上杉謙信」

自ら毘沙門天の転生と信じていた後世の人から「越後の虎」とも呼ばれた上杉謙信は戦国時代の享禄3年（1530年）1月21日、越後守護代・長尾為景の四男（または三男）・虎千代として春日山城に生まれた。六歳の天文5年（1536年）に城下の林泉寺に入門して住職の天室光育の教えを受けたとされる。十三歳の天文12年（1543年）8月15日に元服して長尾景虎と名乗り、中越の長尾家領統治のため栃尾城に入る。十八歳の時、長尾氏の本拠である春日山城に入り、十九歳で家督を相続し、越後守護代となる。2年後の天文19年（1550年）には、定実が後継者を遺さずに死去したため、将軍・足利義輝は景虎の越後国主の地位を認めた。

上杉謙信は天下統一の野望を持たない稀有な戦国武将であった。義のために戦はするが私利私欲や領土拡大の戦はしなかった。天下統一の野望を持つ甲斐の武田信玄との永禄4年（1561年）8月の第四次川中島の戦いは慶長5年（1600年）の天下分け目の関が原の戦より凄まじかったと云われている。戦場では常に白地に「毘」の文字を染め抜いた軍旗を掲げて自ら先陣を切って戦った。平和を好み、戦を好まなかった謙信ではあったが彼の生涯は常に戦の中にあった。酒を好み、和歌に通じ、達筆の文化人でもあった。特

に源氏物語を始めとする恋愛物を好んで読んでいたが、女性を近づけず終生独身を貫き、四十九歳でこの世を去った。彼の残した「上杉謙信の十六カ条の家訓」は我々の生き方にも参考になる。

- 一．心に物なき時は心広く体泰なり  
自分を見失わないでいられる時は、心が広々として、体もゆったりするものだ
- 二．心に我儘なき時は愛敬失はず  
我儘に振舞うことがなければ、人に接するときも柔らかくなり、敬えるものだ
- 三．心に欲なき時は義理を行ふ  
食欲な気持ちがない時は、どんな人に対しても思いやりの気持ちが持てるものだ
- 四．心に私なき時は疑ふことなし  
私心がなければどんなことに対しても、疑う気持ちは起きないものだ
- 五．心に驕りなき時は人を敬ふ  
偉ぶるような心がなければ、人の真価を認め敬うことができる
- 六．心に誤りなき時は人を畏れず  
やましい気持ちがないのであれば、人をおそれることはない
- 七．心に邪気なき時は人を育つる  
偏った見方や考え方がない時は、その生き様を周囲が見ておのずと育っていく
- 八．心に貧りなき時は人に諂うことなし  
がつつした気持ちがなければ、人の機嫌を取らなくてもすむ
- 九．心に怒りなき時は言葉と和らかなり  
怒りの気持ちがなければ、言葉も柔らかくなり、人も耳を傾ける
- 十．心に堪忍ある時は事を調う  
どんなことにも耐え忍ぼうとするときは、物事を整えることができる
- 十一．心に曇りなく時は心静かなり  
心が晴れ晴れとしていて清々しいときには、心も穏やかになるものだ
- 十二．心に勇みある時は悔やむことなし  
困難を乗り越え実行するには勇気が必要。思い切れば悔やむこともない
- 十三．心いやしからざる時は願ひ好まず  
いやしくないときは無理な願望を持たず、耐え、努力することでつかむことができる
- 十四．心に孝行ある時は忠節厚し  
本当に尽くそうと心がける時は、自ら主君に仕えようとする気持ちが深いはずだ
- 十五．心に自慢なき時は人の善を知り  
うぬぼれの気持ちがない時は、人の良さ、素晴らしさを実感することができる
- 十六．心に迷いなきときは人を咎めず  
しっかりと信念があれば、人を怪しんだり責めたりしないものだ

2004年10月17日 「百聞は一見に如かず」

中小企業のコンサルタントをできる中小企業診断士はいない。自分が経営したことがないのに企業コンサルタントができるはずがない。競馬場や場外馬券売り場にいる予想屋と同じである。当たるなら人には教えない。だから競馬新聞を内ポケットに入れて当たりそうな言い方で数字の書いた紙を客に渡す。

資格なんて価値がないと資格を持たない者がいうのは非常に腹立たしい。自分が経験していないのに、知っているような顔をするのは言語道断である。実体験に基づいた言葉には重みと説得力がある。「百聞は一見に如かず」である。

ある人から聞いた話である。本業が順調なソフトウェア開発を営む若い経営者に銀行が纏まった資金を融資した。若い経営者にも私と同じようにいろんな電話がある。その中に儲かるような話もある。資金が2倍になりますと誘い水を掛ける。若い経営者は事業が順調だったので、その話に乗り、融資を受けた資金で先物取引に手を出した。先物取引の怖さを知らなかった。もう後の祭りである。先物の値が下がり、投資資金を回収できない状態になった。他人から見たら、馬鹿げた行為である。しかし、当事者はその時点ではそう思わない。しかし、「本業以外は手を出すな」の教訓は失敗したときに分るのである。最近新聞を賑わしているダイエーも同じである。だから、企業には行動指針を決めた企業理念が絶対に必要なのである。

私の体験から良い話は最初から信じないようにしている。「間違いない、100%大丈夫」、これほど信用できないものはない。なぜなら、その内容を具体的に聞くと段々と内容が曖昧であるからである。当事者は100%大丈夫の言葉で催眠状態になり、冷静さを見失うからである。大きな話は小さいことが多い。小さな話は意外と大きくなる可能性がある。何事も体験に基づく論理的根拠を持たないと信用されなくなる。

2004年10月18日 「プロジェクト管理の鉄則」

私が創業間もないこと、事務所を借りるときに会社ごとに防火管理者を義務付けられた。そこで、上野消防署に出向き、防火管理者の講習会に参加して、防火管理者の免許を取得した。火災が起こったときに何をするか。大変重要なことである。

1. 通報すること。(火事だと大きな声で叫んで周囲に火災が発生したことを知らせることや消防署や警察に通報すること。)
2. 人命の安全を守るために避難誘導すること。
3. 危険のない範囲で初期消火すること。

読むと当たり前であるが日頃から訓練していないと火災に遭遇したときはオロオロと冷静さを忘れた行動をする。

この防火管理の基本は日常的なことにも応用できる。私はプロジェクト管理でこの防火管理者と同様なことを無意識で行っていたことを講習会に参加したときに分った。現状を把握すること。プロジェクトメンバーに嘘をつかせないこと。問題があれば関係各位に知

らせ、大騒ぎすること。そうすればプロジェクトが大きな火事にならないで消化できるのである。多くの場合、問題を隠蔽し、問題を先送りにするから、プロジェクトが大火事になる。大火災なるプロジェクトを消化するのは容易なことではない。私はこのような大火事の状況の中で火消し役として仕事をしたことが多いが、命知らずの馬鹿だからできたのではないかと思う。

創業間もない頃、某メーカーの仕事をしたときも、プロジェクトが大変になったとき大騒ぎしたことを社員A君、社員B君、社員C君は記憶していると思う。最近では社員D君の作業しているMIXXも強く改善要求を迫った。これは効果があった。社員D君の作業が遣りやすくなった。180時間以上の稼働清算ができるようになった。社員E君と社員F君の作業しているFFFも同様に改善要求を迫った。その後、作業者が2名から4名に増員できた。更に増員の話が来ている。課長には某コンピュータメーカーとは違い、当社はどこにも柵がない。当社の理念に沿った言動をしろ、それで仕事が無くなってこまわれない。正しいことは正しいと思う勇氣と信念を持ち仕事をするように指示した。作業が進むにつれ、当社の評価は高くなっているのは事実である。社員X君、社員Y君と社員Z君が作業していたオートリースについてもかなり強気で改善するように言ったが不発に終わった。不発に終わった原因は相手が事なかれ主義の意識が強かったからである。この作業に関係している企業は成長しないと判断した。言わなくても関係者は分るはずである。このような企業とは取引したくない。まだ、継続しているものがあれば、縮小する方向になるであろう。

改善要求していると仕事が増えるのは一般的には不思議なことであろう。外注のくせに生意気と思う人が多いからである。私は問題があるから、改善する。そうすれば、皆が楽しく、無理な作業をしないで品質の良い製品ができるから提言しているのである。これは私の信念である。

2004年10月18日 「虚偽」

新聞で大きく記事になっている事件がある。西武鉄道の株式虚偽報告問題である。有価証券報告書の大株主の株式保有比率について虚偽報告していた問題で、東京証券取引所は十五日、西武鉄道に事態の経緯などに関する質問状を送付し、本格的な調査に着手した。東証は長期にわたって虚偽報告が行われていたことを重くみており、今後、関係者から直接事情を聴くなどして、重大な基準違反があった場合は上場廃止に踏み切る。すでに株価は300円も値を下げている。社会ルールを無視した独断であり、企業風土が徐々に腐っていたのである。同様な事件で三菱自動車のリコール隠し、武富士会長の盗聴事件も同様である。法律や社会のルールを無視すれば、必ず天罰がくだることになる。

多くの企業は問題を隠そうとする。臭いことにはフタをする。蓋を開ければ、また臭い。抜本的な問題解決にはなっていない。臭いものを情報公開して徹底的に除去することが大切である。

3月19日 「10年目」

明後日の21日で会社を設立してから10年目を迎える。ITバブル終焉の2000年3月、株価が下がりが続ける中、資金、取引先、人材もない状態で義憤と志だけで裸一貫から創業した。今思えば、無茶苦茶な話である。良く生き残ったものだ感慨深い。1年目と2年目にはお金に苦労し、3年目は取引先開拓に苦労し、4年目には理不尽に悩み、5年目には労働問題に悩み、6年目から少し軌道に乗り出し、やりたいことができるなど思った矢先の9年目の後半から米国のサブプライムローンによる大不況に手も足も出ない。しかし、私は僅か9年の間にここまで成長した社員と会社を誇りに思っている。

経営とは現実と理想の狭間の波に翻弄されながら、不安と恐怖の怪物と戦いながら、桃源郷を目指す旅をしているようなものである。しかし、近頃はそれらの怪物が敵ではなく、仲間に見えるようになった。これからは煩惱という怪物と戦いながら、桃源郷を目指す旅になる。生きている間に桃源郷の門に立つことができるとは思わないが、最善を尽くしながら旅を続ける覚悟である。

2004年10月21日 「歯が立たない」

私は中学3年のとき、自分の意思で人生の中で最も勉強した。小中学のとき、鉛筆を握ることが嫌いだ。私には勉強する目的を理解することができなかつた。いつも学校から帰ると山や川で遊んでいた。いろんな遊び道具を自分で作ったり、鳥や昆虫や魚を取ったり、釣ったりするのが好きだった。

特に目白（スズメ目メジロ科の鳥、現在は野鳥を捕獲すると警察に逮捕されるので注意を要する）は好きだった。正月明けの雪の中にいる目白は大変綺麗で、1～2月上旬の雪の日に家の裏山に捕りに行っていた。目白の習性とか、囿の籠の掛ける場所、鳥もちの張り方、餌となる果物とか山で出かける前に研究していた。1日で数匹捕れるが雌は綺麗でないので逃がす。雄の中でも、鮮やかな鶯色の羽と腹に金色の毛が多い、全体的に綺麗な形のものを選ぶ。そうすると良くて1羽になる。それを家に持ち帰り、鳥籠に入れて育てる。鳴き声を良くするためにほうれん草をすり鉢入れ、目白が食べやすいくらいにドロドロに搗り潰す。餌を与えるのは平日には朝、晩の二回与える、休みの日は三回与える。野生の鳥の飼育は結構手間が掛かる。巣から落ちていたカラスを飼育したこともある。なんでも食べるので意外と手間は掛からない。しかし、晩秋から春までの生きた餌を捕って与えるのには苦労した。このようなことが好きだった。

学校のテスト成績は中学1年から同じくらいで270/330番目位だったと思う。後ろからのほうが早く名前を見つけれられた。中学3年になると、担任が進学するのか就職するのかを聞かれたが、私は良く分らなかつた。先生に聞くのは恥ずかしく、クラスで一番成績の良い友達にどのような高校があるのかを聞いた。また、一番難しい学校はどこかも聞いた。諫早高校だと返事があった。学校の成績は何番以内であれば合格できるか。80

番以内なら大丈夫だろうと聞いていると返事だった。クラスで1番になることを目標に勉強した。基礎学力がなかつたのでそれまでの知識を1年で取り戻すことは容易なことではなかつた。数学は勉強しなくても70点以上は取れる自信があつた。数学は勉強しなかつた。英語、国語、理科、社会はいつも30点～50点であつたので、覚えることが多く、兎に角繰り返して書いて覚えた。3ヶ月くらい過ぎると多少点数はよくなつた。順位が200位になった。授業では人間が変わつたように手を上げた。2ヶ月くらい過ぎて130番ぐらいい上がった。

その頃になると自信が付きクラスの成績上位者と対等に話すことができるようになった。3学期目でやっと100番以内に入ることができた。そして高校受験で無事合格できた。2学期から常にクラス1番をライバルと考え、彼を超えることを夢見た。結果として目標とする高校に入学できた。競争するときは常にNo.1をライバルと思うのが頑張れることが分つた。

高校1年生では授業を楽しむことができたがクラブ活動で柔道をするようになってからは山の斜面を転がるように成績は落ちていった。自分で入部した柔道をやめることは出来なかつた。3年間柔道を頑張つた。体重50kgしかない体には高校柔道(60～100kgが普通)は辛かつた。疲れた体は睡眠を欲しがり、予習・復習は全く出来なかつた。しかし3年生のとき、成績1番と2番と張り合うことを意識して、成績上位者の隣の席で補習を受けた。さすがに中学のときとは違つた。国立大学を受験したが合格できなかつた。隣の席の井○と坂○は東大、京大に現役で合格した。私は1年浪人したが目標とする大学には合格できなかつた。滑り止めとして受けた国立2期の大分大学に入学した。成績は急降下したが柔道を最後まで続けたことは良かつたと思つている。諦めない精神力が付いた。

歯が立たない人間を自分のライバルと考えると、自分がより頑張れることを中高生時代に学んだ。

2004年10月22日 「良い会社」

私は応募者に当社が良い会社とは分らない、だから多くの会社を訪問して、自分が一番良いと思う会社に行きなさいとアドバイスする。その結果として、後日当社に入社意思のメールが来る。私は社員とお客様から見て良い会社でありたい。しかし、当社にも長所もあれば欠点と思う。3月と9月に退職した者がいたが、共通していえることは希望とか夢を実現したいから転職することではなかつたような気がする。夢や希望を掴むための転職であつてほしい。

問題があれば、提案などの形で改善することができる。自分の不幸な境遇は周囲や社会が悪いと嘯くものが居る。努力しないで楽をして、わがままな人間に多い。他人の苦労を感じない人間である。多くの経験を通じて、人間は成長する。自分が苦労しているなら、それ以上に他人は愚痴を言わないで苦労して生きていると思えばよい。居酒屋で会社や上司の悪口を話している社員の声が雑音のように聞こえてくる。そんなら会社をさっぱり

と辞めればよいのではないかと言いたくなる。自分で事業をやってもらいたいと思う。私は「自分の夢を実現するために経営者になったが、想像以上に辛い職業だ。生まれ変わったとき、経営者だけはならない。」と佐々木さんに話したことがある。そうすると、「そのような経営者には銀行は簡単に融資する」と聞いたことがあると佐々木さんの返事だった。

社員全員が丸となり、欠点や問題を改善する姿勢にこそ企業の成長がある。当社を支持していただく企業から10名単位の長期的な仕事依頼が来ている。従事している当社社員の前向きな熱意でそのようなことが実現している。良く頑張っていると感謝する。

3月25日 「無人島研修1」

私は悩んでいた。今の世の中、金があれば、一日他人と会話しなくても、何も考えなくても、言われたことに従っていれば暮らしていける。こんな消極的な人間が世の中結構多い。当社にも例外なくいる。しかし、周囲が大変苦勞していることをまったく彼らは知らない。

そこで思いついたのがそんな社員を無人島に行かせることである。無人島には誰もいない、コンビニもない、甘えが許されない、自分自身で知恵を使わないと生きていけない。いいアイデアだと自賛した。しかし、こんな企画をそのような社員に話したら、「行きたくありません」と一言返事があった。リスクを伴わない生き方が楽であるから、そのような人間になったんだと変に納得した。

それを拡大解釈して、入社したときに無人島のような研修をしたら人間関係も良くなるし、すこしは自発的になれるだろう。無人島を地図で調べたら関東周辺にはあまりない、また費用が沢山かかることに気づいた。そこで最も無人島に近い島がないかと調べたら、ほとんど観光客が行かない島を発見した。

その島は東京都心の南約140kmの太平洋上に浮かぶ伊豆諸島のひとつである。島は円錐型で面積4.12km<sup>2</sup>、周囲8kmの東京都の市町村では一番小さい村である。人口は307人、小学生の児童数は9人で教職員数は10名である。中学生の生徒数は9人で教職員数は13名である。瀬戸内海にある島のような島の特徴：

1. 島内には殆ど平地が無、急な坂道と細い路地が多い。北側の村落に殆どの住民が居住しており、南側は椿畑か原野しかない。
2. 特産品は椿油、明日葉、伊勢海老、サザエである。
3. 島の緑の8割近くを占める椿の他に特産見どころは無く、伊豆諸島の中で、産業としての観光に依存する意識がもっとも希薄な島の一つである。そのため、観光客は驚きの目をもって島民達に迎えられる。
4. 貧弱な港のためジェット船の就航率の低さ(年平均は約50%であるが、冬場は10%台になることもある)に悩まされており、天候が安定する季節でも利島のみが「条件付き出港(接岸できない場合を了解の上で乗船が求められる)」となる日が少なくない。大型客

船の方は就航率が高いが、オフシーズンは週末のみしか運航されず、交通事情が極めて悪い。

この島は利島(としま)という。そして、この島全体を東京都利島村という。東海汽船のかめりあ丸が竹芝客船ターミナルから大島、利島、新島、式根島、神津島の順に寄港して廻る。

(明日につづく)

2004年10月23日「原因は自分にある」

昔の話である。結合試験などでバグが発生した時、他人や他社に解析を押し付ける輩がいた。その輩は責任転嫁を常としていた。また、仕様を理解できないと設計書の書き方が悪いと食って掛かる。始末に負えない輩だった。ある日、彼の姿を見かけなくなった。どうも首になったようだ。

某通信事業者のシステムでは複数の通信機器メーカーが機能やノード単位で作業分担して開発していた。結合試験や総合試験でバグを出すと大変である。バグを多く出した方が負けである。某通信事業者の担当者はバグの多い企業に解析を依頼する。自分達のバグでもないのに、他社の問題を解析しなければならなくなってしまう羽目になる。私はこのことを知っていたので、単体試験や結合試験での品質に拘った。他社との結合試験や総合試験において、某通信事業者はいつもバグの多い企業側に問題処理票の解析を依頼してくれた。バグが当方にある場合も他社が解析していただいたので丁寧にお礼を言った。また、ノード間や機能間で仕様検討漏れがあっても、当方の意見が某通信事業者に通ることが多かった。

システム開発するときは先ず自分を疑え、そして多分でなく完璧であると思うとき、他人や他社に相談や指摘をする。他人や他社は非礼をしなくなる。

2004年10月24日 「地球環境破壊」

エメリッヒ監督の映画「デイ・アフター・トゥモロー」を見ました。地球温暖化によって極冠の氷が溶けたことで、海流に異変が起き、その結果として超大型低気圧スーパー・ストームが発生して、地球に氷河期が訪れる物語です。ビデオ店では約20本のDVDがすべて貸し出されている状態でした。

地球温暖化問題を皆さんに判り易く体系的に理解してもらうために、調べました。これを作成するために8時間を要しました。今回は長文ですが、最後まで読んでください。

ロシア下院は地球温暖化防止のための京都議定書の批准承認法案を賛成334、反対73、棄権2で可決した。上院が法案を可決し、プーチン大統領が署名すれば、批准手続きは完了し、議定書はその90日後に発効する。順調に行けば、来年1-2月にも議定書は発効し、温暖化防止に向けた国際的な取り組みが本格的に始動することになる。

小池百合子環境相はロシアの批准に向けた大きな前進であり、歓迎する。今後、速やか

にロシアの議定書批准が行われることを期待する。我が国は京都議定書を気候変動問題への取り組みの重要な第一歩であると位置付けている。国内対策・施策を強化し、我が国に課せられた削減約束を確実に達成したい。との10月22日の新聞記事があった。

大国の米国は京都議定書を批准していないが、ロシアの批准で地球温暖化防止が国際的に本格的に始動することとなった。

昭和58年、59年と中東のイラクや東南アジアのタイなどに行った経験があり、砂漠や森林伐採などで居住空間が狭まっていることを知りました。また、私は平成12年からWINの会で地球環境問題を勉強しています。CO<sub>2</sub>による地球温暖化は深刻な人類や生物の生存に関わる問題になりつつあります。

英ケンブリッジ大学のスティーブン・ホーキング博士は、英エディンバラでの講演で、「温暖化で気温の上昇が続き、地球が金星のようになる事態を懸念している」として、「人類は別の惑星に移住しないと、1000年以内に滅亡する恐れがある」と警告している。(平成12年10月2日読売新聞)

## 1. 地球温暖化とその仕組み

地球の表面は窒素や酸素等から構成される大気によって包まれています。太陽から地球に届いた日射エネルギーは地表での反射や輻射熱として最終的に宇宙に放出されますが、一部は大気中に存在する様々な気体（温室効果ガス）によって吸収され、地表の平均温度は摂氏15度程度に保たれております。現在、地球上で生息するすべての生物はこの温室効果ガスのおかげで苛酷な温度の変化から免れて、温室の中にいるような状態に保たれておるわけです。とりわけ、大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）は0.03%とわずかですが温室効果に大きな役割を果たしております。

しかし、近年、科学の発達、産業の発展に基づく人類の活発な行動に伴い、大気中の温室効果ガスの濃度が急激に増加し、地表の温度が異常な上昇を続けています。温室効果ガスが増加することによって起る地球の平均気温の上昇を「地球温暖化」と呼んでいます。

19世紀以降、産業の発展に伴い人類は石炭や石油などを大量に消費するようになり、大気中のCO<sub>2</sub>の量は200年前と比べ30%程増加しました。これからも人類が同じような活動を続けるとすれば、21世紀末にはCO<sub>2</sub>濃度は現在の倍近くになり、この結果、地球の平均気温は今より2度程上昇すると予測されています。

原因となる温室効果ガスの64%はCO<sub>2</sub>ですが、メタン（約20%）やフロン（約10%）、その他にも、亜酸化窒素や対流圏のオゾンなどがあります。特にフロンなどの人工の化学物質はCO<sub>2</sub>より温室効果が強く、微量でもその影響が懸念されています。地球の温暖化はCO<sub>2</sub>やフロン等が主な原因であり、人為的な活動に起因するものであることは疑いの余地もありません。

## 2. 海面上昇

地球上に存在する氷の約90%を占めるのが、南極大陸である。気温が上がったことによって、南極の氷がすでにとけはじめている、大きな氷のかたまりが流れはじめている。南極の氷が全部とけたとしたら、海面は70メートルも上昇する仮説がある。この100年の間に、海面が50cm～1mあがることが予測されている。モルジブやサモア・フィリピン・ハワイなどの南の島々やバングラディシュ、オランダなどは、海面が1mあがると、国土の大部分が海に沈む。キリバス共和国やモルジブでは、もうすでに陸の面積がだんだん小さくなっているのが、島民は住むところがなくなると心配されている。

日本でも砂浜の9割が失われ、海面より低い土地の面積は現在に比べて2.7倍になる。こういった地域には人も資産も集中しており、単なる土地の喪失だけでは済まない。また新しい海岸線は海水の浸食をうけやすく、さらに海岸線が後退してしまう恐れもある。これを防ぐために堤防を築くとなると莫大な費用を要する。

## 3. 深層海流

南極大陸が解氷すれば、深層海流は停止する。人間の心臓に該当するものである。この機能が停止すると地球上の生物がすべて絶滅すると言っても過言ではない。深層海流がどのようなものか、理解してください。

### (1) 深層海流について

深層海流の出発点はグリーンランド沖もしくは南極海です。グリーンランド沖では、冬になると、海水が凍結するときに塩分が排出されます。この高塩分の水は「ブライン」とよばれ、この冷たい高塩分の水は、密度が高く重く、海水は、表面から深海底へと沈み込んでいく。この深海への対流は海水の煙突状の沈み込みで「ブリューム」と呼ばれ、世界最大規模の川、アマゾン川100本分が流れ込む規模で、海面からおおよそ4000メートルの深海まで伸びています。また、南極海も高密度の海水が生まれるところで、なかでもウェッデル海は大規模に海水が沈み込んでいます。（密度の高い海水は回りの海水に比べて重いためゆっくりですが沈みます。）ここで作られる海水は、地球上で最も重い海水だといわれています。そのため、南極から沈んだ水は北大西洋で沈み込んだ水のさらに下層を流れていき、このため、この水を、「南極低層水」と呼びます。

沈み込んだ水は、大西洋からインド洋、太平洋の深海底を流れ、北太平洋で海面近くに浮き上がります。そしてその速さは、最も速いところでも秒速10センチメートル、遅いところでは速さがほとんど計測できないほどのところもあります。そのため期間は1500～2000年にも及ぶという。浮かび上がった海流は、再びグリーンランド沖へと戻り、地球を循環します。グリーンランド沖で冷やされた塩分濃度の高い海水が深海に沈み込み、海底を大西洋から南アフリカを経て、一部はインド洋で、一部は北太平洋で湧昇します。これによって海底に沈んだリン等の栄養分を表層にまで押し上げる働きをするベルトコンベアがあります。しかしその沈み込みの深さが90年代の調査では数百メートルまでしか

ないことがわかっています。

#### (2) 地球の気温を保つ深層海流

地球が温暖な気候に保たれているのは、実はこの深層海流のおかげなのです。本来寒いはずのヨーロッパに北大西洋海流の暖かい海水が運び上げられることで、ヨーロッパの温暖な気候が保たれています。もし深層海流がなければ、北大西洋海流が弱まりその結果、ヨーロッパの周辺は気温が20度以上低下してしまうだろう。こうして、地球を循環する深層海流によって、地球の気候は温暖に保たれ、ここ1万年の間、平均温度は15度で、そこから大きく変化したことはないのです。

#### (3) 深層海流を止める地球温暖化

今から、1万3000年前には、テラー博士らによると、大洪水によって大量の真水が北大西洋に流れこんだために、グリーンランド周辺を含む北大西洋の塩分濃度は急速に低下し、その結果、表面の海水の密度は低下し、深層海流のもとになる「重い水」の沈み込みが大幅に弱まってしまったと、考えています。その結果、深層海流が停滞し、海水による熱の輸送が妨げられ、わずか数十年間に平均気温が10度近く低下し、大氷河期が訪れた。現在のCO2などによる地球温暖化によって降水量が増えそれによって北大西洋が真水のたまり場になってしまえば、深層海流に異変を起し、地球の気候に大変動が起こる可能性がある。そして本来、グリーンランド周辺の沈み込みは4000メートルの深さまで到達するのが普通なのだが、90年代の調査では数百メートルまでしかないことがわかった。これは深層海流をつくる高密度の水が作られていないことを意味しています。深層海流は本来、湧昇によってつねに深層海流の冷たい水が湧き上がっているために、上層の海水が冷却されつづけるのだ。

その結果、強い日差しがさらされつづけている赤道付近の海水でも、際限なく熱くなることはない。しかし湧昇がなければ、熱帯域の水温は今よりもずっと上昇し、陸上の気温も上昇する。生物にとって非常にすみにくい環境になってしまうはずだ。これによって地球の温暖化がより加速し、負の悪循環が続くだろう。

#### (4) 深層海流の恵み

深層海流は良い漁場を作る。北大西洋から始まる深層海流の移動過程で、深層水には植物プランクトンにとっての肥料分である、リン酸塩や硝酸塩などの成分を多く含むようになります。このため、深層水が湧昇したり、表層水と混合が起こる海域では、植物プランクトンの生産量が大きくなり、結果としてよい漁場が形成されます。日本に近い北西太平洋海域も、そうした深層流の終点であり、世界的な漁場となっています。

### 3. 食料問題

環境庁の発表によれば、地球の平均気温が3度上昇すると、西日本では高温障害のために、現品種の米の栽培が難しくなりこれまで食べてきた美味しいお米が手に入らなくなります。短期間の急激な温度上昇により、生態系全体のバランスが崩れてしまうからです。

土の中のバクテリアやミミズなどが死ぬことで、土が死に、その結果植物が育たなくなってしまいます。米だけでなく、その他の農作物も減収して、たちまち重大な食糧問題が発生するでしょう。

日本の漁業にも影響がでます。暖水性のサバやサンマは増える一方、アワビやサザエ、ベニザケは減少するとみられます。また、日本南部はマラリア感染の危険性が増し、北海道や東北ではゴキブリなどの害虫が見られるようになると考えられます。都市部ではヒートアイランド現象に拍車がかかり、海岸地域では海面は65センチ上昇して砂浜の8割が消滅し、また、高潮や津波による危険地帯が著しく増大します。

環境省の作業チームはさらに、海水温の上昇によってミズクラゲやカブトクラゲなどの南洋のクラゲが日本近海に現れ、イワシなどのえさを食い尽くすなどで、沿岸漁業は大きな打撃を受ける、としている。一方、東海地方より西では、高温すぎて稲が実りにくくなり、西日本の稲作シーズンは冬場のみに限られる。

農林水産省系の独立行政法人の研究によると、日本国内のリンゴとミカンの主産地が、温暖化によって2060年ごろには、栽培に適さない地域となることが分かった。これは、気候変動に関する政府間パネルが01年に出した気候モデルに基づき、2060年には年平均気温が2.2度上昇するとして、生育への影響を試算した。栽培に適さなくなる地域は、リンゴでは津軽平野や北上盆地を含む東北6県のほとんどと、長野市、松本市周辺の盆地。ミカンでは静岡、和歌山、愛媛など、海に近くて日当たりのいい斜面にある主産地のほとんどが、栽培に適さなくなる。

国際稲研究所（IRRI）と米農務省農業研究局の研究によれば、穀物の成長期の気温が1度上昇するごとに、収穫量は10%ずつ低下していく。これを裏付けるように、世界全体の穀物収穫量の低下が近年、著しくなっている。2000年には穀物の不足分は1600万トンだったのが、2001年には2700万トンとなり、2002年の不足分は9600万トンとなった。2003年もこれに近い9300万トンが不足すると見込まれている。

#### 4. 砂漠化

砂漠化は、百カ国以上の十億人近い人々の暮らしと生命を脅かしている深刻な問題です。影響を被っている全面積は地球の陸地の3分の1に達します。これらの地域に住む人々は、土地がもはや生活の支えとしての役割を果たせなくなったために、家を捨て、移住しなければならない危機に瀕しています。砂漠化防止のために大きな努力がなされていますが、問題は悪化しています。ワールドウォッチ研究所によれば、毎年、大陸上の240億トンの表面土壌が失われ、しばしば、ひどい砂漠化に至る状況が生じています。

砂漠化は、多くの人が考えるような、砂漠の単なる拡大ではありません。それは乾燥地の土地劣化の過程であり、本来安定であった環境が、気候変動とともに、土壌侵食、過剰放牧、過剰栽培、不適切な灌漑、森林伐採などを通じて人間の手で劣化させられているのです。砂漠化は他の多くの生態系の問題、例えば、生物多様性の損失や淡水資源の枯渇などの要因でもあり結果でもある環境問題です。従って砂漠化防止のための強力な速やかな対策がとられない場合には、環境問題の大渦をさらに大きくすることにつながります。またそれは、極端な貧困の結果と原因でもあります。

戦争や紛争が生じている地域は砂漠化の危険があります。増大する避難民は、しばしば一時的な仮住まいの地に安住を得ますが、結果として難民キャンプの周囲に広範囲な土地劣化や森林伐採をもたらされるのです。

また、人口の急増は、条件の悪い地域への農地の拡大をもたらします。その結果、土地の細分化、森林伐採、そして砂漠化が生じます。殺虫剤やその他の化学物質の過剰使用も土壌の肥沃さの損失、劣化、そしてやはり砂漠化に結びつくおそれがあります。

## 5. 熱帯雨林の現状

大気中の炭酸ガス（CO<sub>2</sub>）を吸収して、酸素を放出している熱帯雨林です。アマゾン、東南アジアの熱帯雨林が地球規模で炭酸ガスの濃度をコントロールしていることがわかってきました。こうした熱帯雨林の機能を保持してゆくためには、熱帯雨林そのものを保護していく必要があると指摘されました。

しかし、木や紙を作るために毎年四国の面積以上の熱帯雨林が伐採され過去50年間で地球上の熱帯雨林の約半分が消滅してしまいました。熱帯雨林の伐採は地球規模の砂漠化や洪水や土壌の流出といった災害などをもたらします。また熱帯雨林の植物種や土壌の循環リサイクル体系を一度壊してしまうともう元には戻らない、つまりいくら植林しても同じように木が育つことはないのです。

## 6. 人口爆発による最悪のシナリオ

国連人口基金によると、去る10月12日、世界の人口は六〇億人を突破した。最近になって増加率はやや低下しているものの、世界人口は今後もなお増え続け、2050年に90億人、2100年に104億人に達するという（国連・九八年推計）。となると、21世紀の世界では、次のような問題の発生する可能性が高まってくる。

第一は開発途上国だけで人口の急増が続く。先進国は現在の約一億人で停滞するが、途上国は2001～2050年で約33億人、2050～2100年で10億人も増加する。

第二は食料・資源・エネルギーなどの需要拡大。現在、先進国の国民一人は、途上国の一人に対して、穀物消費量では二・七倍（FAOデータ・1988～9一年より推定）、鉄鋼、銅、アルミニウムなどの原材料では8～10倍、エネルギー消費量で10～30倍も

消費している（メドウズ／ランダース『限界を超えて』）。

このため、人口増加は人数の急増に留まらず、食料・資源・エネルギーの大幅な需要増加を招く。途上国の人々が先進国並みの生活水準を望むとすれば、どう少なく見積もっても数倍の供給が必要だ。最大の場合には、2050年に人口が約1・5倍になるだけでなく、食料は約4倍、資源・エネルギーは15～45倍が必要になる。

第三は環境問題の拡大。現在、先進国の一人が発生させているCO<sub>2</sub>は、途上国の一人の約10倍に当たる。もし何の対策も打たないまま、途上国の人々が先進国なみの生活を求めるとすれば、2050年には約六倍ものCO<sub>2</sub>が排出され、温室効果による地球の温暖化は避けられない。

以上の問題点が如実に示しているのは、地球の限界が間近に差し迫っているという現実だ。近代工業文明が一時、自然を凌駕したように思えたのは、あくまで地球の許容量の範囲内の話であって、それを超え始めれば、人類はやはり自然の制約に阻まれる。これこそが人口爆発、食料・資源不足、環境悪化というトリレンマの実態なのである。

（地球の限界は80億人）

一体、地球はどこまで耐えられるのだろうか。勿論、さまざまな見方があり、単純に推計することはできない。人口容量そのものが、人間の生活水準の動向に左右されているうえ、地球環境を利用する文明の中身によってもまた大きく変化するからだ。

だが、現在の工業文明を前提に、このまま人口や生活水準が伸び続ければ、どこかでブレーキがかかるのは必然だから、一応の限界を推計することは可能だろう。そうした試みの一つとして、注目されるのがニューハンプシャー大学のD・メドウズ博士を代表とする研究グループの研究だ。ローマクラブの『成長の限界』グループを引き継いだ彼らは、1992年にシステム・ダイナミックス・モデル「ワールド3」を駆使して、1900～2100年の世界の状況を予測している（『限界を超えて』）。

この研究では、13通りのシミュレーションが行われたが、それによると、何の対策も打たないまま、現在の延長線上を世界が進んだ場合、21世紀の初頭から環境汚染が増加し、2015年以降食料総生産が減少し始め、2020年ころから人口も急減していく。これに対し、今後、急速にさまざまな対応が進めば、2030年頃に80億人程度で、なんとか持続可能な安定状態へ持ち込める、という。その条件とは次のようなものだ。

（1）1990年代後半より、一家族当たり子ども二人になるように、世界的に産児制限を行う。

（2）目標となる一人当たり工業生産高を3500ドルとする。この水準は1990年の韓国と同等であり、同年のブラジルの二倍にあたる。

（3）関連技術を積極的に取り入れる。例えば、資源利用の効率を高め、単位工業生産当たりの汚染排出量を削減し、土地の侵食を抑制して、一人当たり食料が望ましい水準に



達するまで土地の収穫率を向上させるような、さまざまな技術を積極的に普及させる。

以上の条件下なら、世界の人口は80億人弱で安定化し、その後ほぼ一世紀の間、物質的に望ましい生活水準を続けることができる。一人当たりのサービスは1990年水準を210%上回り、全ての人々に十分な食料が供給され、2010年以降の平均期待寿命は80歳強で維持される。環境汚染は不可逆的な損害を出す前にピークを迎えて下降する。再生不能資源の枯渇はゆっくりと進行し、2100年にはまだ元の資源量の半分が残る。こうして、世界は「均衡状態」に達するというのだ。

この予測が正しいとすると、近代工業文明による地球の人口容量は約80億人とみるべきだろう。先の国連推計で、世界人口がこのラインを超え始めるのは2020年代だから、そのあたりになると、人口爆発の発生する可能性が急速に高まっていくはずだ。

#### (最悪のシナリオ)

その時、世界はどうなるのか。最悪のシナリオは、およそ次のようなものだ。

(1) 大気・水質・土壌汚染や気候不順などの自然条件の悪化に触発されて、農業生産で一時的な不作が発生すると、国際的に広がった情報・流通ネットワークに乗って、食料パニックが世界中に広がる。

(2) 食料パニックは、生活財全体の供給不安を募らせるから、実際の需給バランスを超えて、資源やエネルギーにまで波及する。このため、先進国、途上国を問わず、各地で物資の奪い合いや環境汚染のなすり合いなど、新たなパニックが発生する。

(3) いずれの国々も、自国民や自国の社会・経済を守るため、それぞれの国境を強化して、食料・資源・エネルギーの確保に向かい始める。もともと、これだけ人口の増えた時代に、一国だけの閉鎖体制では対応しきれないから、農業国と工業国の連携や、資源保有国と製品生産国のタイアップなど、必然的にブロック化が進み始める。

経済のブロック化は、すでにEU(欧州連合)やNAFTA(北アメリカ自由貿易協定)で始まっているが、今後はさらにMERCOSUR(南米南部共同市場)が発展したSAFTA(南アメリカ自由貿易協定)、その延長上で南北アメリカが一体化したFTAA(米州自由貿易地域)、あるいはアジアのAFTA(アジア自由貿易協定)など、世界各地に出現し、次第に広がっていく。

(4) だが、以上の対応ができない途上国の一部では、国内的なパニックの拡大につれて、他国への武力侵入や食料・資源の略奪などへ突き進むケースも起こりうる。

これらの国々の標的となるのは、直接的には周辺の食料・資源の余裕国だが、より広域的には世界中に広がった市場経済システムや欧米主導の国際政治システムとなる。混乱要因の一つが、間違いなく工業文明の限界そのものにあるからだ。その結果、国際社会では近代工業文明を支える基本的なパラダイム、つまり科学技術や市場経済システムにも動揺が起こり、国際関係はさらに混乱の様相を呈する。

(5) こうした混乱は、先進国や軍事大国の圧力で一旦は抑えられるものの、近代工業文明の本質を問いなおそうとする過激な運動として潜伏化し、その後もなお持続されていく。

以上のように、適切な対応がなければ、2020年代以降の国際社会は、混乱と動揺の時代を迎えることになるだろう。

#### 7. 環境負荷を減らす行動

我々に必要なことは、「大量生産・大量消費・大量廃棄」の資源浪費型ライフスタイルを変えていくことである。家庭や職場においては「省エネルギー」、「ゴミの減量」、「再資源化」を心掛けることである。

一人一人が環境負荷を小さくするような生活に心配りする小さな行動がやがて大きな力となる。

- 1) できるだけ自動車に乗らないで、自転車や公共の交通機関を利用する。
- 2) 自動車は少しでも燃費のいいものを選ぶ。
- 3) エアコンの温度設定はひかえめに設定する。
- 4) こまめに電気機器の電源は切り、テレビやラジオをつけっぱなしにしない。
- 5) 純正バルブの紙や輸入木材製品を使わない。
- 6) 割りばしや紙、プラスチック製品など使い捨て製品は使わない。
- 7) 買うときにはリサイクルできるもの、ゴミにならないものを選ぶ。
- 8) 紙やアルミ・ペットボトル・ビンなどはリサイクルする。
- 9) 無駄にならないように必要なものだけ買うようにする。

#### 3月26日 「無人島研修2」

私みたいな発想のある会社があるのかネットで検索した。そしたら、そんな会社がありました。それは即席麺で有名な日清食品でした。日清食品の無人島研修の記事を紹介しましょう。

日清食品(株)は、平成15年8月26～28日、兵庫県家島諸島の太島(ふとんじま)において、新任管理職を対象に「自活力を高める無人島体験研修」を行いました。当日は講師を務める安藤宏基社長を筆頭に、今年の新任管理職が8名、事務局も入れて計12名が雨脚の強くなった姫路港の埠頭に集合し、無人島に渡りました。

研修のテーマは「負けず嫌いの骨太管理職の育成」であり、

- (1) 他人に頼らずに一人一人が自立して生きていく能力(自活力)を磨き、
- (2) 何も自然の中で、即席麺の価値を再認識し、新たな食シーンの可能性を探る事を目的としました。島への持込みの物資も衣類以外は最低必要限の水や、米、パン用小麦粉、そしてチキンラーメンといった食料のみ。密かに持ち込まれようとしていた携帯電話、タバコ、ライター等は、事前の検査で全て没収することができました。(途中省略)

今回の研修は、何もない無人島でしか体験できない、即席麺の美味しさ、便利さをあらためて認識する場となりました。それは、新任管理職がこれから仕事をしていく上で、自社商品への強い自信となるに違いありません。また、自分で考え創意工夫する事の重要性や、先を見通した上で判断し、行動することの大切さを、自分の肌で実感する貴重な体験となりました。「無人島サバイバル研修」といった名前でもマスコミにも大きく取り上げられ、注目されましたが、参加者は真剣にプログラムに取り組み、改めて自分自身を見つめ直す機会にすることができました。(引用：財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団HPより)

私はこの記事を読んで、大変嬉しくなりました。それから、役職者4名に声を掛け、新人研修が可能な事前調査で利島に行くぞと声を掛けました。船や民宿の予約を指示しました。しかし、船が満席で予約できません。2ヶ月前から予約受付できるから相前から予約しなければ席が取れないことが分かりました。

2007年10月5日のメールを読むと次のように書いていました。

古賀です。お疲れさまです。

11月2日(金) 竹下棧橋発22:00の汽船で利島(大島の隣の島)に出発します。今回の目的は単なる釣りとは異なります。この業界はチームワークとコミュニケーションが大変重要です。今後、新人が入社した場合、利島で3泊4日程度の団体生活を通じて、チームワークの形成と新人の良さ思い出を作ることです。今回はその事前調査です。費用負担：旅費、宿泊費は会社負担とします。

(明日に続く)

2004年10月25日 「自立」

多くの種類の鳥は春に求愛し、天敵に卵や雛を食べられないような場所に巣を作ります。卵を産むと大事に暖めます。数週間すると卵の殻を破り、雛になります。親鳥は数匹の雛鳥に餌を与えるために必死で餌を捕って来ます。再び数週間が過ぎ、雛鳥達に巣立ちが遣ってきます。親鳥は巣から飛び立つように羽を動かす、飛ぶ練習を毎日繰り返し教えます。巣立ちの日が来ます。雛鳥は恐怖や不安と戦いながら、大きく羽ばたいて巣から近くの木の枝まで飛びます。この瞬間、鳥は自立したのです。雛鳥にはもうわがままを言う親鳥はいません。自分の力のみで生きていかなければなりません。一瞬の気を許すことができません。気を許すことは死を意味するからです。これが自然界の掟です。現在の人間社会ではこの自立の意味を知らない人が多い気がします。そのような基本的な事を分っていると素直な人間になります。

この「自立」の意味を理解させることが教育です。そうすれば、自分を大切にでき、又他人にも大切にします。また、自分の将来に憂いを持つこともありません。これが私の経営哲学であり、社員教育の基本にあります。

上司は部下からの課題、問題、提案は良く聞きなさい。しかし、部下の愚痴は雛鳥と同じレベルだから決して聞く必要はありません。愚痴は親から乳離れしていないことも意味

します。

2004年10月26日 「ブランド」

ルイ・ヴィトンの販売戦略が好きです。良い商品を作ることに拘り、値引きしない商売をしています。営業しなくても、沢山の若いお嬢さんや婦人がルイ・ヴィトンを買っています。不況に関わらず、値上げしても売上は伸びています。また、最新の流行品をバリの本店まで買い付ける日本の女性が多いと聞きます。営業しなくても、ルイ・ヴィトンは口コミで広がっていく良品を作っています。これがブランドの力です。

当社は営業しなくても仕事が沢山頂ける会社になりたいと言いつづけています。大野さんだけの営業でこれだけの受注残が多い会社も珍しいのではないのかと思います。継続した実力をつければ、ルイ・ヴィトンのような商売ができると信じています。

3月27日 「無人島研修3」

11月2日の21時に竹芝客船ターミナルに普通の格好で釣竿をもっていない5名が集まりました。釣竿ケースとクーラボックスを持った釣り人達やバックパックを背にした旅人達の声が交差し、混雑するターミナル待合室が活気に満ちていました。日頃は客先に常駐しているのに、中々会う機会がないので、久しぶりに顔を見て話す機会にもなった。これからの視察に興味もあるのか、皆饒舌であった。この日は天候が悪く、利島には「条件付出航」と表示されていた。初めての体験でもあり、不安であった。もし、下船できなかったら、どうなるのかと係員に聞いた。悪天候で寄港できない場合は次の島に行きます。船が戻る時に寄港できれば、下船できます。しかし、出来なければ、竹芝まで戻ります。ただし、運賃はすべて払戻します。最悪でも24時間の船旅が無賃できるなど喜べない笑いが漏れた。

乗船開始のアナウンスが流れ、総トン数3,751t, 全長102.87m, 全幅15.0m, 航海速度19.4ノット, 旅客定員は2021名(沿海), 977名(近海)のスペースのかめり丸に乗り込む。2等船室は和室と洋室があり、洋室は新幹線の車両の内部と似たような感じで整列させたリクライニングシートに寝ようになっていた。和室は絨毯が敷いてあるだけの大部屋であった。薄暗い洋室の椅子の周りに荷物を置き、とりあえず、食堂に行った。たまたま四人がけのテーブルが空いていたので、座った。食堂の主は気さくな人で、飲食物は持ち込み自由で時間は気にしなくても良いと話してくれた。ビールとかつまみを買ってきたので、テーブルに広げ、ビール缶を右手に持ち、これからの期待を込めて乾杯した。私は3時頃まで飲んでしたが、いつの間にか寝ていた。6時頃に大島に着いたので目が覚めた。甲板に出て、空を眺めたが雨が降っていた。利島に寄港できるかは分からないということであった。不安はぬぐえない。

7:40、船は海に突き出した細長いコンクリートの棧橋に着岸し、小雨の中、下船した。見上げると利島は山だけが海面から顔を出し残った島であることがはっきりと分かっ

た。陸のほうに歩くと、車体に「寺田屋」と書かれたワゴン車が見えた。民宿の主人と女将さんが出迎えていたので挨拶しながら、車内に乗り込んだ。生憎の雨で船が着岸できるか心配していたなど話しながら車は左にゆっくりとカーブした坂道をエンジンが悲鳴をあげながら必死にゆっくりと走り、急なカーブを過ぎると右にゆっくりとカーブした坂道を走る。そうすると右手の民家の庭に車は入った。玄関を開けると民家をそのまま民宿にした作りであった。荷物を広間に置いて、朝食が用意してあるテーブルの前に座った。

(明日に続く)

2004年10月27日 「知識人の弱さ」

非常に知識が高い人は慎重に考える傾向にあるのは事実ですが、ノーベル賞を取っている人も非常に知識が高い人達です。かなりの冒険をしないと新しい発見とか発明は出来ません。知識人にも弱点はあるかと思いますがそれを補う能力がありますので、周囲とか組織がうまく動機付けをしていけばよいと考えています。当社の東京六大学（東大、慶應、早稲田、明治、法政、立教）出身者の比率は27%と大企業と比較も見劣りはしません。

当社は完全実力主義をビジネスモデルに考えています。そういった観点では勉強の好きな人が集まっているのでしょうか。しかし、規定の常識や既存の知識に固守しているような社員はいないと思いますが私は非科学的でかつ保守的な常識には興味はありません。原理原則的な事を常識と考えています。社員もそのような思考で物事に対応して貰いたいと思います。

2004年10月30日 「理念」

私は社会的使命感で会社を興しました。社員が働いた分の報酬を出さなければならない。しかし、それ以上であれば、怠ける。それ以下であれば生活できない。それ辺のバランスを保ちながら将来を見据えた経営をしなければならない。創業当時、悩んだことである。それは賃金と定年をどのようにすれば良いのかもである。ソフト業界では昔から35歳定年説があった。多くの方は35歳過ぎると新しい技術について来れない。日進月歩に技術革新するのがこの業界の特徴であり、それと生活の基盤を保証することは矛盾があった。それには基礎技術の確立であり、基礎技術は新しい技術や応用に強い。資格は基礎技術を確立される手段であることは確かである。資格で賃金が決まると雇用を長く継続できるだろうと考えた。

2000年の頃はまだ企業は55歳とか長くて60歳の定年としていた。近い将来定年が65歳になるだろうと思って、65歳を定年と決めた。今では65歳まで企業が雇用しないと高年層の生活ができなくなるまで年金制度が行き詰っている。厚生労働省は企業側に65歳までの雇用を催促している。労働者側ももっと努力しなければ、企業は衰弱していく。余り過保護になると共産主義となら変わらなくなる。

会社・社員はどのような使命感を持たば、企業が繁栄するか考えた。それは「ありがと

う」を言っていたことが金銭に変えがたい生き甲斐に繋がることで実現できると考えた。色々と言葉を考えた。「ありがとう」を「感動」に表現することにした。感動が理念にふさわしいと考えた。感動させるには前向きな姿勢を実践することが必要であった。

人生は科学的な実証実験に似たような所がある。そこで、仮説や理論を作って、実験する言葉を搜した。テーマを設定しそれに対して探求と努力をそれに当てはめた。しかし、これだけでは感動にならない。その成果が他人に役立たなければ何にもならない。「貢献」しなければ意味を成さない。このようなことを乏しい頭脳で考えた。私はこれを実現することが豊かな人生を送れると確信した。

感動＝目標（夢）＋探求＋努力＋貢献

3月30日 「無人島研修4」

昨夕に事務所の近くでラーメン定食を食べてから、今まで炭水化物を食べていないのでかなりの空腹を感じていた。ご飯、わかめと賽の目の豆腐の味噌汁、目玉焼きと千切りキャベツ、味付け海苔と納豆の普通の朝食であるが食べ物豊富な都内にいると意識しない食べ物の大切さを島に來ただけで感じた。この島には観光客が少ないので、民宿は成り立たないのではと余計なことを考えていたが、この民宿に服装から見て工事現場作業で來たと思われる二人が既に朝食を終わっていた。彼らはかなり前からこの民宿を利用しているなと女将さんとの何気ない会話の中で読み取れた。

朝食を味わいながら、女将さんに何処で釣ればいいのか、どんな魚が釣れるのか聞いた。下船した棧橋からアジ、たかべ、ワカシなどが釣れると教えてくれた。釣りの初心者にはアジくらいは知っているつもりであったがアジにも真アジ、ムロアジ、シマアジなどがいることが分かった。たかべは伊豆七島の海に多く生息し、美味しく、東京市場にはほとんど顔を見ない。塩焼きが一番美味しい高級魚であるようだ。35cm以下のブリを関東ではワカシといい、35cm～60cmをイナダという。結局、ブリの子供である。なんか、期待でみんな笑顔が増した。

朝食を終え、横になって直後の一服を吸いながら、都内の忙しい目まぐるしい時間と島ののんびりゆったりした時間どちらがいいのか考えながら煙草の煙を島の澄み切った静寂の空間に大きく解き放った。「行くぞ」と思い切って立ち上がった。帽子と手ぬぐいを持ち、郷愁を感じさせる家から潮風の匂いを感じる屋外に出た。小雨が上がり、空の雲は急ぎ足で東の方へ動いていた。整理されていない納屋から主人が手入れされていない釣りザを取り出し、貸してくれた。5本の釣竿を借りたが、その内の一本の釣竿のリールの巻き取り部分が壊れていたので私が使うことにした。氷の入ったクーラボックスも借りた。

この道を上ったところに雑貨店があるのでそこで釣りの必要な仕掛けを買えばいいと主人は教えてくれた。20kgの凍ったオキアミも車に積み、車は急勾配の坂道を登り、その雑貨店の真向かいにある駐車場に停めた。

この利島には遺跡や遺物から縄文時代から人が住んでいたことが分かっている。平安時

代末期の保元元年7月11日（1156年7月29日）に崇徳上皇と後白河天皇が対立して、上皇側に天皇側が奇襲を仕掛けた保元の乱を中心に描かれた保元物語には伊豆大島に流刑となった源為朝が伊豆七島を支配し、利島はその当時ミツケノ島であったことが記されている。停めた駐車場から人々の営みの移り変わりをそ知らぬ顔をしているかのように太古の時代からまったく変わらない大きな青い海を眼前に一望できた。

駄菓子店のような雰囲気のお店の中に入るとおばちゃんが店番をしていた。釣りの仕掛けを欲しいと尋ねたら、奥のほうからおばちゃんの息子らしい日焼けした男性が現れた。何を釣るのか聞かれたので桟橋から釣ると言ったら、アジ釣りの仕掛けを用意してくれた。飲み物も買って、礼を言いながら、下船した桟橋に向かい、来た道を下った。

（明日に続く）

## 2004年11月1日 「人生の儚さを知る」

「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老いをむかふる者は、日々旅にして旅を栖（すみか）とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲（へんうん）の風にさそはれて漂泊（へうはく）の思いやまず。海浜にさすらへ、去年（こぞ）の秋江上の破屋（はおく）に蜘蛛（くも）の古巣をはらひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に白川の関越えんと、そぞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神（だうそじん）のまねきにあひて取るもの手につかず。」松尾芭蕉、奥の細道序文である。「日々の暮らし」も旅先と同じであるということか。

大きな視点から物事を捉えれば、喜怒哀楽や四苦八苦（生・老・病・死、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦）も人生の妙味で、趣があって面白いと感じなければならない。自分の思い通りにならない「苦」が人間をして成長させる。良いことも悪いことも「有難い」と思えば安らぎを感じるようになる。私は「人生の安らぎ」を感じたいと狭き門（真理の門）に向かう努力をしている。

## 2004年11月5日 「大器晩成」

大器晩成：鐘や鼎（かなえ）のような大きな器物は早く作り上げることができない。同様に、真の大人物は、発育は遅いけれども時間を懸けて実力を養って行って、後に大成するということ。

大方無隅、大器晩成、大音希声、大象無形（老子）

（読み方）大方（たいほう）は隅（ぐう）なし、大器は晩成す、大音（たいおん）は希声（きせい）なり、大象（たいしょう）は無形なり

（解釈）この上なく大きい四角は、角ばって見えない。この上なく大きい器は、完成するのでもまた遅い。この上なく大きい音は、耳で聞き取ることができない。この上なく大きい形は目で見るができない。

老子は「非常に大きな器を完成するにはそれなりの時間が掛かる」と当たり前のことを

言っています。中晩年になったから才能を開花したからといって大器晩成ではありません。

角界に入門した力士で「横綱」を目指すなら、横綱になるような相撲をとるように心がける。小さな相撲ではなく、大きな相撲をとる。正にこれが大器晩成の意と考えます。「横綱相撲」には大きなという意味が含まれています。

剣道には「上段の構え」「中段の構え」「小手」などがあります。「上段の構え」を別称で「天の構え」とも「火の構え」とも言います。上段の構えは、「名人の位」とも言われています。上段の構えから相手を倒すのが非常に困難であるからです。上段の構えをできることは大器晩成であると解釈できます。

松下幸之助や本田宗一郎などは大器晩成であると思います。

小手先（目先）ではなく、大きな視点で思考すると大きな器になれると思います。

## 3月31日 「無人島研修5」

桟橋の先端の全身を赤色に塗られた灯台がある手前まで車を進めて停めた。後部荷室のドアを引き上げ、クーラボックス、オキアミ、バケツ、釣竿や仕掛けなどを手分けして灯台の下に置いた。釣竿のリールに巻いてある道糸を引き出し、赤い卵型の浮を道糸から通し、サルカンを道糸に取れないように縛り付け、そのサルカンに餌のオキアミを入れる網かごを付ける。アジ釣用の差ビキ6本ハリをサルカンに掛け、最後にオモリを付けた。アジ釣仕掛けが完成し、網かごに凍ったオキアミを砕いて網かごに入れる。

桟橋の下にリールの道糸を浮きが立つまで緩める。浮は波間に揺られ、海流に流され、動く。水平線の向うには長い伊豆半島がくっきりと見える。古い時代の人は恐怖を感じながら、苦勞しながら海洋交易の船旅をしていたのだと空想する。桟橋の下の海は深くまで見える。まるで水族館の水槽を上から眺めているようでいろんな魚が集まっているのが見える。初めての当たりを感じ、竿を脇の下に固定してルールを巻く。竿先が撓り、竿を持つ手に魚の動きを感じられる。リールを巻く手にも力がある。さらに竿先は撓る。海面付近まで巻き取るとムロアジが掛かっているのが分かった。ムロアジが海面に現れると竿を立てながら桟橋のコンクリートの上で一気に引き上げる。ムロアジの口から針を外し、塩水を入れたバケツに入れる。他の者にも当たりがあり、楽しそうに釣り上げていた。

昼頃にはすべての雲は消えていた。空の青と海の青は混ざり合い、桟橋は空中に浮き上がっているような錯覚に陥る。バケツは釣果で一杯になっていた。ムロアジ3匹、たかべ6匹、型の良いシマアジ1匹、メジナ3匹であった。

民宿には昼食の用意を頼んでいなかったで、先ほどの雑貨屋に行き、アンパンとカップ麺を買った。ポットのお湯を貰い、カップ麺に注いだ。駐車場で昼食を取り、再び桟橋に戻り、一服しながら休憩した。昼間の太陽の日差しは晩秋でも厳しい。海側を背景に旅客乗降用渡橋移動台の上に全員が乗って、記念撮影した。鮮明な記憶に残る思い出はこんな一瞬なのかも知れない。

昼間はのんびりしながら竿を持つ。陽が西に傾きかけた頃から海風が吹き、肌寒さを感じ

じるようになり、波も荒くなってきた。竿に大きな当たりを感じた。竿は撓り、リールを巻くの膝を曲げる。魚は横に走る。格闘は数分続く。やっと海面に姿を現す。鯖が掛かっていた。ゆっくりと引き上げる。40cm以上ある満足な鯖であった。

さらに風は強くなり、寒さも厳しくなった。夕日も水平線の下に沈み、海は暗闇に包まれた。帰ろうかなと思った瞬間に針に2匹、3匹と掛かる。群れを成した魚が真下に集まっている。寒さを忘れ、何度も魚を引き上げた。何匹釣ったのか分からない。何か夢中になっているときが青春なんだ。

(明日に続く)

2004年11月6日「部下のために死ぬ」

1981年3月30日、レーガン大統領は銃撃された。そのとき、レーガンを守るために銃弾を受けた警察官がいた。人の為に自分を犠牲することは非常に難しいことである。

2000年3月21日、会社を設立した時、私は心に決めたことがある。私は自分の正しいと信じる道を歩む。それが次の道でも引き返さずに進む。後悔はしない。1日1日、悔いを残さないように、今日突然死んでも、良い人生だったと満足しよう。

社員には生涯路頭に迷わない技術や実力を付けさせてやりたい。子供にも自立できるように基礎能力を身に付けさせよう。正しいことを正しいと言える正直な人間を育てよう。人生で最も重要なのは「夢」や「希望」を持つことであることを教えよう。私は人の為にどれだけ生きられるか自分を試そう。これを創業したときに自分に言い聞かせたことです。

「給与を払って人を教育する学校」のような会社という人もいます。社員の両親・家族は喜んでくれるでしょう。「米百俵」の精神を忘れてはならない。これが私の選んだ道です。

2004年11月8日「中庸」

論語は、今から約2500年前、春秋の末期に書かれたものです。人間の精神構造は、2500年前も今もちっとも変わっていないことは事実です。科学文明は進歩しても、人間の精神構造は進歩しないことになります。

中庸を勉強しました。

中：アタルと読んで、的のど真ん中を貫く意

庸：二本の手で棒を持ち、天井を突き上げる意

つまり中庸とは「相生和合・統一止揚」のことです。『貴方と私で一本の棒を持ち、力を合わせて両者を包摂する新たな道を築きましょう』ということです。これを「相生和合・統一止揚」と言います。アレっ？どこかで聞いたような覚えがあるが・・・？と思うでしょう。そう！これは論理学で云うところの正-反-合なる弁証法と全く同じです。実は、弁証法は中庸の一つの応用なのです。言い方を換えますと「Aの良い所とBの良い所を合わせ持ち、さらにそれらを統一止揚して一層進化させた、ニュートラルなハイブリッド進化論のこと！」これが中庸と云う言葉の持つ本来の意味なのです。ハイブリッドとは「雑

種・混成」と云う意味ですが、「相（そう）生（じょう）和合・統一止揚」と訳したら良いでしょう。

『自を害さず他を害さず、自他共に生かす道。私を害さず公を害さず、公私共に生かす道。個を害さず全体を害さず、個と全体共に生かす道。』

つまり、人間が大調和をはかりながら無限に進化して行く為の方法論、これを中庸と云います。

その為には、家を支えるだけの仁の土台と義・礼・知・信の柱がなければ家は潰れてしまう！仁の土台（人を思いやる気持ち）が深ければ深い程、太い柱と高い屋根が乗せられる。こういうことです。

何処迄大きな人間になれるか？すべては貴方次第です。それは貴方が仁の土台を何処まで深く掘れるか？にかかっています。現在の貴方の「仁」の土台、人を思いやる気持ちはいったいいか程のものでしょうか。

- ・自分独りだけを思いやる仁か？
- ・家族、血族を思いやる仁か？
- ・友人、知人、部下、同僚を思いやる仁か？
- ・民族、同胞を思いやる仁か？
- ・地球人数すべてを思いやる仁か？

人は、仁の土台を掘った深さに見合うだけの高さの屋根しか乗せられません。仁の土台の深さ、それが現在の貴方の正体です。こと仁に関しては地位・学歴・財産や肩書きなどは一切関係ありません。

引用：論語に学ぶ会主監 高野大造

4月1日（水） 「無人島研修6」

朝から海辺の太陽の下で疲れた身には染みる寒さとなり、ほんとうに疲労困憊した。みんな無口で暗闇の中、釣りの後片付けを行い、寺田屋の民宿に戻った。玄関の灯りは心身を温める。玄関のスリ硝子戸を開け、「ただいま」と言いながら、釣り用の防寒服を脱ぎ、その服を持ちながら、座敷の奥の廊下の上にハンガで服を吊るした。夕食の用意がされている前の座布団に座り、煙草に火をつけた。女将さんが「どうでしたか」と尋ねたので「直前に入れ食いになり、沢山釣れました」と笑顔で答えた。女将さんにビールをお願いした。食卓の料理を眺めたら、刺身、塩焼き魚、これまでに見たこともない大きなサザエに驚きながら、夕食の豪華さに女将さんに感謝した。

ビールで乾杯しながら、釣り談義に華を咲かせて、期待以上の研修事前調査に満足した。冷蔵庫にあるビールがなくなる深夜まで飲み続けた。12時を過ぎていたので今朝は4時起床だよと言って、テーブルを廊下に動かし、布団を敷いて熟睡した。私は何時も4時か5時には起床しているので、4時頃目が覚めた。静かに外に出た。未だ夜が明けていない。天空を見上げると澄み切った美しい星空にしばらくの間、見惚れていた。座敷に戻り、海

底の底で静に眠っている魚を驚かすように社員の上布団を剥ぎ取りながら、大きな声で起きると言った。皆、寝ぼけ眼を擦りながら、しぶしぶと起き上がった。社員達は布団を片付け、身支度を整え、洗面した。その後お茶を吸いながら、早朝の釣りに期待しながら言葉少ない会話した。そろそろ早朝の釣りに出かけようと車に乗り込んだ。

(明日に続く)

2004年11月9日 「ゲゲゲの鬼太郎は右手一本」

利害得失を優先する人が成功することはないと思う。自分に向いている仕事や好きな仕事をコツコツできる人が成功を収めている。

ゲゲゲの鬼太郎で有名な漫画家「水木しげる：82歳」を紹介しているテレビを見ていた。画面の中の水木しげるには左腕がなかった。右手一本で漫画を書いていたのかとびっくりした。

1922年生まれ、鳥取県境港市で育つ、太平洋戦争時、激戦地であるラバウルに出征し、爆撃を受け左腕を失う。

1965年(43歳)、「別冊少年マガジン」に発表した「テレビくん」で第6回講談社児童まんが賞を受賞した。

代表作に「ゲゲゲの鬼太郎」「河童の三平」「悪魔くん」などがある。1991年紫綬褒章、1996年日本漫画家協会文部大臣賞、2003年旭日小綬章を受章。

40歳過ぎでも食べていくのがやっとなで全く漫画は売れなかった。漫画を描くことが好きだった。好きなことで生活できて大変幸福だ。「好きなことを諦めないでやること」、これが幸せなのかな。食べられないころ、愚痴一つこぼさないで家計を支えた妻に苦勞を掛けましたと話していたのを記憶している。

成功者の話で共通していえる事は好きなことを最後まで諦めないで続けること。好きなことを見つけ、それを最後までやり遂げることが出来る人は幸福になれるということでしょう。

2004年11月11日 「企業は儲けるべし」

松下電器は一早く「事業部制」を敷き、独立採算性を実行したことで有名だが、うまくいかない事業部長に対しては、「儲けることのできない経営者なんて、うどんを作れないうどん屋と同じ」ということで例の「氷のような、蛇のような眼」で許さなかったという。また、松下電器が「金太郎飴の集団」と揶揄されたとき、松下幸之助一人が、「金太郎飴でいいではないか！」と幹部を集めて怒鳴ったことについて、「企業におけるマネジメントの基本はその中の人々のベクトルを合わせること」という考えを持っていたためだという。社員が別々の方向を向いていたのでは力を結集できず、いかに有能な人材でも、そのベクトルが異なれば害を生じ、有能であればあるほどその害は大きい、ということだ。

企業は必ず利益を出さなければならない。しかし、不正はしてはならない。正々堂々、

営業で利益を出さなければならない。利益を出さないのに、社会貢献しているとは言語道断である。利益を出して初めて社会貢献であり、社員を継続的に雇用でき、銀行からも借入でき、取引企業からも安心して頂き発注してもらえる。そのためには同業他社に競争して勝たなければならない。社員一丸となって知恵を絞り、利益を生むメカニズムを作る必要がある。

700兆円の赤字財政を作った政治家、官僚、公務員は大反省する必要がある。増税でしか問題解決できないなら、全体の半分以上をリストラしたほうがよい。子孫に負の遺産を残してはならない。

4月2日(木) 「無人島研修7」

夜明け前の埠頭には外灯の周り以外は暗闇で、繰り返す波の音が遠い昔の幼い頃に聞いた波の音に共鳴し、童心を呼び起こす。外灯の光で仕掛けを確認し、オキアミを編み籠にぎっしり詰め込み、海中に投げ入れる。埠頭の壁に当たる波の音を聞きながら、竿を持つ手に神経を集中される。しばらくして、道糸から魚が動く当たりを感じる。一瞬、竿を力強く少し立ち上げる。そのとき、針が魚の口に食い込む。なかなかの手ごたえである。撓る角度で魚の大きさが分かる。良く撓る。リールを巻く。釣りはこの刺激的な快感がたまらない。竿を立てながらリールを巻くと海面に魚が逃げるのを諦めたように静に横たわる。竿を引きながら魚を手元に引き寄せる。ワカシである。

東の空が明るくなり、やがて丸い赤い太陽が雲ひとつない空へ向かって水平線にゆっくりと顔を出す。潮風を頬に受け、深呼吸しながら潮の香りを感じ、伊豆半島を眺める。早朝の釣りの醍醐味はこの絶景にある。

早朝は魚が良く釣れる。ワカシ、イマアジの手ごたえがよい。朝食の用意がされた八時頃まで釣った。道具を片付け、魚をクーラボックスに入れ、宿に戻って朝食の用意されているテーブルの前に座った。女将さんが味噌汁を運びながら、皆さんが釣ったたかべを塩焼きに、ワカシとシマアジを刺身しました。とても美味しいですよと配慮をもらったようだ。これらに舌鼓を打ちながら、堪能しながら朝食を終えた。

一服したあと、外に出て、皆でクーラーボックスを覗き込みながら入っている釣果を調べた。鯖：1匹、イナダ：1匹、ワカシ：3匹、たかべ：7匹、シマアジ：9匹、真アジ：6匹、ムロアジ：2匹、メジナ：3匹、その他：4匹であった。みんな、顔を見合わせて笑った。

(明日に続く)

2004年11月12日 「立場を変えて考える」

私は相手の立場で考えることを常としています。例えば、給与は正確に計算し、早く明細書を送る。正確に振り込む。研修やいろんな請求書が来ますが原則一週間以内で振込むようにしています。自分が相手の立場になって考えれば、思いやりを感じます。信用も増

します。準備を怠らないようになります。お客様の立場で考えて、仕事することを心がけていました。自分がしてほしいことは他人にもしない。自分が出来ないことは他人にもしない。自分が部下だったら、こんなことは言わない。立場を変えれば、いろんなことが分ります。そこにお互いの立場を認め合う相互理解が生まれます。相手を思いやる気持ちをもち言動する。いつもこのようなことを繰り返していると人の幸せを願う気持ちが強くなっていきます。これを「仁」と呼ぶのでしょうか。

2004年11月14日 「価値」

価値とはその事物がどのくらい役に立つかの度合いと辞書にある。企業の価値とはどのくらい利益を出すかで決まる。社員の価値はどのくらい会社の利益に貢献できるかで決まる。企業が赤字を続けると資本を食い潰し、債務超過となり、倒産する。収入から支出を引いた値がマイナスであり、そこで働く社員が役に立っていないことになる。このような会社は社会にはいらぬことになる。当然、そこの社員もいらぬことになる。大企業はリストラを継続しているが断腸の思いであることは間違いない。原因は利益が出せない体質であるからである。しかし、従業員は自分達の責任ではなく、上層部が無能だから、経営体質が古いから、売れる商品がないから、景気が悪いからを理由にしている。その低次元な意識がさらに経営の悪化を加速している。リストラ対象が中高年になるのは若者より価値がないからである。

ソフト業界は日進月歩の技術革新で年齢が高いほど雇用機会が少なくなる。35歳定年説が長い間言われている所以である。しかし、高齢化、少子化、雇用の安定化を考えるなら中高年でも価値ある仕事できる環境や能力を備えなければならない。

製造業では商品が売れないことで商品の価値がないことを判断ができる。ソフト業界では工程での工数が変動し、工数が減少してきたときに、価値のない人材から外されていく。その時、人材の価値を判断できる。また、お客さんから営業マンに「来月でXXXさんの契約は終わります」と言われたとき、これほど致命的なことはない。最も価値のない人材ということになる。2通りの人材がいる会社は営業社員の多い、収益が上がらない会社ということになる。法人税を払わない会社は経営者に問題がある。法人税を払えない会社は社員に問題がある。利益を出し、法人税を国に収めるのは企業としての責務である。

ソフト業界で言えば、営業マンが少ない会社は価値のある社員が多く、価値のある仕事をしていることになる。逆も真で取引先を営業マンの数で選択するのも一つの方法である。価値ある人材で有り続けるためにはどうすればよいかである。

- (1) 積極的であること。
- (2) 年齢に応じた能力を保有すること。
- (3) 年齢に応じた資格を保有すること。
- (4) 何でも提案できるように日頃訓練すること。

囲碁、将棋界では段位やタイトルで棋士の価値が決まる。経験や年齢とは一切関係ない。棋士の価値は勝数で決まる。単純明快な世界である。勝負に勝つ棋士は他の棋士の倍以上の影の努力を惜しんでいないことを理解すべきである。当社では人材の価値を経験とか年齢ではなく単純に資格だけで決めた。これは資格取得に掛けた影の努力を正当に評価したに過ぎない。海外でも国内でも類を見ない人事システムであろう。この制度の賛否両論がある。しかし、他社はこれを導入していない。これは新しいビジネスモデルである。この制度を成功させるためには資格に裏づけされた能力と実力でお客様に「ありがとう」の言葉を頂けるようにする。社員は熱意と執念で仕事する必要がある。

4月3日(金) 「無人島研修8」

部屋に戻り、帰り支度のため、荷物を整理した。船の時間までのんびりと畳みに横渡りながら、煙草を吹かし、研修の意義を考えた。

今回集まった役職者は明るく、積極的で、洞察力、能力があり、強靱な精神力を持っている輩であったから、この旅が気を回すこともなく想像以上に楽しかった。

人間関係は意識しては作れない。作為しても作れない。自然発生的ことでの人間関係は作りやすい。仕事だけの人間関係はもろくて壊れやすい。遊びを通した人間関係は堅くて壊れにくい。お金を稼ぐ仕事では本音は出しにくい。遊びでは本音が出しやすい。そのような観点からこの研修企画は成功するだろうと確信した。「新人と先輩との交流での人間関係構築」を目的にした研修ならば、この企画は意義を持つ。このように整理した。

女将さんに宿泊代の清算とお礼しながら、また、再会を約束して、棧橋に向かい、客船に乗り込み、利島を後にした。

この後、2008年春、夏、秋、そして2009年の春の計4回、15名前後で「新人と先輩との交流での人間関係構築」の研修を実施した。大変効果があった。「人生で最も楽しかった」という社員もいた。

(完)

2004年11月15日 「生きる目的」

(地球の歴史)

- 137億年前：ビックバンが起こり、宇宙が誕生する。
- 46億年前：ガス状の原始太陽系星雲の中で固体粒子が集まって無数の微惑星となり、それらが合体と衝突を繰り返しながら原始地球となる。
- 44.5億年前：原始地球に天体が衝突し、地球と月が分離する。
- 44億年前：地殻の形成が始まる。
- 41億年前：地殻がほぼ固まってきて、陸と海が生まれる。
- 40億年前：原始の海の中で化学反応によってしだいに複雑な物質が作られ、生命の素材となるタンパク質や核酸が生まれる。

39億年前：最初の原始生命が誕生  
35億年前：光からエネルギーを吸収するバクテリアが登場  
27億年前：この前後から地球に強い磁場が出来、宇宙から降り注ぐ有害な粒子をさえぎるようになる。光合成を行うシアノバクテリア（ラン藻）が登場し、コロニーを作って酸素の放出を始める。  
23.5億年前：この前後しばらくの間、地球全体が氷に覆われ凍結する。  
22億年前：細胞に核を持つ真核生物の登場する。  
21億年前：大気中の酸素が増えてくる。  
12億年前：多細胞生物が登場する。  
7億年前：このころから、地球全体が凍結するほどの寒冷化と温暖化が繰り返し訪れる。（生物がコラーゲンを作る）  
6億年前：このころ寒冷化が収まって、温暖な気候が続いていく。このころからオゾン層が形成され、有害な紫外線をさえぎるようになるエディアカラ生物群と呼ばれる大型多細胞生物の出現、骨格を持つ動物も現れる。  
5億年前：魚類が出現する。  
4億年前：オゾン層の恩恵で魚類から両生類が分かれて陸へ上がる。  
3.5億年前：大森林が広がる。両生類から爬虫類が分化する。  
2.5億年前：海洋全体が極端な酸欠状態となる。史上最大規模の生物大量絶滅が起こる。  
2.4億年前：恐竜時代始まる。  
2.1億年前：生物の大量絶滅が起こる。  
2億年前：原始的な哺乳類登場  
1.7億年前：鳥類の出現  
1億年前：地球全体が温暖化、恐竜が全盛期を謳歌する。  
6500万年前：巨大隕石が地球に激突して恐竜が絶滅 ほかの生物も大量絶滅、霊長類が出現した。  
3800万年前：類人猿が出現した。  
400万年前：アウストラロピテクス等の猿人が出現した。  
160万年前：猿人（ホモ・エレクトゥス）が出現した。  
30万年前：旧人（ホモ・サピエンス）へと進化した。（人類史上初めて死者に花を添えるなどして弔う習慣ができた。）  
3万年前：新人（クロマニヨン）が出現した。  
1万年前：文明の始まり。  
2500年前：老子、孔子、仏陀誕生。  
2000年前：キリスト誕生  
現在：人類が全盛期を謳歌する。  
（未来）

50億年先：地球は赤色巨星の太陽に飲み込まれ、消滅する。  
1500億年先：閉じた宇宙は消滅する。

人類の体内では46億年の地球の歴史がある。生物が39億年前の気の遠くなる過去から生物は誕生⇒繁栄⇒絶滅を繰り返しながら進化してきた。我々の遺伝子は両親⇒祖父母⇒先祖⇒猿人⇒類人猿⇒哺乳類⇒魚類⇒多細胞生物⇒バクテリアと遡って受け継がれてきている。私達は奇跡的に生き残った生物として46億年前の地球誕生から生き続けていることになる。過去と未来が遺伝子により繋がっている。生物は困難と苦難と戦いながら進化をして来た歴史がある。遺伝子は生命の起源と生存の困難と苦難を記憶している。困難や苦難は生物を強い生命体に進化させたことになる。また、人生80年といわれるが、生命の誕生から言えば39億歳である。つまり親から誕生した瞬間が残り80年の余命ということになる。ここに存在する我々は39億年という途方も長い時間の旅をして来たのである。そして、誕生した瞬間から最後の旅をするのである。奇跡的な確率で存在している我々は安易な生き方をするのではなく、困難と苦難に向かう姿勢で最後の80年を生きなければならぬ。

生物は絶滅の危機を何度も潜り抜け生存してきた。生物は生きることを決して諦めなかった。我々も諦めないという知恵を持つ遺伝子を体内に持っている。我々は最後の最後まで諦めてはいけないのである。宇宙の法則に従って、生きなければならない。

私は「人間は何のために生きるのか」との素朴な疑問を持っていた。私はこの文章を考えながら、「生きることは何か」を感じた。多分、これが自分自身への回答で良いだろう。

2004年11月18日 「民主主義と勝手主義」

民主主義：デモクラシー（democracy）の日本語訳で、民主とは君主の対概念として人民（ないしは国民）が主権（支配の正統性および実際の政治権力の双方を含む）をもち、為政者と人民が同じ（治者と被治者の自同性）であるとする政治的な立場・原則。転じて、個人の人權（自由・平等・参政権など）を重んじながら、多数で物事を決める原則を民主主義と呼ぶ場合もある。単純な多数決と混同されることが多いが、多数決が単に多数であることに正当性の根拠を求めるのに対し、民主主義は最終的には多数決によっても、その意思決定の前提として多様な意見を持つ者同士の互譲も含む理性的対話が求められる点でこれと区別される。

民主主義の起源は古代ギリシャの都市国家（ポリス）にあるとされ、古典ギリシャ語のデモス（demos、人民）とクラティア（kratia、権力・支配）をあわせたデモクラティア（demokratia）がデモクラシーの語源である。しかし古代ギリシャの民主主義は各ポリスに限定された「自由市民」にのみ参政権を認めたただけのものであった。例えば女性や奴隷は自由市民とは認められず、またギリシャ人であっても他のポリスからの移住者には市民権が与えられることは少なかった。



利己主義：社会や他人のことを考えず、自分の利益や快樂だけを追求する考え方。また、他人の迷惑を考えずわがまま勝手に振る舞うやり方、エゴイズム。

日本の議会制民主主義は政党間や政治家の利己主義的議論に終始しているように感があり、如何にも弁論大会である。そこには主権である国民の考えることを代弁しているとは思えない。

国民も政治には興味がない。過去の選挙の投票率で分る。選挙に行かないのも自由であると身勝手である。しかし、家の前の道路が壊れたら、早く補修しろとかその他いろんな苦情を行政にいう。強く権利は主張する。勝手主義である。

犯罪が多くなっているのも、現法が軽い刑罰であるからである。被害者の立場を考えると厳しい刑罰にすべきである。犯罪は究極の身勝手な行為であり、これを抑制せきないのは法律に問題があると思う。

労働に関しても同じである。自分達の価値を測定しないで、賃上げ要求する労働組合は滑稽である。個人事業主が減少し、創業する人が少なく、後継者に悩む会社が多くなっている。経営は経営資源の調整であり、経営者は多様な意見を汲み取り、最終決断をしなければならない、骨が折れる立場である。さらに経営環境の高度化・複雑化している状況で苦勞をしてまで経営者になりたいと思う人が少ないのだろう。企業経営者は民主主義を実践しているような気がする。

人は常に相手の立場や意見を理解して、お互いに譲歩できることが譲歩する姿勢が必要である。

#### 4月6日（月） 「錦を飾る」

数年前、東京都内で高校の同窓会があったので、参加した。30年弱ぶりの再会である。皆その当時の面影を残していたがすっかりと老けていた。浦島太郎ではないが、その変化に驚いた。逆も真で心の中では互いに老けたなと思っていたかもしれない。

歳月は互いの共通する話題を少なくするのか、俳優の役所広司の話題ばかりであった。なぜ、役所公司の話が共通の話題になっていたかというと同窓会に集まっていた多くが諫早中学校出身者で役所広司（本名：橋本公司 1956年1月1日生まれ）と同級生だったからである。彼との中学校時代の思い出に華を咲かせていたのである。私はこのとき初めて役所公司が同級生と知った。橋本公司？今でも思い出せない。実家にある中学時代のアルバムを見れば思い出せるかもしれない。

昨年、オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の発見でノーベル化学賞を受賞した下村脩博士が3月19日に母校（諫早高校）にご夫妻で来校されたとのニュースを高校のHPで見た。そのニュースを見て、私とはまったくかわりのない人物なのに同窓の先輩というだけで嬉しくなった。なぜだろう。

私達の心の中にいつでも故郷がある。その故郷には両親、親戚、友達と育った風土がある。意識しなくてもその故郷に愛着とか誇りとかを持っている。だから、故郷の自慢は自

分の自慢にもなるのである。他人から故郷の悪口を言われると喧嘩するのは当然なのである。

「故郷へ錦を飾る」という言葉がある。これは故郷を離れていた者が立身出世して晴れがましく故郷へ帰ることである。下村脩博士などが故郷の母校に来ることは故郷の人々には羨ましくも誇らしいものである。逆に立場で考えると努力と苦勞を重ねて立身出世した人にはより故郷は暖かいものであることを誰よりも知っていると思う。

努力と苦勞を重ねて故郷へ錦を飾る人になりたいものである。

#### 2004年11月20日 「寛容」

寛容とは心が広くて、よく人の言動を受け入れること。他の罪や欠点などをきびしく責めないことである。

企業間取引は長期的に友好関係を築いて相互に繁栄するのが望ましい姿です。しかし、取引会社の中には自分の利益しか考えない又は自分の事しか考えない発注者がいます。取引をお願いした経緯もあり、姿勢を低くした気持ちで取引を続けていましたがそのような経営上の我慢が社員の気力に陰りを見せ、退職に繋がったケースがありました。取引会社が増え、相手の立場を尊重しない思いやりのない企業との取引は縮小させていきたい。私の顔も三度まで、寛容も終わりにしたいと思います。来年度中にはそのような取引を完全に終了させます。相手の立場を尊重する会社との取引を拡大する「選択と集中」を行いたいと思います。

#### 2004年11月21日 「常識」

常識とは一般の社会人が共通にもつ、またもつべき普通の知識・意見や判断力である。

天動説は、すべての天体が地球の周りを公転しているという学説のこと。2世紀にクラウディオス・プトレマイオスによって体系化された。地動説とは、地球が動いている、という学説のこと。ニコラウス・コペルニクスが唱えた。

ローマ法王のもとキリスト教が盛ん頃、地球（人間世界）が宇宙の中心であることが絶対の真実であったため、地球が動いているという考えはタブーだった。地動説を唱え続けたガリレオ・ガリレイは宗教裁判により、その説を放棄することを強要されてしまった。しかし、ガリレオは「…それでも地球は動いている…」と呟いた。世の中にある現状の常識が正しいとは限らない。

常識にとらわれない発想をするためには大自然の摂理を考えるようにしている。私達は高度な知能を持つ動物である。しかし、人間も自然界に存在する生物の一つに過ぎない。植物や動物の営みや自然の仕組みを考えながら、人間社会を見つめると自然界とは違う常識を発見することがある。私はそれを非常識と考える。例えば、人間社会には弱者と強者が存在するように言われている。しかし、自然界には弱者も強者も存在しない。食物連鎖と強い生命継承の維持活動が存在するだけである。

当社と一般中小企業の常識の違い。

- (1) 当社は創業以来すべての期で黒字決算である。
  - (2) 当社は不況下の中、創業以来、年30%以上の成長を継続し、今期も30%の成長が見込める。
  - (3) 銀行からの長期融資と同じ額の現金預金がある。
  - (4) 生命保険の掛け金の合計が既に1000万円以上あり、会計上に乗らない資金が600万円以上ある。その金は生命保険会社からいつでも引き出せる。
  - (5) 中小企業であるが都銀・地銀の貸付金利（年利2%前後）はプライムレート（優良企業貸付金利）である。
  - (6) 今すぐでもプライムレートで数億円の融資を受けられる信用力がある。また、今すぐでもヘラクレスやナスダックに上場できる価値と実力があると来社した監査法人の公認会計士は上場を催促する。
  - (7) 非常に社員教育を重視している。技術研修以外でも話し方教室に参加させ、人間の資質を向上させる工夫をしている。
  - (8) 新しい人事システムを提案している。
  - (9) 営業社員が一人でほとんど営業しないが受注残は沢山ある。現在取引していないが取引可能企業（潜在取引企業）は多数ある。
  - (10) 中小企業だが東京大学やテレワーク協会など知的活動を行っている。また、異業種と新会社を設立し、新規事業の創成に挑戦している。
  - (11) 顧問弁護士、顧問税理士、顧問社労士の専門家を抱えているので専門的事案に対する相談がすぐ出来る。
  - (12) 下請け根性で仕事をしない。
  - (13) 中途採用でリクナビの人気ランキングが優良上場企業と肩を並べている。他社に比べ人材確保は容易である。リクルートの代理店も不可思議に思っている。
  - (14) 今年だけでも次のような新しい取組を行っている。ワーキンググループの活動、プライバシーマーク取得、個人情報漏洩保険加入調査、論文作成・採録、松下幸之助の一言開始、ITスキル標準の参加などがある。
- この事実を社員はどのように認識しているか分らないが極めて可能性のある企業と専門化の一致した意見である。社員は長期的視点で言動するほうが徳なような気がすると思う。
- 兎に角、新しいことや斬新な企画を考え、実践していく。中小企業だからとかどうか、政治家、官僚、大会社の役員と名刺交換してもなるべく名刺の肩書きを意識しないように、その人物の本質を見るように心している。自分の存在を自然の法則に従い表現するように心がけている。
- 新しいこと・面白いこと・馬鹿馬鹿しいことがないかなと24時間考えている。また、そのようなことで常識にとらわれない視点でニュースを読み、世の中の出来事や風景を見

たりしている。

4月7日（火）「虫の知らせ」

「虫の知らせ」とはよくないことが起こりそうであると感じること。虫の知らせは非科学的な言葉である。

NTTは1987年2月9日に株式公開した。株式公開前に個人も応募抽選で当たった人は株を購入することができた。その時の価格がいくらか覚えていないが110万円強であったと思う。私もNTT株を1株持っていた。翌10日に160万円の初値がつき、2ヶ月後に史上最高値の318万円まで高騰したエピソードは、バブル景気の象徴として語り継がれている。株価が300万円を超えたとき、証券会社に売りたいと話したがもっと上がるからと売らしてくれなかったことを記憶している。担当者が部下の友人でもあり、彼の顔を立てた。

1987年10月16日（金）、私は証券会社に「成行」で1株保有していたNTT株を売るように電話を入れた。証券会社から298万円で売れたとの連絡があった。

休み明けの月曜日、仕事をしていると何処からか株価が大暴落したとの話が聞こえてきた。NTT株を売っていたのであまり気にならなかった。家に帰ってから、そのニュースをテレビで見て非常に驚いた。10月19日（月）、ニューヨーク株式市場が過去最大規模の暴落を起こした。ダウ30種平均の終値が前週末より508ドルも下がり、この時の下落率22.6%は、世界恐慌の引き金となった1929年の暗黒の木曜日（ブラック・サザデー）（下落率12.8%）を上回った。これに連鎖して日経平均株価は3836.48円安（14.90%）の21910.08円と過去最大の暴落を起こした。史上最大規模の世界的株価の暴落でブラックマンデーと呼ばれている。しかし、その前日の金曜日になぜ売ったのか特段の理由がなかった。今でも不可思議なこととして記憶に残っている。

元の会社での話である。1987年夏頃、景気は大変良く、仕事案件は沢山あった。メーカの課長に足を運んだら、隣の課長にもあるよ。営業が大変楽な時代であった。歴史的には昭和62年からバブル景気（平成景気）が始まったとされている。その頃、元の会社は通信メーカ2社で100%の売上高であった。部課長会で発言する営業職の強気に違和と危険な匂いを感じた。春咲く花が秋に咲くようなもので、何か不吉な兆候であろうと思った。通信メーカ2社で100%の売上高は大変危険である。多くの企業と取引しないと将来大変なことが起きる。だから、今から新規取引しないと間に合わないとして社長を2時間説得して、何とか新規開拓の承諾を取り付けた。2年後の1989年頃には企業別売上の分散ができていた。1989年12月29日に日経平均は38915円87銭の高値を記録した後、年明けに株価は大暴落して、バブル景気は終わった。私の違和感からの言動が元の会社を救ったかどうか分らないが、私は不吉な前兆を感じたことは事実である。

受注案件が多数あって、採用が難しかった2008年4月、東京都の電子入札に参加できるように準備を進めることを社員に指示した。4月30日に帝国データバンクに電子入

札のための認証登録料を振込んでいた。その後、少しずつ、手続きを進めていた。東京都からCランクの入札が出来る通知が来た。入札できる状態まで進めた。10月から世界同時不況となった。取引先からの作業案件がなくなった。12月東京都の入札に参加した。応札するが落札できない。同時に国の各省庁に入札できるようにしておきなさいと指示した。1月に再度東京都の入札に参加した。最低価格応札するが落札できない。最低価格方式での入札は非常に難しい。かなりの赤字覚悟で入札価格を決めなければならない。東京都の「病原体管理システムの設計開発委託」を平成21年1月23日 13時39分に147万円で落札した。2ヶ月の作業で3月31日納品であった。受注したのだから税金の無駄使いにならないように良い製品を作れと指示した。結局2月と3月で各15名の投入となった。合計30人月を要した大仕事になった。満足できる製品を無事納品できたが147万円に30人月とはと嘆いた。良い経験になった。その後、東京都の案件は少ないから当社ができるような入札案件は見つかっていない。

次に国の入札案件を探し、3月から経済産業省の2案件を見つけ、検討を進めた。4月2日に応札し、3日に結果が分かった。2案件の内、1案件を落札した。このような方法で力を付けてなければ、生き残れない。

過去に何気なく行ったことが現在の状況を分析して幸運をもたらしたと思ったとき、根拠のない「虫の知らせ」があったと言うのであろう。この3つの事例のみ言えば間に合ったという幸運を否定できない。創業してから、紙一重の危機は幾つも体験してきた。虫が知らせてくれて運が良かった。

#### 2004年11月22日 「失敗に学ぶ」

私は創業してから弁解したことはない。簡単である。弁解する相手がいない。結構寂しい。

私に問題があったり、失敗したりしたとき、徹底的に問題や失敗の原因や本質を調べ、二度と同じ失敗を繰り返さないように完璧と思うくらい改善する。問題を解決するプロセスで新しい出会いや新しい発見が生まれる。その問題に対して抗体が生まれ、類質な問題もすぐに解決できるようになる。問題や失敗の真の原因を抜本から解決しないと次はもっと大きな問題や失敗に繋がることを理解する必要がある。

失敗をしない人には成功はない。成功する人は沢山の失敗を経験する。失敗を恐れる人は夢や希望を持っていない。失敗を恐れない人は夢や希望を持っている。

#### 2004年11月23日 「労働の本質」

仕事（労働）を通じて喜びや遣り甲斐を感じたときはどんな時かと聞かれたら、皆さんはどのように答えるでしょうか？大多数の人が「感謝されたとき」、「褒められたとき」と答えるでしょう。感謝されたとき・褒められたときに自分自身や仕事に自信が付き、もっと努力しようと思う。労働の喜びは金銭的満足もあるが、それ以上に精神的な満足に繋が

る。当社の理念は労働の本質を実現するものであることを理解してもらいたい。